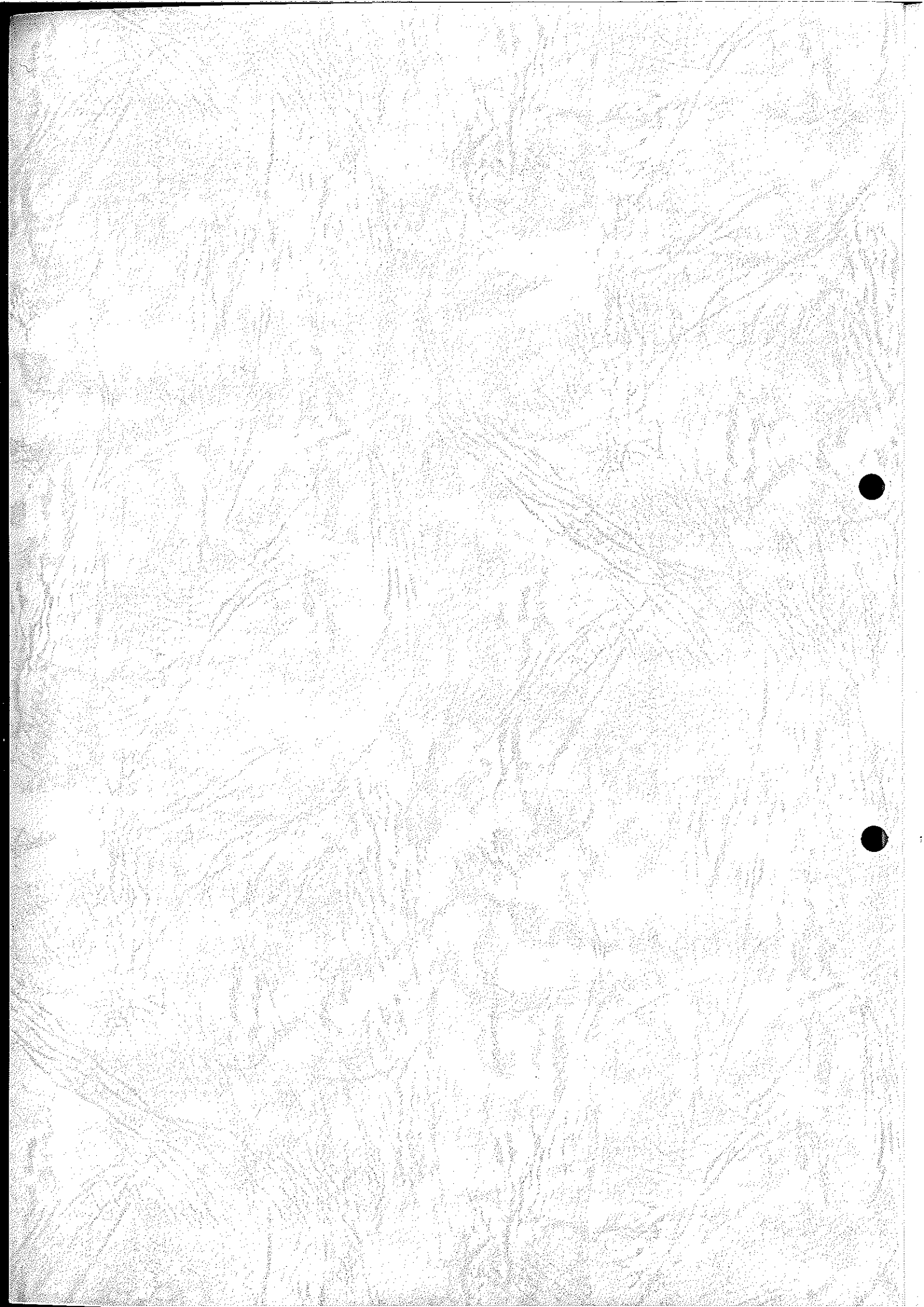




# 地域通貨実験支援事業 報告書



生活復興県民ネット



## はじめに

未曾有の被害をもたらした阪神・淡路大震災から7年余の歳月が経過しました。私たちは、震災からの復旧・復興過程を通じて、人と人との結びつきを基盤とした地域社会における助け合いの大切さを再認識し、今も、被災地において、あの時の経験を活かし、地域住民自らの手により様々なコミュニティづくりの取組みを展開しております。

本報告書で取りあげている地域通貨は、その取組みのひとつではありますが、被災地以外でも幅広く取り組まれており、その数は、日本国内において150以上もあると言われております。地域通貨に取り組む目的は、地域住民の助け合い、地域経済の活性化、環境重視のライフスタイルの確立など様々ですが、自分たちのコミュニティをより豊かなものにしたいといった点では全て共通したものがあると思います。

生活復興県民ネットでは、平成13年度、コミュニティづくりにおいて地域通貨のもつ意義や可能性を探ろうと「地域通貨実験支援事業」を実施いたしました。地域通貨に取り組もうとするグループ・団体に対する助成制度をはじめ、地域通貨について理解を深めていただく場として公開フォーラムを開催し、生活復興NPO情報プラザに「地域通貨関連書籍コーナー」を設置するなど、様々な支援を行ってまいりました。

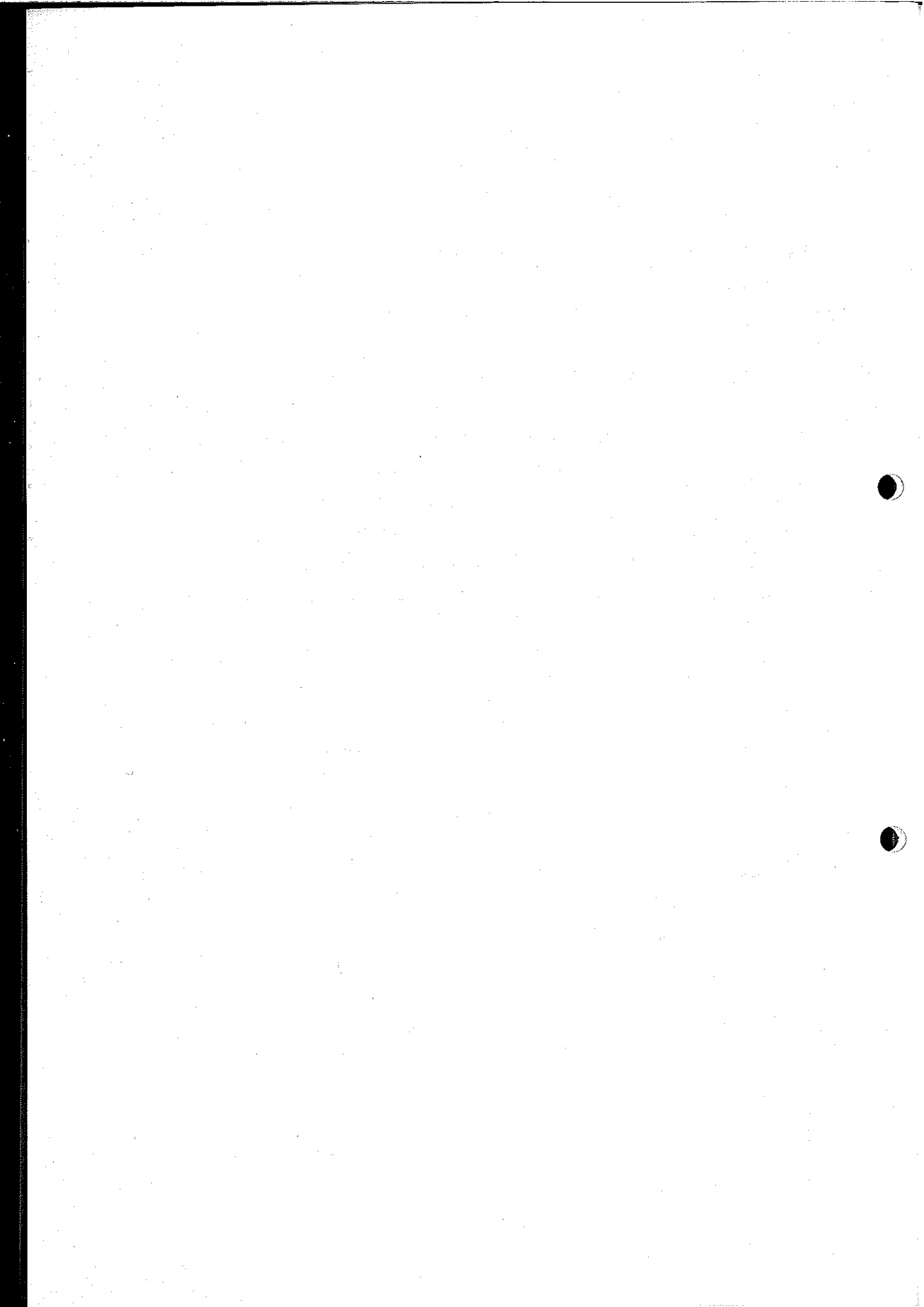
このたび作成いたしました「地域通貨実験支援事業報告書」には、助成制度を活用し、地域通貨の実験に取り組んだ5グループ・団体の取組み内容や、これまでに開催した公開フォーラム等の概要、また、巻末には兵庫県内における地域通貨の取組み事例や地域通貨関連図書の一覧なども掲載いたしました。

この報告書が、地域通貨に取り組まれている、あるいはこれから地域通貨に取り組もうとされている皆さま方の参考になれば幸甚に思います。

最後になりましたが、地域通貨実験支援事業の事業推進にあたり、貴重なご意見やお力添えをいただいた小西康生神戸大学教授をはじめ、地域通貨実験支援事業ワーキングチームの方々、また地域通貨の実践者の立場から貴重なご意見をいただきましたアドバイザーの方々、その他ご協力をいただきました多くの方々に対して、心からお礼を申し上げます。

平成14年3月

生活復興県民ネット代表 新野 幸次郎



# 目 次

## はじめに

### 第1章 地域通貨の意義と可能性

地域通貨の意義と可能性 .....	7
-------------------	---

### 第2章 地域通貨の実験的取組み

1 地域通貨実験支援事業の概要 .....	15
2 地域通貨実験運営費助成の概要 .....	17
3 助成グループ・団体一覧表 .....	19

### 第3章 地域通貨実験運営費助成グループ・団体の取組み

1 西須磨まちづくり懇談会の取組み .....	23
・活動の様子	
・地域通貨「れい」	
・規約	
・サービスリスト	
2 お米の勉強会の取組み .....	33
・活動の様子	
・地域通貨「石（こく）」	
・サービスリスト	
3 プラザ5の取組み .....	41
・活動の様子	
・地域通貨「ミクラン」	
・規約	
・サービスリスト	
4 在宅福祉支援グループ・コスモスの取組み .....	47
・活動の様子	
・地域通貨「楽（らく）」	
・規約	
・サービスリスト	
・参加事業所・商店一覧表	
5 農・都共生ネットこうべの取組み .....	55
・活動の様子	

- ・地域通貨「こおみ」
- ・使い方表
- ・サービスリスト

#### 第4章 公開フォーラム等開催記録

1	地域通貨フォーラム .....	63
2	第1回地域通貨意見交換会 .....	79
3	第2回地域通貨意見交換会 .....	85
4	第3回地域通貨意見交換会 .....	89
5	地域通貨実験支援事業公開報告会 .....	97

#### (資料1) 兵庫県における地域通貨の取組み事例

1	かもん .....	109
2	らく .....	110
3	アスタ .....	111
4	ZUKA .....	112
5	RIVA (りば) .....	113
6	千姫 (せんひめ) .....	114
7	未杜 (みと) .....	115
8	シルク .....	116

#### (資料2) 地域通貨関連図書

地域通貨関連図書一覧表 .....	119
-------------------	-----

# 第 1 章

## 地域通貨の意義と可能性



THE UNIVERSITY OF CHICAGO

PHYSICS DEPARTMENT

5720 S. UNIVERSITY AVENUE

CHICAGO, ILLINOIS 60637

TEL: 773-936-3700

FAX: 773-936-3701

WWW: WWW.PHYSICS.UCHICAGO.EDU

WWW: WWW.PHYSICS.UCHICAGO.EDU

PHYSICS 309

LECTURE 1

LECTURE 2

LECTURE 3

LECTURE 4

LECTURE 5

LECTURE 6

LECTURE 7

LECTURE 8

LECTURE 9

LECTURE 10

LECTURE 11

LECTURE 12

LECTURE 13

LECTURE 14

LECTURE 15

LECTURE 16

LECTURE 17

LECTURE 18

LECTURE 19

LECTURE 20

LECTURE 21

LECTURE 22

LECTURE 23

LECTURE 24



# 地域通貨の意義と可能性

神戸大学経済経営研究所教授

小西康生

## 1 はじめに

1990年代以降に、先進国の多くで、その地域コミュニティにおいて自然的社会的環境に関するさまざまな課題が深刻になってきた。これらに対処するツールとして地域通貨システムの活用が多くの地域で取り組まれるようになってきている。

海外では1990年初頭から、わが国では1999年頃から急に盛んになってきた。わが国では、現在、150程のシステムが試みられているとも言われているが、その実数は定かではない。さらに、その大半は未だに実験段階にあり、本格的な稼働の状態に進んでいるものは極めて少ないというのが実態である。

ここでも多くの例に倣って、local currency を地域通貨と訳出して使用しているが、ここでの local は global に対応したものであり、必ずしも地理的な要素が含まれているわけではない。流通範囲を地理的な要件によって限定したシステムもあるが、どちらかというとなようなシステムは稀である。そこで、これまでも用いたことがある域内通貨などといっても十分ではなく、閩内通貨というのが限られたメンバー間といった意味が良く伝わるのかもしれない。さらに、もっと簡単には内部通貨と呼ぶこともできよう。なお、歴史的には1980年以前から世界各地で取組みは行われてきたが、それ以前のもは地域通貨というよりも、緊急通貨、補完通貨、スタンプ付き貨幣などと呼ばれていたようである。

経済学の社会では、一物一価を前提として理論の展開が行われている。ところが、地域通貨を使った相対取引では文字通り一物多価の社会が実現される。つまり、これまでの理論では対処しきれない社会である。

生活復興県民ネットでは、平成13年度後半に阪神・淡路大震災の被災地におけるこのような地域通貨の実験的取組みに助成をすることになった。その事業に当初からかかわってきたので、この間の経験を振り返り、次の展開への可能性を簡単にとりまとめることにした。それに先立って、地域通貨の全般的な様相を概観することから始めることにする。

## 2 地域通貨の意義

現在の地域通貨への関心は、①衰退してきたコミュニティ機能の再生という community-oriented なものと、②地域経済の振興といった market-oriented なものに由来すると大別される。どちらかという、英国では前者であるのに対してカナダでは後者であるといわれている。英国では、システムの運営者から community spirit を再生するにはビジネスは不要であるとの意見も聞かされた。

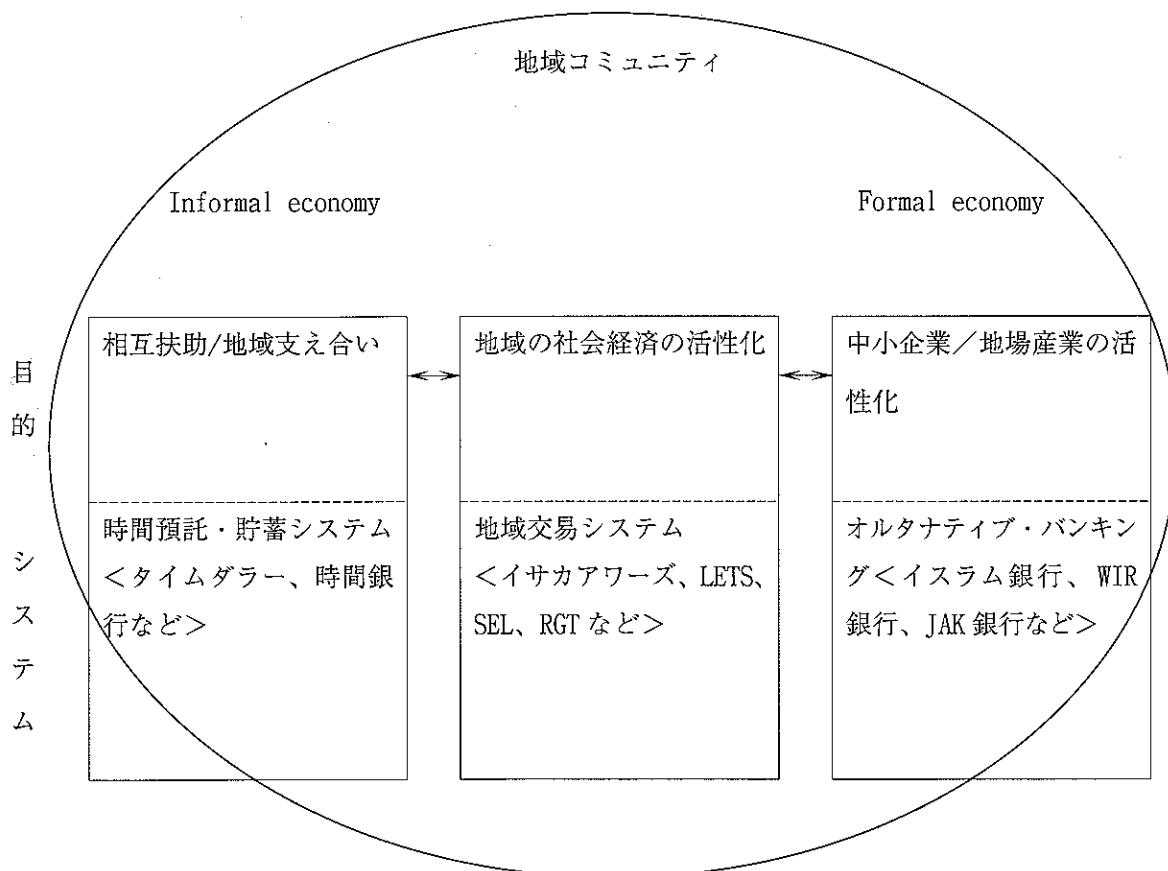
地域通貨の目的として目指しているものには次のような点が考えられる。

- ① 貨幣の特定地域内の循環による失業対策・地域振興
- ② 環境、福祉などの特定分野に関するコミュニティの創造
- ③ ボランティア活動の活性化などシャドウ・ワークの顕在化

第1図のように、地域通貨を含めたさまざまな地域コミュニティでのオルタナティブな金融貨幣の取組

みはその目的別に大きく3つに分けることができる。働きかける領域（つまりインフォーマルな領域からフォーマルな領域まで）と、それぞれ時間預託・貯蓄システム、地域交易システム、オルタナティブ・バンキングシステムが対応する。これらの制度はその基盤として連帯、信頼、信用があると考えられる。それぞれ時間預託・貯蓄システムは人と人との助け合いや相互扶助の形態をとる専らインフォーマルな領域で機能するものであり、地域交易システムはモノ、サービスの相対取引を通じて地域振興を目指すインフォーマルとフォーマルな領域の間で有効に機能するシステムであり、オルタナティブ・バンキングシステムは地域の事業者（ビジネス）を活性化させることを目的とするものである。

第1図 地域におけるオルタナティブな金融・貨幣制度



出所：泉 留維 『地域通貨の役割と日本における進展』  
日本NPO学会機関誌 DEC. 2001 に加筆

### 3 地域通貨の歴史的展開

地域通貨に対する取組みは別に最近に始まったものではない。地域通貨システムをどのように捉えるかで、歴史的にどこまでさかのぼるのかは限定されてくる。たとえば、地域通貨が存在するシステムを並行（あるいは複数）通貨制度と考えると、わが国でも藩札が流通していた江戸時代のいくつかの藩にまでその類似性を見ることができる。事実、最近の地域通貨システムでも、1998年にカナダのトロントで始まったトロントダラーは現代風藩札とも言われている。

さまざまな財、サービスのグループ内交換システムの中で、代表的ないわゆる地域通貨システムの変遷が第1表にとりまとめている。

第1表 代表的な地域通貨の歴史（1800～）

年代	地域通貨の種類及び関連事象	国及び地域	発行主体
1816-	ナポレオン戦争で悪影響を受けたチャネル諸島のガーンジー島で、建物や水路等を修理するために利子の付かない紙幣が独自に発行された。	イギリス（ガーンジー島）	地方政府
1832-34	Robert Owenによって「労働証書（Labour Notes）」が発行される。	イギリス（ロンドン、バーミンガム）	民間団体
1930-31	ババリア地方でライヒスマルクの代わりに、石炭に換えることができる「Wara」と呼ばれる地域通貨が使用される。	ドイツ	民間団体及び私企業
1930-33	400以上の都市、数千のコミュニティで「スタンプ付き貨幣」が発行される。	アメリカ	地方政府
1931-	Christian Christiansenが提案した土地、労働、資本の頭文字をとった無利子の貯蓄と融資システムをもつJAK銀行設立	デンマーク スウェーデン	民間団体
1932-33	オーストリアのヴェルグルで、労働を対価としてヴェルグル労働証明書が発行される。同様の方式が200以上のコミュニティで採用される。	オーストリア	地方政府
1934-	Werner Zimmermannと Paul Enz によって、補完通貨「WIR」が発行される。（36年に銀行法に基づくWIR銀行設立。現在に至る。）	スイス（チューリッヒなど）	銀行
1972-73	経済学者 Ralph Borsodi によってマサチューセッツ州の Exeter で、地域通貨の実験始まる。30の商品からなるバスケットに基づいた「Constants」がコミュニティ内で発行される。	アメリカ	民間団体
1983-	Michael Lintonによって、「green dollar」を使用する LETS が始まる。	カナダ（バンクーバー島）	民間団体
1985-	イギリスで LETS の導入が始まる。（これ以降世界各地に広がっていき、そしてオーストラリア（1987-）、フランス（1994-）などで導入される。イギリスで本格的に導入されたのは92年から。）	イギリスなど	個人
1987-	Dr. Edgar Cahnによって、1980年から実験されてきた「Time Dollar」が本格的に各地で導入される。（当初は6つの都市で導入される。）	アメリカ	個人
1989-	Borsodiを助けていたRobert Swannが、マサチューセッツ州で「Deli Dollar」を発行する。	アメリカ	民間団体
1991-	Paul Gloverがニューヨーク州のイサカ市で地域通貨「Ithaca HOURS」のシステムを起動する。	アメリカ	民間団体
1995-	アルゼンチンでバーター取引のネット化が進みクレジット「TRUEQUE」を使った取引「RGU」が始まる。	アルゼンチン ウルグアイ チリ・スペイン	民間団体
1996-	メキシコで、紙券を使用する LETS 型システム「TLALOC」が始まる。	メキシコ	個人
1998-	カナダのトロント市で、LETSを改変し、より市場経済志向であると同時にコミュニティ活性化志向の地域通貨「Tronto Dollar」が発行される。	カナダ（トロント）	民間団体

出所：泉 留維 『地域通貨の役割と日本における進展』 日本NPO学会機関誌 DEC.2001に加筆

#### 4 わが国の地域通貨

わが国で取り組まれている著名な地域通貨システムをそれぞれの元になっているシステムとの関係で示すと、第2図のようになる。これによって現在のシステムが主としてどのような点に焦点を置いて取り組んでいるかが明らかになる。

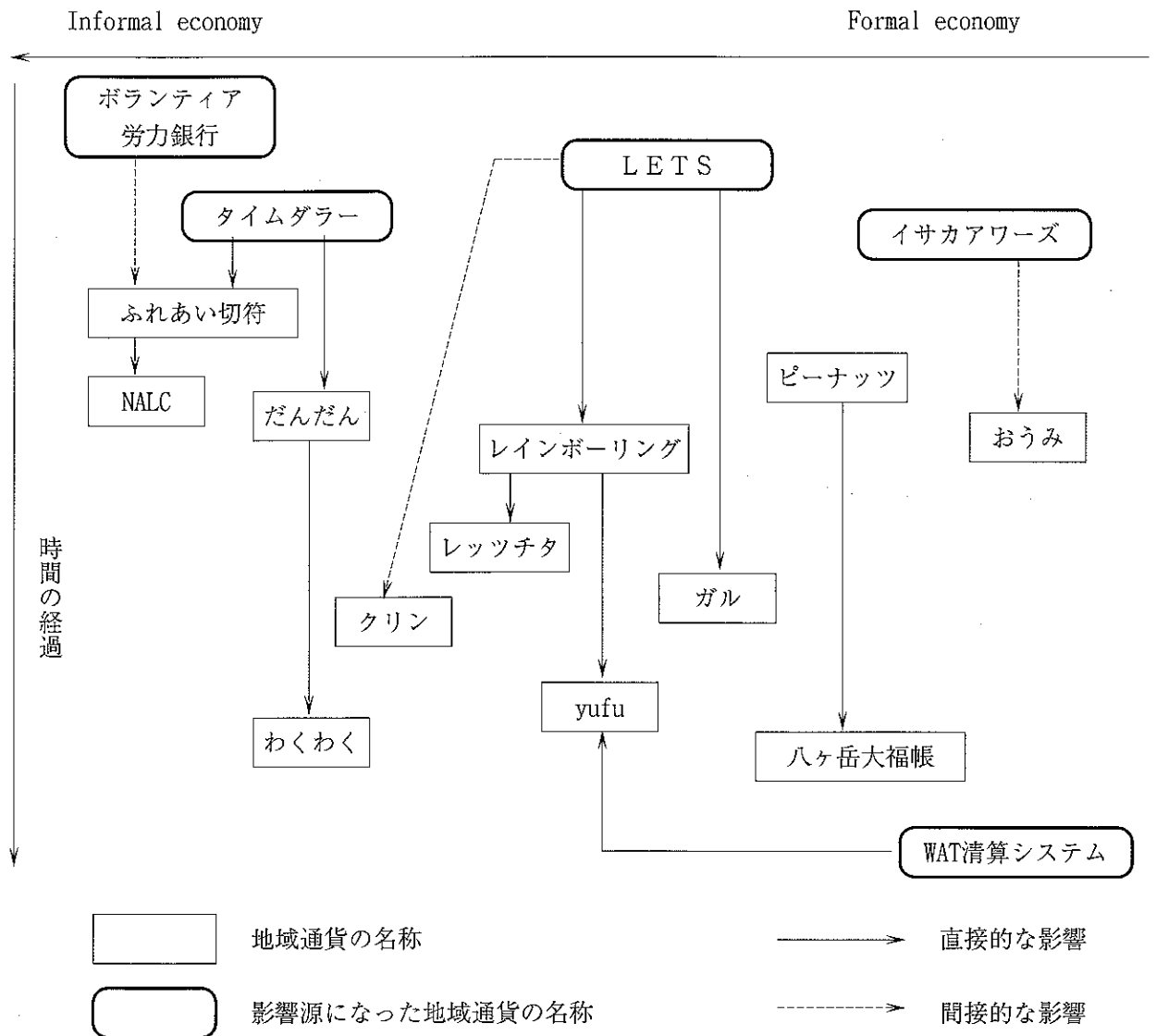
海外の地域通貨の状況と比較すると、わが国の取組みは次のような特色が見られる。

- ① 多様なタイプの地域通貨システムが一斉に出現している。
- ② 海外のシステムと比較して実験期間が長期にわたる

第1のものは、わが国地域の抱える課題が多様であることを反映しているものかもしれない。多様な課題に対して多様な対応が可能であり、それを実現できるような保障が不可欠である。これは同一の名称の元に展開されるシステムであっても同様に備えていなければならない要件であろう。しかし、上述のシステムの中には、地域における多様性を必ずしも容認しないようなものが見受けられる。

実験期間については、多くの地域通貨の元になっている LETS の紹介をした文献では数人の創設メンバー

第2図 わが国の地域通貨システムの系統



出所：泉 留維 『地域通貨の役割と日本における進展』  
日本NPO学会機関誌 DEC. 2001

がいて、半日でスタート出来るとしている。これに比較して、日本で取り組まれているシステムでは何段階にもわたる実験が繰り返されて、一向に本格的な運用に進展していない。このような相違はいくつかの理由が考えられるが、一つには公的なセクターとの関係が指摘されよう。運用についての資金援助だけでなく、公的セクターの人的援助や情報提供によって確実な成果を追求しすぎているのではなかろうか。これは地域通貨システムに取り組もうとする人たちの意識と言うよりむしろ支援をする公的セクターのより強い要請のように思われる。

また、いわゆるエコマネーを展開しようとしているグループでは、あるべきエコマネーのスタイルを堅持するように求められるというのも本格的な運用への助走を長くしているのかもしれない。

さらに、さまざまな支援を行う公的セクターの意識だけにはとどまらない。社会的に return match が許されないような仕組みが大いに影響している。失敗を容認し、それを更なる飛躍への糧と出来る社会的な仕組みが必要であろう。

## 5 地域通貨実証実験

今回の実証実験については、当初は予定していた件数の応募が無かった。これは今年度の応募条件として、3ヶ月の実験期とか阪神・淡路大震災の被災地である10市10町内での取組みに限ったことにも因ると思われる。その後、実験期間など応募要件を幾分は緩和し、最終的には5件のグループに支援することになった。1つのグループ以外では地域通貨に対してはゼロからの取組みであった。準備期間が短期であるにもかかわらず、ある程度の参加者を確保し、実験に取り組まれたことを評価したい。

兵庫県下では、これらの実証実験に取り組んだ5つのグループを含めて、13の取組みが試みられていると報告されている。しかし、わが国の他地域と同様に、中には既に本格的な段階に入っているものもあるが、大半は未だに実験を繰り返している状況にある。

5つのグループは、今回の実験を通じて得られた課題を整理して、次の段階へ進もうと考えられているようである。

実験に対する支援もさることながら、本格的な運用をサポートする対策も検討すべきであろう。具体的には、地域通貨システムについてはアドバイザーの派遣や常設の相談窓口の設置が効果が期待できよう。アドバイザーとしては、先行事例の関係者、研究者そして行政担当者が適任であろう。グループの課題の明確化とそれに対処する可能なメニューのアドバイスなどを行う。運用はあくまで参加者の自主性に委ね、たとえ失敗しても次の取組みに対しても支援するといった保障が重要である。

ただし、地域通貨の取組みが成果を挙げる要件は時間的な経緯の中で行う必要がある。オーストラリアの事例に見るように、規模が拡大し順調に展開しているように見えたシステムも破綻するのであるから、軽々にこれに結論を出すことは躊躇せざるを得ない。

そこで、暫定的な指摘に留まらざるを得ないが、グループの構成員とシステムを展開するコミュニティに分けてその性質を鳥瞰することにする。

グループの構成員としてはディレクターとメンバーとに分けて考えることにする。ディレクターあるいはリーダーとも呼んでもいいと思われるが、彼らあるいは彼女らがメンバーからある種の信頼を得ることが重要である。既に、そのコミュニティの中で活動をしていて、それらに対して評価が行われていることが求められる。わが国の例で見ると、当人あるいはその家族が何らかの公的な職種に就いていたとか

長期にわたり当該地域に居住するなど活動の場を持っていた場合には信頼が得られやすいようである。メンバーにこの活動に熱心な人が必要ではあるが、リーダーを実質的にサポートするコアメンバーには高い意識とそれを行動に移せる自由になる時間の確保が不可欠である。

活動を展開する場としてのコミュニティは、構成員の関係が極めて濃密であると必ずしもこのようなシステムは必要とはしないし、関係がほとんどない場合には成立しがたいようである。最も効率的に展開されるのは、顔は知ってはいるが言葉を交わしたことがないといったケースであろう。先の関係がほとんどないケースでは、しっかりしたリーダーが地域通貨を媒介にして構成員間の交流を図ろうとすれば可能な場合もあろう。

地域通貨システムの規約が策定されていないグループもあったが、これはグループのアイデンティティを明確にし、グループ内の共通認識を助長し、新規メンバーを募るためにグループ外へのPRにも不可欠である。

また、あるグループでは当面利用可能な資源を元にシステムを運営しようとしているものがあつたが、システムの継続性のためにはこのようなやり方は適切ではない。システム運用の資源はシステム内で確保できる仕組みを検討し、それによって自己組織化を目指すべきである。

実際に地域通貨システムを運用するにあたって大福帳、紙幣、パソコンなどが使われていることが多いが、最近の事情を勘案すると携帯電話が簡便なツールになりうる。IT関連の技術進歩は目覚ましいので、これからも新しいツールの開発が続発するであろうが、これらを積極的に活用することも肝要である。

## 6 おわりに

金融システムは人間が創り出したルールである。創り出したルールであれば、不備があれば、手続きを経て変更することも可能である。この点に関連して、何度も実験を繰り返すよりも、まず本格的運用を進めて、不備があればそこで修正するといったアプローチをとる方が望ましいのではなからうか。いくら実験を繰り返しても、完全なシステムに到達できると考えるべきではないだろう。どのシステムも変化していくものであると考えるべきで、それが成長・発展していくとすればそれを喜ばよきことなのである。

各地の実験報告や先進事例に対して寄せられた質問への回答に、実験に参加したメンバーは善意の持ち主であり、システムを悪用するような暇人はいないといったものがある。しかし、わが国だけではなく、もっと広く先行事例をあたってみると、順調に行っていたシステムがトラブルに巻き込まれたのは意図的な悪用者によるものがあることに気がつくはずである。善意を前提にシステムを展開することには異論は無いが、トラブルを事前に回避する準備はぜひとも必要であろう。

特定の地域をとってみても何も1種類のシステムしか存在し得ないのではない。いくつものタイプの異なるシステムが存在し、個人はこのような複数のシステムに参加することも検討すべきであろう。

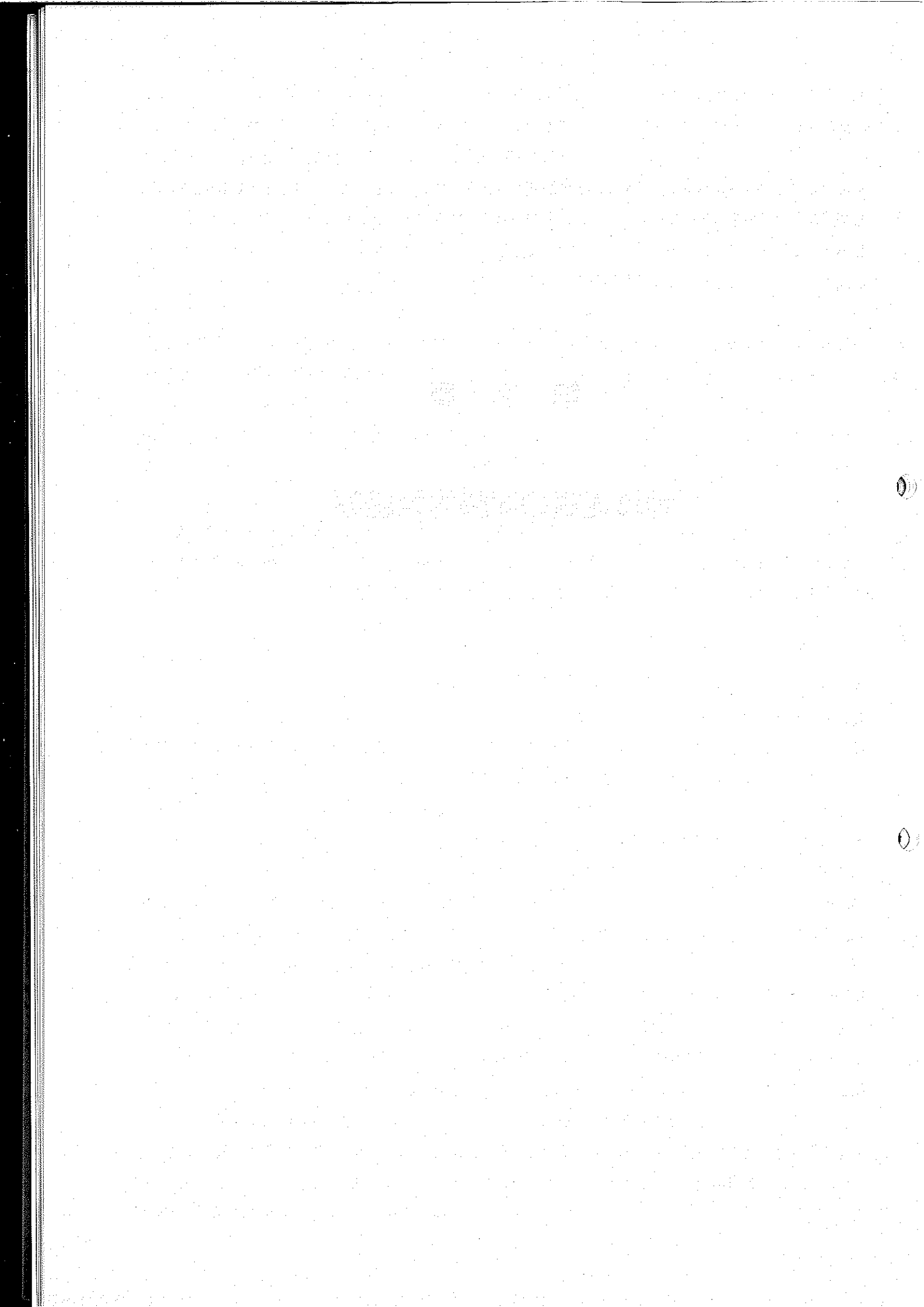
地域通貨がさまざまな地域での支えあいの仕組みを構築しようとしている限りでは、地域通貨のタイプそのものには優劣は無く、それぞれの目的を達成するための工夫、仕掛けのなかに、その地域の人々の知恵や努力の結晶、他の地域でも活用できるヒントが眠っていると考えるべきであろう。

現在わが国ではデフレであるとの認識がされている。このような時期には退蔵されない地域通貨を法定通貨と併用することによって域内の循環に活用しようというのであるから、デフレ緩和あるいは解消の一助としても有効なものではないかと思われる。

## 第 2 章

### 地域通貨の実験的取組み





# 1 地域通貨実験支援事業の概要

## 1 事業目的

地域コミュニティにおける共助サービスの循環を促進する手段の一つとして、地域通貨の導入を実験的に実施するグループ・団体の取組みを支援するとともに、その実践・研究成果を広く情報発信することを通じて、被災地でのコミュニティ活性化のきっかけをつくる。

## 2 事業内容

### (1) 公開フォーラム等の開催

公開フォーラムを開催し、参加者とともに地域通貨の意義や可能性を考える。併せて地域通貨実験支援事業についての周知を行う。

#### 《開催結果》

- ・ 地域通貨フォーラム（兵庫県立中央労働センター） 平成13年6月9日（土）
- ・ 第1回地域通貨意見交換会（阪神・淡路大震災復興支援館） 平成13年9月16日（日）
- ・ 第2回地域通貨意見交換会（神戸市勤労会館） 平成13年10月19日（金）
- ・ 第3回地域通貨意見交換会（神戸市勤労会館） 平成14年1月20日（日）

### (2) 地域通貨を実験的に導入する団体への運営費助成（地域通貨実験運営費助成）

地域通貨を実験的に導入し、コミュニティづくりを図ろうとするグループ・団体に経費の一部を助成する。

- ① 助成金額 24万円以内
- ② 助成件数 5件
- ③ 助成対象 新たに実験的に地域通貨の導入に取り組もうとする活動で、次の条件を満たすもの。
  - ・ 活動地域 被災地10市10町内であること
  - ・ 参加者 概ね20人以上が参加すること
  - ・ 実験期間 3か月以上の実験期間があること
- ④ 助成対象期間 平成13年4月1日（日）～平成14年2月28日（木）
- ⑤ 募集期間 平成13年6月11日（月）～平成13年10月31日（水）
- ⑥ 対象経費
  - ・ 学習会等の講師やアドバイザーへの謝金・交通費、会場使用料
  - ・ 地域通貨やリスト等の作成費
  - ・ 広報用チラシ等の作成費
  - ・ 報告書の作成費（参加者アンケート、実施結果まとめ等）

#### 《助成グループ・団体》

助成グループ・団体名（所在地）	実験地域
西須磨まちづくり懇談会（神戸市須磨区）	神戸市須磨区
お米の勉強会（西宮市）	阪神地域及び豊岡市
プラザ5（神戸市長田区）	神戸市長田区
在宅福祉支援グループ・コスモス（尼崎市）	尼崎市
農・都共生ネットこうべ（神戸市中央区）	神戸市西区

### (3) 公開報告会の開催

地域通貨実験運営費助成グループ・団体が取り組んだ地域通貨の流通実験結果を、公開報告会の場で発表していただき、地域通貨の意義や可能性を参加者とともに考え、その成果を報告書にまとめ、広く情報発信する。

- ・地域通貨実験支援事業公開報告会（神戸市勤労会館） 平成14年3月21日（木）

### (4) 情報提供・相談等の実施

生活復興NPO情報プラザに「地域通貨情報（書籍・資料）提供コーナー」を設置し、関係図書・資料の貸し出しを行うなど、地域通貨に関する情報提供や相談に応じる。

## 3 地域通貨実験支援事業ワーキングチームの設置

地域通貨実験支援事業の推進方策の策定、進行管理、及び地域通貨実験運営費助成グループ・団体の実験結果等についての検討・評価を行うために地域通貨実験支援事業ワーキングチームを設置する。

### 《座長》

小西 康生（神戸大学経済経営研究所教授）

### 《活動結果》

- ・第1回全体会（神戸学習プラザ） 平成13年6月26日（火）
- ・第2回全体会（阪神・淡路大震災復興支援館） 平成13年7月24日（火）
- ・第3回全体会（阪神・淡路大震災復興支援館） 平成13年9月16日（日）
- ・第4回全体会（神戸市勤労会館） 平成13年10月19日（金）
- ・第5回全体会（阪神・淡路大震災復興支援館） 平成13年11月7日（水）
- ・第6回全体会（神戸学習プラザ） 平成13年12月21日（金）
- ・第7回全体会（神戸市勤労会館） 平成14年1月20日（日）
- ・第8回全体会（阪神・淡路大震災復興支援館） 平成14年3月8日（金）

## 4 地域通貨実験支援事業アドバイザー

地域通貨の実践者・有識者に、アドバイザーとして地域通貨実験支援事業への協力を求め、適宜、全体会や意見交換会等に出席いただき事業運営に対して助言をいただく。

### 《アドバイザー》

相川 康子（神戸新聞社論説委員）

赤井 俊子（新しいコミュニティを創造する会代表）

内山 博史（地域通貨おうみ委員会アドバイザー）

畑尾 卓朗（かもん'S21代表）

山本 麗子（宝塚NPOセンター理事）

## 2 地域通貨実験運営費助成の概要

- 1 応募資格 地域通貨を実験的に導入し、コミュニティづくりを図ろうとする活動計画を有するグループ・団体で、次の要件を満たすもの。
- ・実施地域：被災地10市10町内であること
  - ・参加規模：概ね20人以上の参加が見込まれること
  - ・実験期間：3か月以上の実験を行うこと
- ※ 地域通貨の形態（紙幣発行、通帳記入、小切手等）は特に問いません。  
【次に該当する場合は当該助成の対象となりません】
- ・既に地域通貨を導入しているグループ・団体が同一地域内において、同一形態により実施する場合
  - ・政治・宗教活動や営利を目的としたもの
  - ・応募時点で既に事業が終了しているもの
- 2 助成金額 1団体につき24万円以内
- 3 助成団体数 5団体
- 4 助成対象期間 平成13年4月1日（日）～平成14年2月28日（木）
- 5 応募期限 平成13年10月31日（水）  
但し、助成対象グループ・団体が5団体になり次第締め切ります。
- 6 応募方法 次の書類を応募期限までに生活復興県民ネット事務局まで持参してください。  
提出書類の内容をその場で確認させていただきます。
- ・地域通貨実験運営費助成交付申請書〔様式1号〕
  - ・団体の概要書（組織規約、役員一覧、会計規定、活動実績等が分かる資料）
- 7 助成対象グループ・団体の決定 応募があれば、随時、地域通貨実験運営費助成選考委員会において内容を審査し決定します。
- 8 助成金の交付及び精算
- (1) 助成金交付決定後、1ヶ月以内に請求書を提出してください。請求書に基づいて指定された口座に振り込みます。
  - (2) 事業が終了して実績報告書を提出いただいた後、審査のうえ精算します。
  - (3) 事業未着手または中止の場合、助成金の全額もしくは一部を返還していただきます。

## 9 助成対象経費

項目	内容
講師謝金	地域通貨に関する有識者、実践者等を学習会等に招へいする場合の講師謝金、またはアドバイザーとして会合等に参加していただく場合の謝金。1回あたり3万円以内とし、外部講師のみ対象とする（講師、アドバイザーがグループ・団体の構成員の場合は対象外）
旅費	講師の交通費、中間報告や意見交換会等に出席する際の交通費
会場使用料	学習会、打ち合わせ会、参加者との交流会等を開催する際の会場使用料
機材借上料	実験に必要な機材の借上料（移動に必要な車両の借上料や、開催グループ・団体及び構成員が管理主体の機材の借上料は除く）
チラシ等作成費	広報用チラシ、学習会等の資料、地域通貨、参加者に対するアンケート、報告書作成等に必要用紙代、コピー代・印刷代（グループ・団体及び構成員が管理主体の機器使用によるものは除く）
通信費	講師・参加者との連絡や、資料広報のための郵送料
消耗品費	文房具代や、活動内容を記録するための写真フィルム代、現像料

※領収証については次の点にご注意ください。

- ・領収証は必ず原本を提出願います。
  - ・領収証のあて名が、助成対象グループ・団体名でない場合は助成対象経費となりません。
  - ・領収証の発行者が、助成対象グループ・団体及び構成員の場合は助成対象経費となりません。
- ※特に飲食に関わる経費、書籍・資料等の購入費は対象外経費とします。

10 実績報告 事業終了後30日以内、もしくは平成14年2月28日（木）のいずれか早い日までに実績報告書を提出してください。

なお、実績報告書には次の資料を添付してください。

- ・領収証（コピーは不可）
- ・写真（活動内容の様子がわかるもの）
- ・広報用チラシなどの印刷物
- ・参加者名簿

## 11 その他

- (1) 助成対象グループ・団体は、事業の実施期間中に、実施・支出状況等についての中間報告をしていただきます。また、事業終了後には、公開報告会に出席いただき実施結果について報告いただきます。
- (2) 助成対象グループ・団体は、当ネットが開催するヒアリング調査、意見交換会、現地訪問等にご協力いただきます。
- (3) 実験結果については広く一般に公開いたしますので予めご了承願います。

### 3 助成グループ・団体一覧表

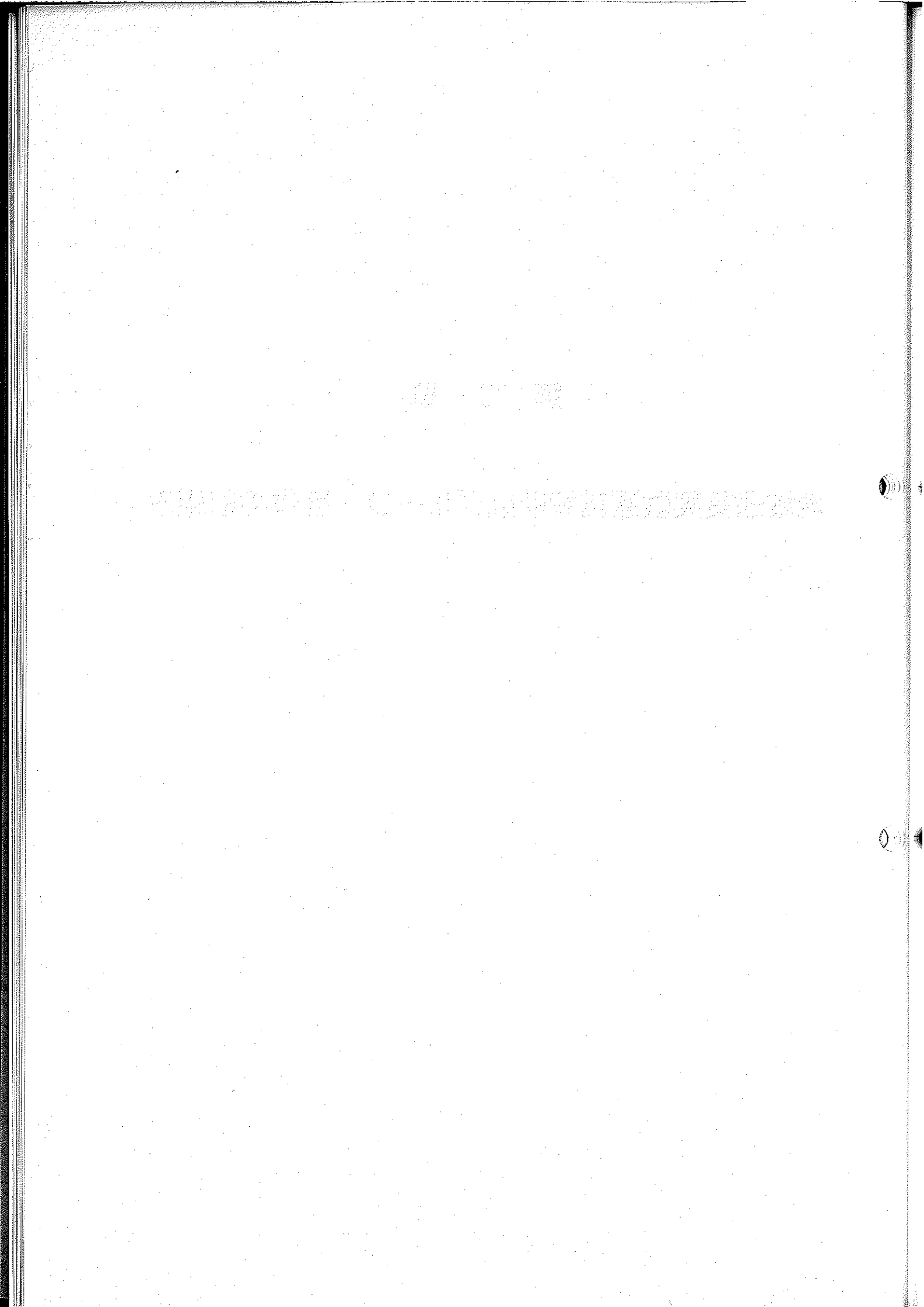
団体名	西須磨まちづくり懇談会	お米の勉強会	プラザ5	在宅福祉支援グループ・コスモス	農・都共生ネットこうべ
代表者	岡本 碩也	村山 日南子	上田 諭信	清水 志津子	高畑 正
所在地	神戸市須磨区北町1丁目78 月見山自治会館内	西宮市花園町11-2	神戸市長田区御蔵通5-92-2-101	尼崎市金楽寺町2-5-32	神戸市中央区北本町通1-1-23 神戸企業(株)内
設立年月日	平成7年10月1日	昭和61年10月8日	平成11年9月1日	平成12年2月1日	平成11年5月22日
団体人数	42人	350人	40人	210人	103人
活動目的	須磨区西南部被災地の震災復興プラン・まちづくり基本構想を、長期的視野にたつて、住民主体で創りあげる。そのために必要な調査・研究を行う。また「環境保全・創造」及び「在宅福祉の充実」への取組みに対する支援・協力を行う。	消費者・生産者・お米屋・マスコミ関係者が集まり、日本の農業を安定的・継続的な農業に変革するために自ら勉強し、活動し、国や自治体にさまざまな提案を行っています。	阪神・淡路大震災で全壊・全焼の被害を受けた神戸市長田区御蔵・菅原地区で「閉じこもり」や「孤独死」などが起きないように、被災高齢者や障害者、単身者等を主な対象として交流やふれあい、支え合い事業を行う。	高齢者に対して、ホームヘルプサービスや配食サービスなど在宅福祉に関する事業やグループハウスの運営などの事業を行い、もって高齢者と共生する地域コミュニティの創造により福祉の増進に寄与することを目的とする。	平成10年8月に開催した「第9回全国トンボ市民サミット神戸大会実行委員会」を中心に結成し、都市と農の交流を図り、人と自然の共生するまちづくりを推進する。
地域通貨導入目的	ボランティアな活動の再評価。地域の人達の新しい出会いをつくる。地域通貨によって地域の眠っている力を生かす。	都市住民（阪神地域）と農山村（豊岡市）との交流や支え合いをエコマネーを活用し定着させたい。	地域通貨を活用し、団体が行う事業やサービスが交換できる環境をつくる。また事業以外にも、地域住民のサービス循環の仕組みづくりをすすめる。	福祉活動の継続性を図る。地域コミュニティや商店街とも連携し、金楽寺小学校区でボランティア活動の活性化につなげるために地域通貨に取り組む。	都市と農の交流の活性化をめざし、現在会員間での流通にとどまっている地域通貨を、地域住民やイベント参加者、関係団体まで対象範囲を拡大する。
通貨名	れい	石(こく)	ミクラン	楽(らく)	こおみ(木見)
流通地域	神戸市西須磨地域	阪神地域及び豊岡市	神戸市長田区御蔵地区	尼崎市金楽寺小学校区	神戸市西区木見地区
形態	紙券タイプ	通帳タイプ	紙券タイプ	紙券タイプ	紙券タイプ
流通期間	H13. 11. 10~ H14. 2. 10	H13. 10. 21~ H14. 2. 28	H13. 11. 1~ H14. 2. 28	H13. 12. 16~ H14. 2. 24	H13. 11. 25~ H14. 2. 23
参加人数	26名	22名	47名	120名	150名



## 第 3 章

### 地域通貨実験運営費助成グループ・団体の取組み



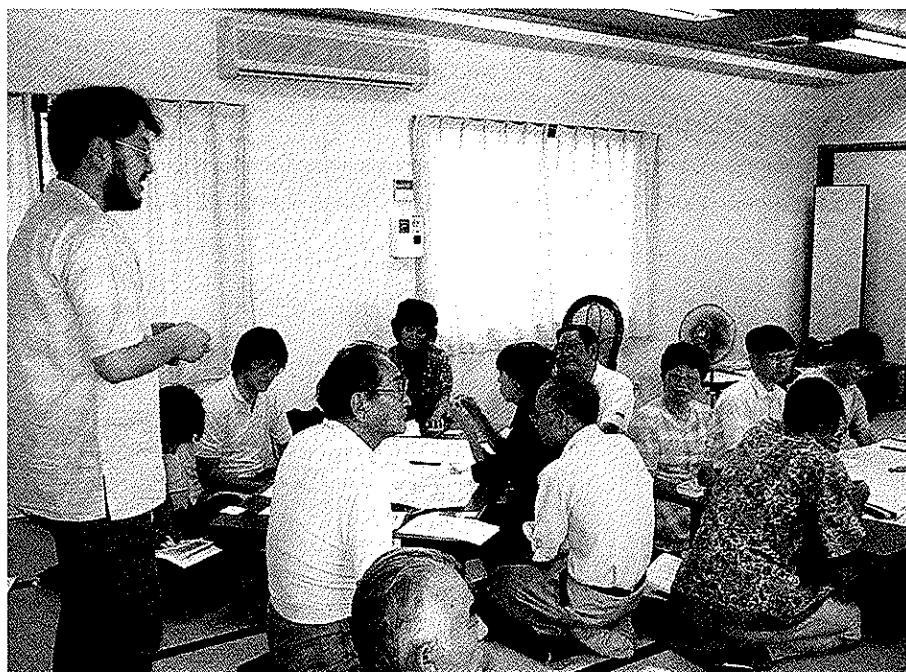


## 【1 西須磨まちづくり懇談会】

通貨の名称	れい
通貨の形態	紙券タイプ
単 位	30分のサービス=1れい(目安)
実験期間	平成13年11月10日 ~ 平成14年2月10日
流通範囲	神戸市西須磨地域
参加者数	26名
導入の目的	ボランティアな活動の再評価。地域の人たちの新しい出会いの創出。地域通貨によって地域の眠っている力を活かす。
参加方法及び仕組み	<p>《参加方法》</p> <p>入会金として300円を事務局に支払い、10れいを受け取る。その際「してほしいこと」「できること」リストを提出する。</p> <p>《取引の仕組み》</p> <p>サービスリスト(地域通貨実験登録リスト)を基に、当事者間で連絡を取り合い交渉する。</p> <p>お互いが面識のない場合は、事務局が仲介する。</p>
事務局の役割	<p>① 勉強会・学習会の開催</p> <p>② サービスリストの作成</p> <p>③ ニュースの発行など</p>
主な取引実績	<p>《取引の内容》</p> <p>庭木の枝切り、農作業、車での送迎、パソコン指導、自転車の修理、体重減量に協力、パソコンでのハガキ印刷、縫い物、剪定鋏の研ぎ直しなど。</p> <p>《取引件数》</p> <p>57件(3か月間)</p>

<p>団体の事業評価</p>	<p>《良かった点》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・誰もが予想しなかった新しい助け合いが、地域通貨によって生まれた。</li> <li>・知らない人との出会いが生まれ、新たに農作業グループなど、新しい活動グループが誕生した。</li> <li>・お互いが楽しんで地域通貨のやりとりができた。</li> <li>・いろいろ問題が生じて、それを皆で話し合い、問題点を共有でき、次のステップに向けての勉強のよい機会となった。</li> <li>・お金では味わえない喜びがあった。</li> </ul> <p>《反省点》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学生や中学生の参加を募ったが、実験には参加いただけなかった。</li> <li>・公の場（公共施設、公園等）の清掃、水撒き、当番などに地域通貨を活用できるようにしたかったが具体化しなかった。</li> <li>・世代を越えた交流イベントを開催できなかった。</li> </ul> <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公の場（公共施設、公園等）の清掃、水撒き、当番などに地域通貨を活用できる仕組みをつくる。</li> <li>・様々な世代の方が、楽しく参加できる仕組みをつくる。</li> <li>・世代を越えた交流イベントを開催すること。</li> </ul> <p>《総括》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・登録者中、8名が全くやりとりが無かった。</li> <li>・協議して規約を作ったが、全員に十分理解されていなかった。全員に内容や趣旨を理解していただくには時間が必要だと感じた。</li> <li>・助成金を活用したため、期間が定められており、話し合いだけでなく、実験的に地域通貨を体験することができた。</li> <li>・地域通貨はまちづくりに大変役に立つものだと思う。</li> </ul>
<p>参加者の感想等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域通貨は、人と人をつなぐ手段として有効だと思う。</li> <li>・人をお願いすることは、迷惑をかけることだと思っていたが、地域通貨を介して、気軽にお願いができた。そのことで、知らない人とも話げできた。</li> <li>・事務局は必要だし、コーディネートも必要だと感じた。</li> <li>・ボランティア活動に、もっと若い人たちの参加を増やすために、地域通貨は有効だと思った。</li> </ul>

## 〈活動の様子〉



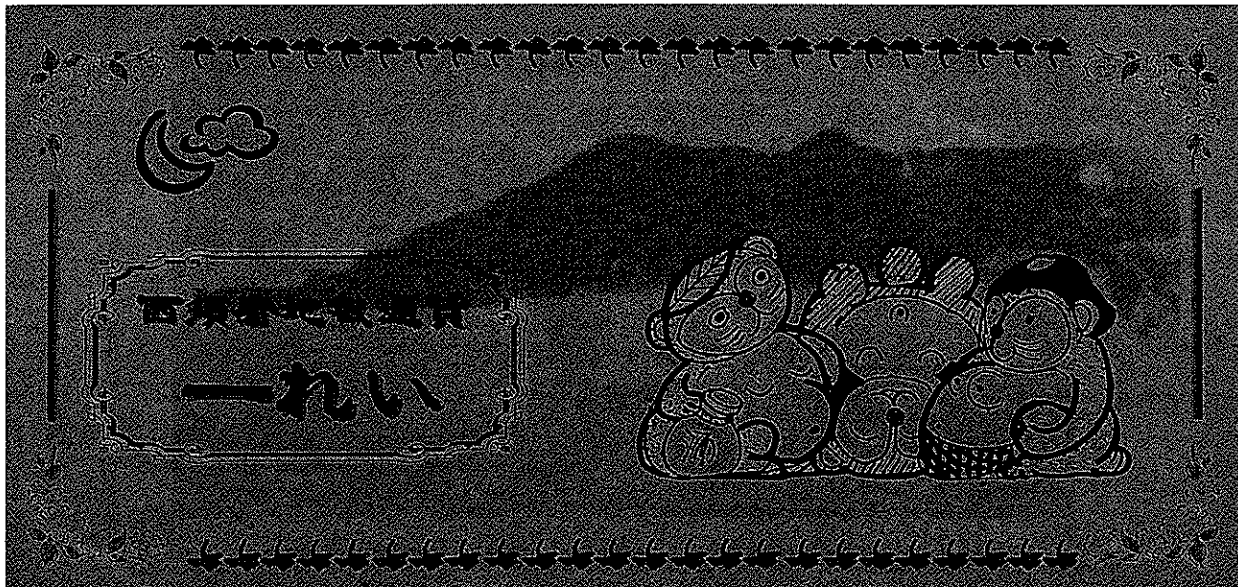
内山博史氏（地域通貨おうみ委員会）を招いて学習会を開催



森野栄一氏（ゲゼル研究会）と地域通貨について意見交換

# 〈地域通貨「れい」〉


(表 面)



(裏 面)

目付	誰か	何をしたか

得意の昔話  
 三匹の狸  
 羽島の三太郎  
 八雲のどひどひ  
 新池の福角



おかし、仲良し三匹狸が  
 弓切八浦(射場)、鎌倉公園  
 の池(新池)、多井畑までの  
 道に出できて、人をほか  
 したということです。

## 〈規 約〉

西須磨まちづくり懇談会

### 「れい」 会 員 規 約

#### 地域通貨「れい」の目的について

地域の皆さんが知らなかった人との出会いができたり、知っていても何かお願いできる間柄に無かったのがお願いできるようになること。誰かにして欲しいこと、誰かにしてあげたい事をつなぐ流通するのが目的です。(コミュニティにおける共助サービスの循環)。

楽しくコミュニティづくり、地域づくりにとりくむきっかけとなるのが目的です。また、地域のニーズを発見するのが目的です。

☆公の所をきれいに清掃したり、草を抜いたりした時に感謝の気持ちで地域通貨を渡してみんなでまちづくりに参加できるきっかけをつくる。

#### 方式・単位について

○サービスの交換には「れい」紙幣で決済します。

○「れい」は、「円」とは交換できません。

○サービスを受けたら、1れいで30分を目安として支払いします。

(サービスだけで料理を作ってもらった時等は材料費は現金で支払います。)

#### 組織と入会、「れい」の扱いについて

○会員と事務局からなります。

○会員は西須磨地域周辺に住んでいる個人とします。

○会員になるのに入会申込書を提出していただきます。

○入会時に「してほしいこと」「できること」を登録用紙に記入してください。

○会員になれば、三ヶ月間の実験期間10枚の「れい」をお渡しします。

○「れい」の会員の連絡先の載った「して欲しいこと」「できること」のリストを差し上げます。

#### 会費について

○登録の時入会金として300円いただきます。実験のための助成金を県の生活復興県民ネットからうけています

#### ルールについて

○「できる」ことのある人が、リストを見て直接連絡してください。

○「れい」を受け取った人は、その「れい」の裏面に名前と取引の内容を記入する。

○知らない人に連絡をとる場合は、事務局を通じて連絡を取るようにする。

○会員となって知り得た他の会員の個人情報を、目的外に使用しない。

○会員はボランティア保険に加入(年間500円、自己負担)をおすすめします。

#### 情報の更新など

○会員の「してほしいこと」「できること」リストを作り新入会員があればリスト更新します。

○取引の状況、交換事例など紹介するニュースを発行します。

#### 実験期間

○2001年11月10日から2月10日まで

#### 付 則

この規約は2001年11月10日から発効します。

## 〈サービスリスト〉

できること

地域通貨実験登録 リスト (1/5)

No	できること	名前	電話番号	住所
1	・ ニュージーランドについて詳しい案内や説明ができます。(旅行したい人や興味のある人に歴史から社会政策、地理までガイドします)	○ ○ ○ ○	〇〇〇-△△△△	須磨寺町2
2	・ 庭づくり作業の手伝い(力仕事)ならできます。(草木に興味があります)			
3	・ その人に合わせた体操指導ができます。(グループでなら好きな音楽にあわせた体操もつくれます)			
4	・ 自動車の運転、(普通免許証)	○ ○ ○ ○	〇〇〇-△△△△	南町2
5	・ 自転車の修理、タイヤ取換え			
6	・	○ ○ ○ ○	〇〇〇-△△△△	南町1
7	・ 英語教えます	○ ○ ○ ○	〇〇〇-△△△△	月見山町2
8	・ 庭の草刈、木の枝落としをします	○ ○ ○ ○	〇〇〇-△△△△	一ノ谷町1
9	・ 家具、備品の小修理をします			
10	・ 車、原付で人、ものを運びます			
11	・ パソコンの初歩教えます			
12	・ パソコンで図面描きます(CAD)			
13	・ 児童以下、短時間預かりします			
14	・ 話し相手	○ ○ ○ ○	〇〇〇-△△△△	稲葉町6
15	・ 簡単な書類作成			
16	・ 簡単な和英翻訳 (英和はできません)	○ ○ ○ ○	〇〇〇-△△△△	関守町2
17	・ 英文を MS Word に入力			
18	・ 包丁研ぎ	○ ○ ○ ○	〇〇〇-△△△△	中島町3
19	・ 簡単な日曜大工			
20	・ 簡単な庭木の枝切り			
21	・ 鉢植えの手入れ、植え替え			

できること

地域通貨実験登録 リスト (2/5)

No	できること	名前	電話番号	住所
22	・ 高齢者の生活管理の話	○ ○ ○ ○	○○○-△△△△	天神町1
23	・ 昭和史(自分史)の話し			
24	・ 歌舞伎の話し			
25	・ マネージメントゲームのインストラクター			
26	・ 初心者の方へのパソコン指導 (Word、Excel)	○ ○ ○ ○	○○○-△△△△	加古川市
27	・ 木製家具の修理、補修	○ ○ ○ ○	○○○-△△△△	松風町6
28	・ 毛筆で字などを書くこと			
29	・ いろいろな大きさのハシゴ、脚立を貸すこと			
30	・ 車の運転できます	○ ○ ○ ○	○○○-△△△△	天神町1
31	・ 荷物の運搬もできます			
32	・ NPO のこと話せます			
33	・ 車いすも押せます			
34	・ 英語 ? 少しだけ			
35	・	○ ○ ○ ○	○○○-△△△△	桜木町3
36	・ 草ひき、草刈、畑仕事、庭そうじ、植木の刈込み (植木屋に頼むほどでもないもの)	○ ○ ○ ○	○○○-△△△△	中島町2
37	・ ちょっとしたお使い (簡単な買物、薬を病院へもらいに行く、郵便局へ行く、小荷物を出しに行く等)			
38	・ 手では持てない荷物の運搬			
39	・ 家の中の重い物の移動			
40	・ 荒ゴミ出し			
41	・ その他、私に気がつかないことで、ちょっとこれして欲しいと思われることなんか、私に相談して下さい。のれることなら何でものります。			
42	・ 旅行等で、留守中の花・木への水やり			
43	・ 野山歩きのお供			
44	・ 布を使った手作りのお手伝い			



できること

地域通貨実験登録 リスト (3/5)

No	できること	名前	電話番号	住所
45	・ パソコンの操作を教えます	○ ○ ○ ○	〇〇〇-△△△△	稲葉町6
46	・ 簡単なチラシや案内状作ります			
47	・ 美術に関する情報	○ ○ ○ ○	〇〇〇-△△△△	南町2
48	・ コンピュータのトラブル解決、指導	○ ○ ○ ○	〇〇〇-△△△△	東須磨 火の谷1
49	・ カ仕事、荷物運び(運転はできません)			
50	・ 家庭教師します(特に英語)			
51	・	○ ○ ○ ○	〇〇〇-△△△△	
52	・	○ ○ ○ ○	〇〇〇-△△△△	離宮前町1
53	・ パソコンを教える	○ ○ ○ ○	〇〇〇-△△△△	桜木町2
54	・ パソコンの修理			
55	・ 引越しの手伝い			
56	・ 食器洗い			
57	・ 簡単な日曜大工			
58	・ 包丁とギ	○ ○ ○ ○	〇〇〇-△△△△	南町2
59	・ 軽トラでの荷物運搬			
60	・ パソコン(初歩的なもの)			
61	・ 家庭教師(簡単なことなら)	○ ○ ○ ○	〇〇〇-△△△△	稲葉町6
62	・ 震災の時、又その後の体験談を話します。			
63	・ 発声練習一緒にできます。			
64	・ 農作業をします	○ ○ ○ ○	〇〇〇-△△△△	月見山本 町1
65	・ 車の運転			
66	・ 病院などへの送迎(車椅子も含む)			
67	・ 高齢者と将棋・碁などの相手			
68	・ 話し相手になる			
69	・ 農作業など庭掃除ができます	○ ○ ○ ○	〇〇〇-△△△△	
70	・ 自動車運転(普通免許)			
71	・ 単純作業(荷物運び、清掃他)	○ ○ ○ ○	〇〇〇-△△△△	
72	・ 困っていることについて話を聞きアドバイスできる人を探す ことができます。			

して欲しいこと

地域通貨実験登録 リスト (4/5)

No	して欲しいこと	名前	電話番号	住所
1	・ パンや菓子作りを教えて欲しい	○ ○ ○ ○	〇〇〇-△△△△	須磨寺町2
2	・ 包丁研ぎなどお願いしたいです	○ ○ ○ ○	〇〇〇-△△△△	南町2
3	・	○ ○ ○ ○	〇〇〇-△△△△	南町1
4	・	○ ○ ○ ○	〇〇〇-△△△△	月見山町2
5	・	○ ○ ○ ○	〇〇〇-△△△△	一ノ谷町1
6	・ 植木の剪定	○ ○ ○ ○	〇〇〇-△△△△	稲葉町6
7	・ 倉庫の整理			
8	・	○ ○ ○ ○	〇〇〇-△△△△	関守町2
9	・ 衣料の修理	○ ○ ○ ○	〇〇〇-△△△△	中島町3
10	・ 部屋整理を手伝って欲しい	○ ○ ○ ○	〇〇〇-△△△△	天神町1
11	・ 植栽の仕事			
12	・ 料理を教えて欲しい			
13	・ テニス (硬式) 指導	○ ○ ○ ○	〇〇〇-△△△△	加古川市
14	・ 農業の手伝い(主に雑草刈)	○ ○ ○ ○	〇〇〇-△△△△	松風町6
15	・ 犬の散歩(パグ 2 匹)			
16	・ 栄養のある手料理を食べたい	○ ○ ○ ○	〇〇〇-△△△△	天神町1
17	・ 戦争の頃の (前の) 話をお聞きしたい			
18	・	○ ○ ○ ○	〇〇〇-△△△△	桜木町3
19	・ やせさせてほしい	○ ○ ○ ○	〇〇〇-△△△△	中島町2
20	・ パソコン教えて(女の人)			
21	・ ソニーのデジカメについて教えて欲しい	○ ○ ○ ○	〇〇〇-△△△△	長楽町4

して欲しいこと

地域通貨実験登録 リスト (5/5)

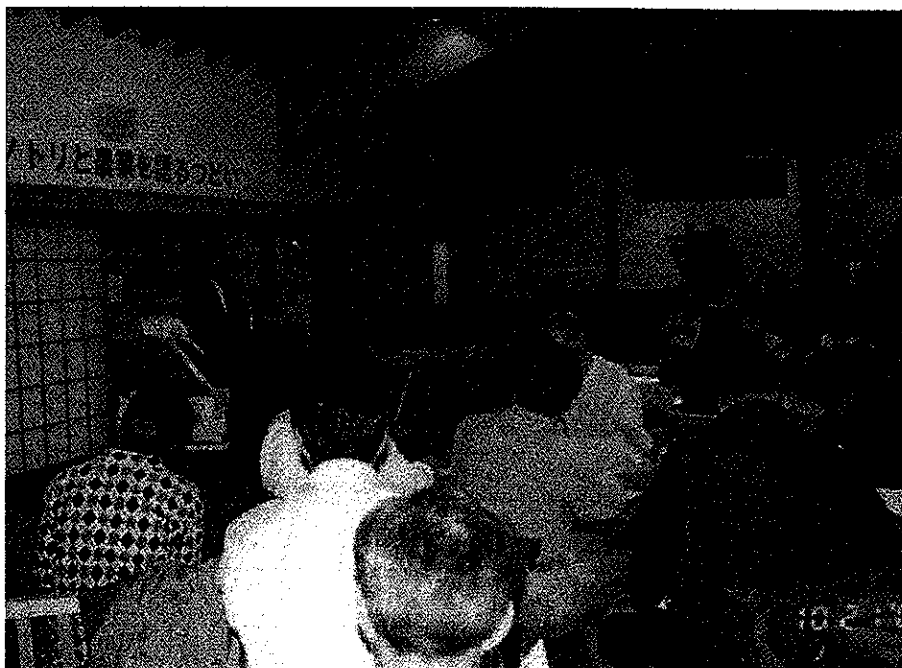
No	して欲しいこと	名前	電話番号	住所
22	・ モーニングコールして	○ ○ ○ ○	〇〇〇-△△△△	稲葉町6
23	・ お昼ごはんして			
24	・ 須磨の歴史を教えて			
25	・ おかずをつくってほしい	○ ○ ○ ○	〇〇〇-△△△△	南町2
26	・ 作品の運搬			
27	・ 震災の頃のお話(その時、自分は神戸にいなかったの で)	○ ○ ○ ○	〇〇〇-△△△△	東須磨 火の谷1
28	・ 倉庫の整理			
29	・	○ ○ ○ ○	〇〇〇-△△△△	
30	・	○ ○ ○ ○	〇〇〇-△△△△	離宮前町1
31	・ デザートをつくってほしい	○ ○ ○ ○	〇〇〇-△△△△	桜木町2
32	・ 茶道を教えてほしい			
33	・ 陶芸を教えて欲しい			
34	・ 庭木のせんてい	○ ○ ○ ○	〇〇〇-△△△△	南町2
35	・ メダカの救援			
36	・ ブラックバスすくいあげを一緒に			
37	・ コートの修理	○ ○ ○ ○	〇〇〇-△△△△	稲葉町6
38	・ 料理を教えて欲しい			
39	・ パソコン又はワープロによる原稿づくり	○ ○ ○ ○	〇〇〇-△△△△	磯馴町4
40	・ パソコンいろいろ	○ ○ ○ ○	〇〇〇-△△△△	月見山本 町1
41	・ 自動車運転	○ ○ ○ ○	〇〇〇-△△△△	友が丘7
42	・ 簡単な事務作業			
43	・	○ ○ ○ ○	〇〇〇-△△△△	

## 【2 お米の勉強会】

通貨の名称	石(こく)
通貨の形態	通帳タイプ
単 位	1石=100円(目安)
実験期間	平成13年10月21日 ~ 平成14年2月28日
流通範囲	阪神地域及び豊岡市周辺地域
参加者数	22名
導入の目的	都市部に暮らす住民と、農山村に暮らす住民との交流や支え合いを地域通貨を活用し、定着させる。
参加方法及び仕組み	<p>《参加方法》</p> <p>参加希望者に通帳を配布。または、会報誌に記載されている通帳をそのままコピーし自由に参加できる。</p> <p>《取引の仕組み》</p> <p>直接当事者間で連絡をとり、サービスの交換を行う。取引の内容はお互いの通帳に記入する。</p>
事務局の役割	<p>① 通帳の発行</p> <p>② ニュースの発行</p>
主な取引実績	<p>《内 容》</p> <p>パソコン指導、物品分配、印刷作業、発送等の手伝い、山作業、料理、送迎、手作り品交換、物品貸借、情報交換、講師・司会など。</p> <p>《件 数》</p> <p>83件(3か月間)</p>

<p>団体の事業評価</p>	<p>〈良かった点〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域通貨を介し、豊岡の方々にも農林業応援団の趣旨を理解してもらえた。また、試してみて、やり方を少しは理解してもらった。プラス、マイナスは双方向であることがわかった。</li> <li>・都市部に暮らす住民に対して、農林業応援の手段として地域通貨を使ったかわり方を自信をもって説明し、募集する自信がついた。</li> <li>・新しい知人や参加者とコミュニティを作っていくには、とても地域通貨は良い手段だと分かった。</li> </ul> <p>〈反省点〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・農林業応援の相手として豊岡市を選んだが、神戸、阪神地域からはあまりにも遠かった。</li> <li>・恒常的に豊岡に出かけるには、経費的にも負担が大きかった。日帰りでは、十分な手助けもできなかった。</li> <li>・神戸・阪神地域の住民と、但馬地域（豊岡市）の住民と考え方や生き方の違いを深く理解していなかった。</li> </ul> <p>〈課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・農山村の方々に対して、自然と調和した農林業の具体的な実現法を提案していき、都市住民に対しては、農林業への関心や理解を深めるなどの活動をすすめて、そういった準備ができた後、双方の理解や交流を地域通貨を使って深めていきたい。</li> </ul> <p>〈総括〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・農林業応援は都市住民の食料、おいしい水や空気確保のためにも、今後ますます必要となってくるため、地域通貨を介した応援もやっていく価値が十分にあると思った。</li> <li>・地域通貨を取り入れたお金に頼らない暮らし方も実現していきたい。</li> </ul>
<p>参加者の感想等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人が知り合うには地域通貨は有効な手段であると思う。</li> <li>・相手との関係が親密になれば、役目を終わるものではないか。</li> </ul>

## 〈活動の様子〉



豊岡において地域通貨の学習会を開催



コウノトリ応援団の活動



## 〈サービスリスト〉

### — コウノトリ応援団リスト —

（お米の勉強会 01. 10. 21～）

「してほしいこと」、「できること」欄には、「田植え」「草取り」「山仕事」「パソコン」「JR 豊岡からの足」「有機のお米」「有機野菜」「民宿」「生き物調査」など思いつかれることを何でも書いて下さい。コウノトリ応援の輪を広げるものものです。

名前	自己アピール	番号	
	田植えも「山仕事」も慣れてみいか、怒りして頑張ります。コウノトリの為に。		
私のしてほしいこと		私ができること	
1	88才のおばあちゃんの話し合い等	1	コウノトリの生き物調査 (頑張ります)
2	パソコンを教えて欲しい。	2	松の木のために落ち葉かき ( " )
3	JR豊岡駅からコウノトリまでのアシ	3	コウノトリの為に有機米の田の草とり ( " )
4	豊岡に行く時日帰りバスを泊めて欲しい。	4	お米の勉強会として「有機栽培勉強会」を部外
5	山の木について名前や特長を教えて欲しい。		" 「農業関係の情報」を届ける
6	コウノトリの鳥としての知識を欲しい。	6	コウノトリの為に有機米に似た水田のお米を貰う
7	水田の生き物について教えて欲しい。	7	" 火皿の野菜を貰う
8	豊岡の歴史を教えて欲しい。	8	

### — コウノトリ応援団リスト —

（お米の勉強会 01. 10. 21～）

「してほしいこと」、「できること」欄には、「田植え」「草取り」「山仕事」「パソコン」「JR 豊岡からの足」「有機のお米」「有機野菜」「民宿」「生き物調査」など思いつかれることを何でも書いて下さい。コウノトリ応援の輪を広げるものものです。

名前	自己アピール	番号	
私のしてほしいこと		私ができること	
1	民宿	1	お米料理
2	パソコン	2	翻訳 (西語・英語)
3		3	簡単な裁縫の手伝い
4		4	
5		5	
6		6	
7		7	
8		8	



— コウノトリ応援団リスト —

(お米の勉強会 01. 10. 21~)

「してほしいこと」、「できること」欄には、「田植え」「草取り」「山仕事」「パソコン」「JR 豊岡からの足」「有機のお米」「有機野菜」「民宿」「生き物調査」など思いつかれることを何でも書いて下さい。コウノトリ応援の輪を広げるものものです。

名前		自己アピール		番号	
私のしてほしいこと			私ができること		
1	ビオトープの調査補助	1	車で駅まで送る。		
2	〃のあせ草刈り	2	生き物の説明をする。		
3		3			
4		4			
5		5			
6		6			
7		7			
8		8			

— コウノトリ応援団リスト —

(お米の勉強会 01. 10. 21~)

「してほしいこと」、「できること」欄には、「田植え」「草取り」「山仕事」「パソコン」「JR 豊岡からの足」「有機のお米」「有機野菜」「民宿」「生き物調査」など思いつかれることを何でも書いて下さい。コウノトリ応援の輪を広げるものものです。

名前		自己アピール		番号	
私のしてほしいこと			私ができること		
1	山の作業 管理	1	豊岡盆地の自然の案内		
2	休耕田の管理作業	2			
3	豊岡盆地の生き物調査	3			
4		4			
5		5			
6		6			
7		7			
8		8			

— コウノトリ応援団リスト —

(お米の勉強会 01. 10. 21~)

「してほしいこと」、「できること」欄には、「田植え」「草取り」「山仕事」「パソコン」「JR 豊岡からの足」「有機のお米」「有機野菜」「民宿」「生き物調査」など思いつかれることを何でも書いて下さい。コウノトリ応援の輪を広げるものものです。

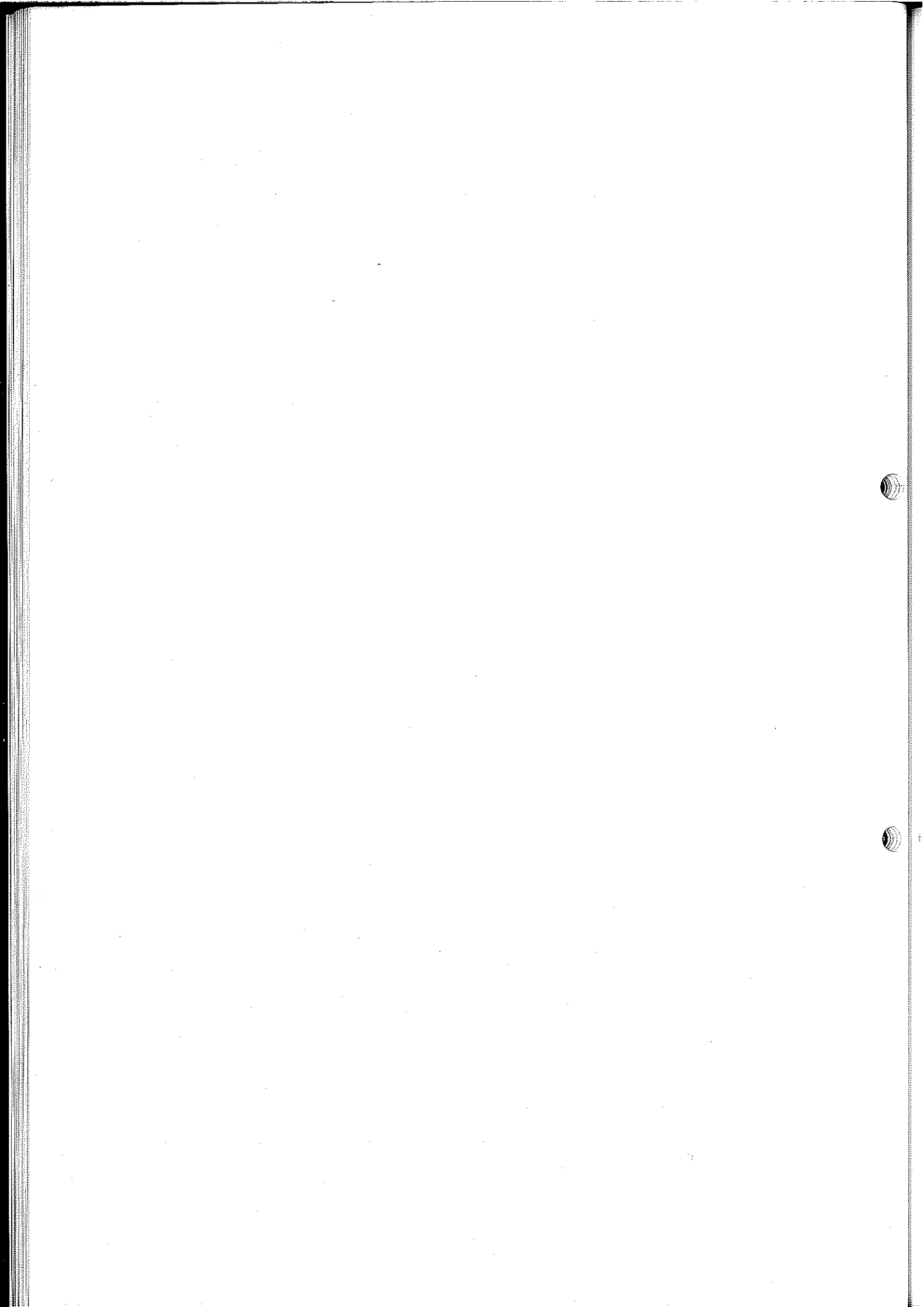
名前		自己アピール		番号	
私のしてほしいこと			私ができること		
1		1	パソコン		
2		2	民宿(宿のみえる)提供		
3		3			
4		4			
5		5			
6		6			
7		7			
8		8			

— コウノトリ応援団リスト —

(お米の勉強会 01. 10. 21~)

「してほしいこと」、「できること」欄には、「田植え」「草取り」「山仕事」「パソコン」「JR 豊岡からの足」「有機のお米」「有機野菜」「民宿」「生き物調査」など思いつかれることを何でも書いて下さい。コウノトリ応援の輪を広げるものものです。

名前		自己アピール		番号	
私のしてほしいこと			私ができること		
			ほか役に立ちたいけれど、情報はいろいろ提供できず。		
1	かたをほころばす。	1	情報を集めると		
2	いなかへ行く時アツク君をほろばす。	2	みんなを集めると		
3	草物の多い時アツク君をほろばす。	3	草取り。		
4	お米の勉強会の企画をゆけりほろばす。	4	民宿		
5	長崎の町を歩く時アツク君をほろばす。	5	子可畜。		
6	家の整理をゆけりほろばす。	6	雑物		
7	パソコンの使い方を教へりほろばす。	7			
8	会報の編集をゆけりほろばす。	8			



### 【3 プラザ5】

通貨の名称	ミクラン
通貨の形態	紙券タイプ
単 位	30分のサービス=1000ミクラン(目安)
実験期間	平成13年11月1日～平成14年2月28日
流通範囲	神戸市長田区御蔵地区周辺住民及びその他希望者
参加者数	47名
導入の目的	地域通貨を活用し、団体が行う事業やサービスが交換できる環境をつくる。また、事業以外にも、地域住民のサービス循環の仕組みづくりをすすめる。
参加方法及び仕組み	<p>《参加方法》</p> <p>メンバー登録し、10,000ミクランを受け取る。「出来ること」「して欲しいこと」を登録する。</p> <p>《取引の仕組み》</p> <p>取引については、原則事務局が仲介する。</p>
事務局の役割	<p>① 地域通貨の発行</p> <p>② サービスリスト作成、登録サービスの告知</p> <p>③ 依頼のとりつぎ(マッチング)</p> <p>④ 利用状況の集約</p>
主な取引実績	パソコン指導、食事会協力、囲碁指導、手芸指導、公園水まき、料理づくり、ミニディサービス協力、掃除機修理、マッサージ、買い物手伝い、包丁とぎ、絵手紙教室など

《良かった点》

- ・事務局が取引のコーディネートをすることは、あまり面識のない人同士のやりとりを促進し、新たな人と人との関係づくりには役立った。
- ・お金が介在しなくても、自分たちの労働力を交換することで、地域への参加意識や日常生活を少し豊かにすることができるという思いが広がった。
- ・会員間ならいつでも気軽に頼みごと（高齢者の見守り、病院送迎など）ができる関係を築き、小さな安心感が生まれた方がいる。

《反省点》

- ・名称を決めるにあたっては、もう少し準備時間があれば、多くの人に意見を伺い、皆で作った通貨といった実感が持てたのではないか。
- ・準備期間が短く、地域の人に十分地域通貨のことを理解してもらえなかった。
- ・年代を越えた交流イベントを開催できなかった。
- ・プライバシーの配慮もあり、取引を事務局経由で行ったが、知り合い同士の場合には殆ど必要のないことが多かった。

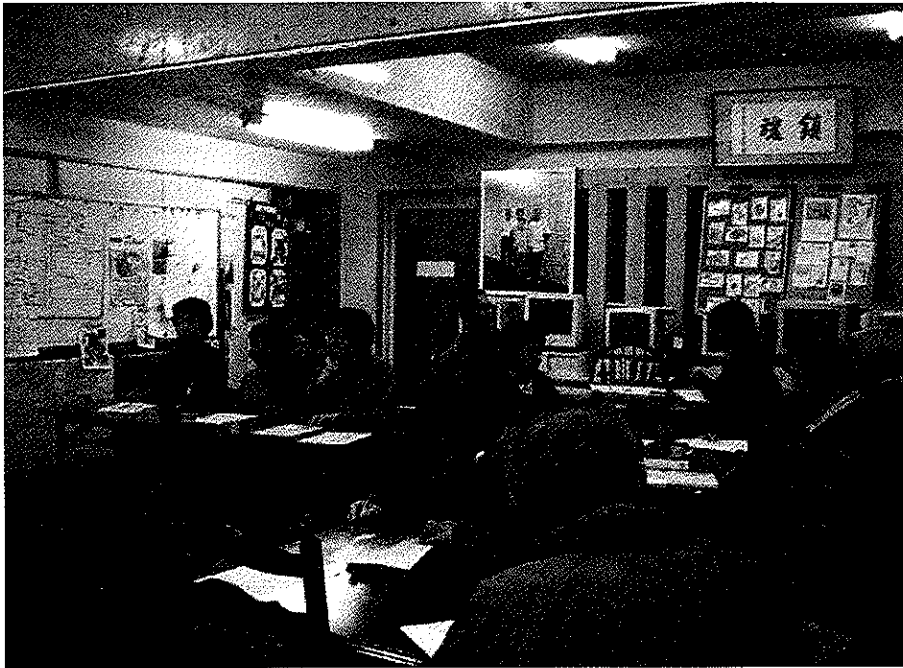
《課題》

- ・兌換性についての検討。長期間続けるには何らかの兌換や最終引受け人が必要ではないかと感じた。
- ・子ども達の間でミクランが流通することが、地域にとっても、家庭にとっても大変有効なことと思われるが、今回は一部の子ども達しか巻き込めなかった。
- ・実験期間が少し短いと感じた。
- ・より広範囲に活用していただく方法を検討すべき。

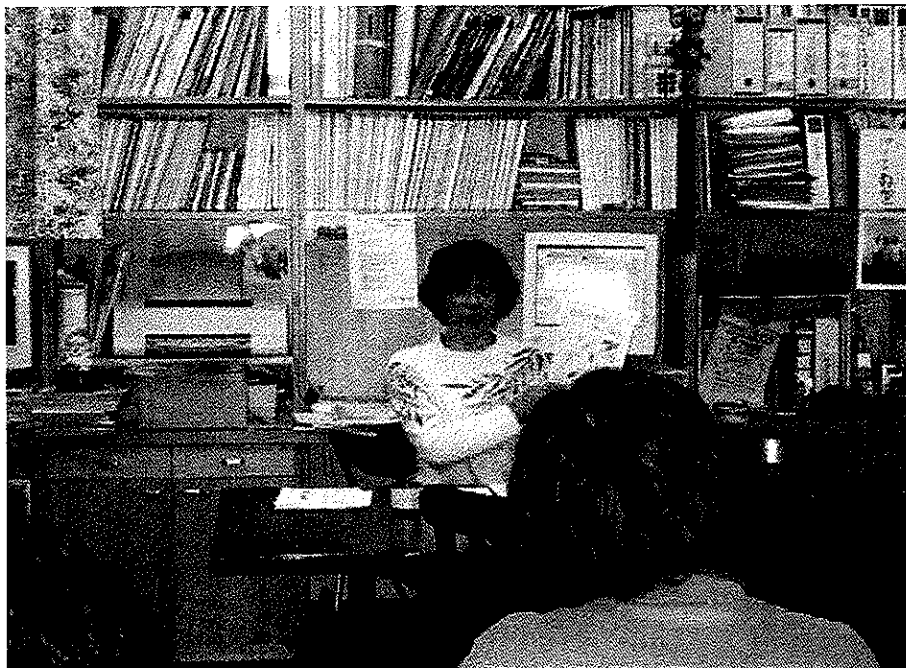
《総括》

- ・実験的な取組みとしては、少し入り口に入ったという程度だと思う。2～3回期間を区切って実験を繰り返し、調整しながら地域特性、会員特性に応じた方法を見つけ出すことが重要。

## 〈活動の様子〉



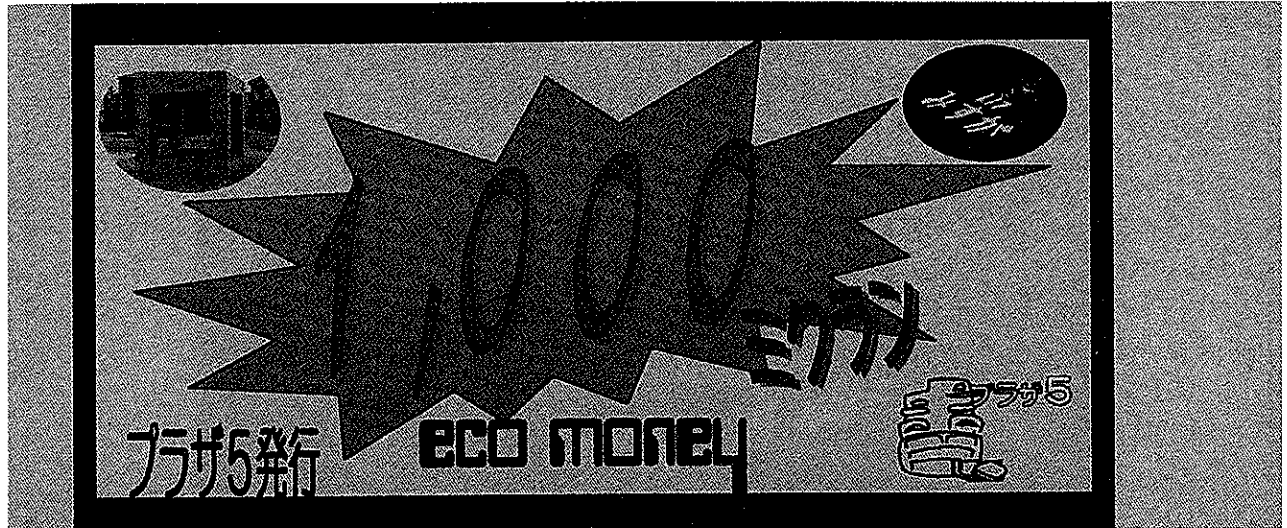
地域通貨「ミクラン」の説明会



地域通貨についての学習会

# 〈地域通貨「ミクラン」〉

(表 面)



(裏 面)

このエコマネーは御蔵地区で住民の皆さんとの交流、ふれあいと地域コミュニティー  
 づくりのために試行発行しているものです。

「1000ミクラン」で約30分程度のサービスを目的としてお使いください。

(使用経歴)

使用者	使用日	サービス内容	サービス提供者

## 〈規 約〉

### 地域通貨「ミクラン」運用ルール

- ①ミクランを手に入れるには？
  - ・地域通貨利用メンバーに登録します。
  - ・登録先はプラザ5です。(TEL 576-7964)
- ②登録された方にプラザ5からミクラン10枚(10,000ミクラン)と全会員の「出来ること」「して欲しいこと」一覧表をお届けします。
- ③登録された方は、ご自分の「出来ること」「して欲しいこと」のリストをプラザ5に提出します。
- ④会員は、一覧表を見て、自分が「して欲しいこと」があればプラザ5に連絡します。
- ⑤プラザ5は「出来る人」を一覧表から探して、紹介します。
- ⑥30分=1,000ミクラン(1枚)で、サービスを受けます。  
もし1時間なら2,000ミクラン(2枚)です。
- ⑦サービスを受けた人はミクランの裏の表に記録して、相手に渡します。
- ⑧サービス提供の依頼がプラザ5からあれば、相談の上応じて下さい。
- ⑨期間中に自分に出来ること・して欲しいことを思いついたら順次登録して下さい。

※ミクランは現金には替わりません。

※会員の間でのみ通用します。

※流通期間は12月27日～2002年2月末日までです。可能な限り使い切って下さい。手元に残っていても、期間後は使えません。

※期間終了後は、ミクランはプラザ5で回収します。

※実験が好評であれば、その後の運用を皆さんと相談します。

連絡・登録先○○○○○○○○○○○○○○○○○○

**プラザ5**

**神戸市長田区御蔵通5-92-2-101**

**TEL576-7964 FAX576-7961**

**e-mail:buafc300@hi-net.zaq.ne.jp**



## 〈サービスリスト〉

### 御蔵地域通貨の出来ること・して欲しいこと一覧表

できること		して欲しいこと	
1	パソコン指導	1	資料整理
2	ホームページ作成	2	掃除
3	パソコンの設定	3	力仕事
4	話し相手	4	換気扇の掃除
5	車での送迎	5	運転指導
6	名刺作成	6	チラシ作成
7	ミシン仕事	7	包丁研ぎ
8	手話	8	部屋の片づけ
9	生け花	9	子供の世話
10	料理	10	肩もみ
11	話し相手	11	子供の世話
12	チラシ作成	12	肩もみ
13	パソコン指導	13	料理指導
14	宿題をみる	14	車の運転指導
15	車での送迎	15	部屋の片づけ
16	買い物	16	
17	話し相手	17	
18	麻雀を教える	18	
19	ビデオの貸出 (百名山・世界遺産)	19	
20	料理	20	
21	買い物	21	
22	話し相手	22	
23	犬の散歩	23	
24	その他雑用	24	
25	包丁研ぎ	25	
26	簡単な大工仕事	26	
27	掃除	27	
28	買い物	28	
29	掃除	29	
30	買い物	30	
31	話し相手	31	
32	宿題をみる	32	
33	話し相手	33	
34	パソコン指導	34	
35	宿題をみる	35	
36	話し相手	36	
37	パソコン指導	37	
38	パソコン指導	38	
39	ホームページ作成	39	
40	パソコンの設定	40	
41	車での送迎 (大型・荷物可)	41	
42	旅行相談	42	
43	写真撮影	43	
44	グランドゴルフのルール教えます	44	
45	囲碁教えます	45	
46	買い物	46	
47	庭の草刈り	47	
48	木の枝落とし	48	
49	花の水やり	49	

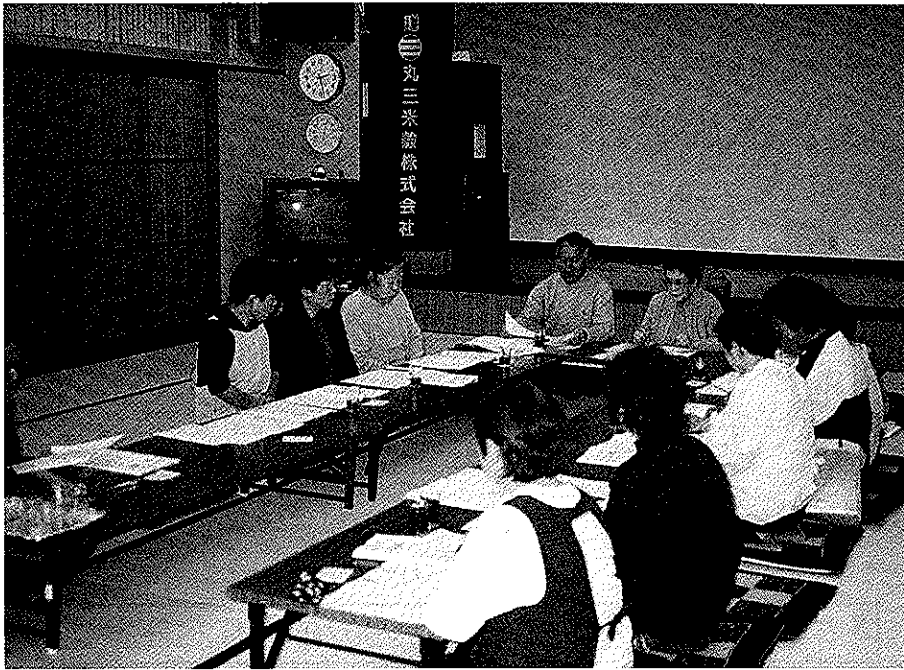
※現在は以上の「出来ること」「して欲しいこと」ですが、他地域の一覧を参考に自分でも出来そうなことを順次ブラウザ5まで登録して下さい。増えた項目はメンバーに配布します。

## 【4 在宅福祉支援グループ・コスモス】

通貨の名称	楽(らく)
通貨の形態	紙券タイプ
単 位	100楽=100円(目安)
実 験 期 間	平成13年12月16日 ~ 平成14年2月24日
流 通 範 囲	金楽寺小学校区(尼崎市)
参 加 者 数	120名
導 入 の 目 的	福祉活動の継続性を図る。地域コミュニティや商店街とも連携し、金楽寺小学校区でボランティア活動の活性化につなげるために地域通貨に取り組む。
参 加 方 法 及 び 仕 組 み	<p>《参加方法》</p> <p>入会時に200円を事務局に支払い、1,000楽受け取る。「してほしいこと」「できること」を申込書に記入し、併せて事務局に提出する。</p> <p>《取引の仕組み》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・取引については、事務局が仲介する。</li> <li>・サービスの提供により紙幣を交換し、取引内容を裏書する。</li> <li>・登録事業所や商店での買い物にも利用できる。</li> </ul>
事 務 局 の 役 割	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 地域通貨の発行</li> <li>② サービスのマッチング</li> <li>③ 資料等(サービスリストを含む)作成</li> <li>④ イベントの企画</li> </ol>
主 な 取 引 実 績	ミシン掛け、パソコン指導、庭の手入れ、病院への車での送迎、掃除、エアコンの点検、部屋の片付け、料理、力仕事など

<p>団体の事業評価</p>	<p>《良かった点》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特定非営利活動法人グループ・コスモスの活動（高齢者福祉）が利用者と職員との事業としてのサービス提供の関係になりつつあったので、本来の地域における助け合いの活動といった原点に引き戻してくれた。</li> <li>・ボランティアに参加する新しい人の輪が少しでも広がった。</li> </ul> <p>《反省点》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域通貨について何も知らないまま、活動が始まり、参加者などに理解してもらうのに苦労した。主催団体としても、十分に理解できていない中での活動だったが、わずかでも、そういった手段を利用して地域の活動を見直すきっかけにはなった。</li> </ul> <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今後につなげていくために、事務局メンバーの学習の場をつくっていく。</li> <li>・商店との関わり方をもっと研究する。</li> <li>・50歳以上の男性の方々にもっと参加してもらうようにする。</li> </ul> <p>《総括》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第1次の実験ということで、多くの課題が出てきた。今後、第2次実験に取り組むが、その時にはひとつずつでも課題を解決し、地域ぐるみの助け合い運動が前進すればと思う。</li> </ul>
<p>参加者の感想</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・困っている方の手助けになればと思い、「できること」を登録しましたが、それを利用してくれた方があり、とても嬉しかった。(36歳、女性)</li> <li>・機械に弱い私ですが、地域通貨でエアコンの修理を依頼できて、本当に助かりました。(74歳、女性)</li> </ul>

## 〈活動の様子〉



「楽」の仕組みについて協議



バザーの開催（「楽」で買い物も出来る）

# 〈地域通貨「楽（らく）」〉

(表 面)

ふれあいとボランティアのまち金楽寺

地域通貨 エコマネー

**500 楽**  
(らく)

有効期間2001年12月から、2002年2月28日まで

特定非営利  
活動法人 **在宅福祉支援グループコスモス**

在  
宅  
福  
祉  
支  
援  
グ  
ル  
ー  
プ  
コ  
ス  
モ  
ス  
印  
ス  
ル  
社

(裏 面)

◎この地域通貨（エコマネー）は金楽寺小学校区のふれあいの増進と活性化を図るために発行します。

月 日	お 名 前

## 〈規 約〉

### 会員の登録

- 会員は金楽寺町周辺にお住まいの方や、同地域の団体、商店とします。
- 会員になるには、入会申込書に記入して提出して下さい。
- 申込書に、あなたが「してほしいこと」と「できること」を記入して下さい。
- 登録時に入会金200円をお支払いください。
- 会員になれば、2月末まで有効な「楽」を「1000楽」分お渡しします。
- 「してほしいこと」「できること」の掲載された目録をお渡しします。この目録は、適宜新しいものに作りかえ、配布いたします。
- 「楽」を不正に使わないようにお互いに気をつけましょう。会員の個人情報などを、「楽」の目的以外で使用しないように気をつけましょう。
- 会員で希望する人は、ボランティア保険に加入することができます。
- 会員には「楽らくニュース」をお届けします（月1回発行）。

★第1回「楽」実験期間 12月～2月28日

#### 地域通貨「楽」運営委員会

事務局 在宅福祉支援グループ・コスモス  
(尼崎市金楽寺町2丁目5-32 電話6481-3363)

連絡先 コスモス (小林、二木6481-3363)  
やすらぎ荘 (山中4868-3590)  
(有) すこやか (笠畑、紺屋6482-0012)  
田之上事務所 (6487-3488)

この実験のための助成金を兵庫県的生活復興県民ネットから受けています。

出来ること事一覧表

依頼者	依頼内容
①	談話・声明が出来る (真言宗)
②	
①	針仕事 (ミシン掛け含む)
②	
①	ミシン掛け
②	
①	花札のお相手
②	
①	いけばな
②	
①	茶道
②	
①	焼き物
②	
①	料理が出来る
②	
①	庭の手入れ (剪定)
②	カラオケ
①	電気器具の点検・修理
②	自動車の運転・力仕事・掃除
①	力仕事
②	
①	料理が出来る
②	
①	洋裁
②	
①	社交ダンス
②	
①	社交ダンス
②	
①	日本舞踊
②	
①	美味しいたこ焼きを教える
②	
①	庭の手入れ
②	お部屋の片付け
①	植木の手入れ・買い物車で送迎
②	一寸ペン塗り
①	自動車の運転が出来る
②	電気器具の点検・修理・力仕事
①	自動車の運転が出来る
②	木が切れる・カラオケ
①	人物画が描ける
②	
①	チラシ配布します
②	オムロン赤外線治療器貸します。
①	パン教えられる
②	自動車の運転ができます。



〈サービスリスト〉

楽らくニュース No.2  
楽の会員様が元気で

昨年11月に兵庫県民ネットの認定を受けた地域酒造 (エコマネー) の取り組み際し、ご協力を頂き始動致しまして今回第2回目の楽らくニュースを発行致しました。今回は1号より楽会員又、協力店も増えましてので紙面にてお知らせ致します。と共に現在『楽』をお持ちの会員様は、2月末迄にお手持の『楽』を使用して下さい。  
2月24日〔日〕金楽寺北公園での楽市楽座では市の支払いに『楽』が使用出来ますのでこの機会に是非ご利用下さい。  
尚、『楽』エコマネー実施期間は2月28日〔木〕迄ですので予めご了承ください。

してほしい事一覧表

依頼者	依頼内容
・コスモス	① 掃除の手伝い ② 配食弁当の手伝い ③ 配食調理の手伝い ④ コスモス日より作成・配布の手伝い
・やすらぎ荘	① 掃除の手伝い (窓・エアコン等) ② 入居者の話し相手 ③ 食事の世話
・ (有)すこやか	① 掃除の手伝い ② ティサービスの手伝い
・移送サービス たんぼぼ	① 車両の清掃 ② 連休時の移送サービスの手伝い
・バリアフリー住研	① 研究会への参加 ② 手摺り取り付け等の軽作業
・ユニバーサル デザイン研究会	① 研究会への参加 (会員登録⑨) ② 街路等の段差点検 ③ 金楽寺北公園公衆トイレ改造研究
・地域福祉サポート 基金運営委員会 準備会	① 運営委員会への参加 ② 1円玉・5円玉・10円玉等との交換

# 『楽』が使える事業所・商店

2002年2月9日現在

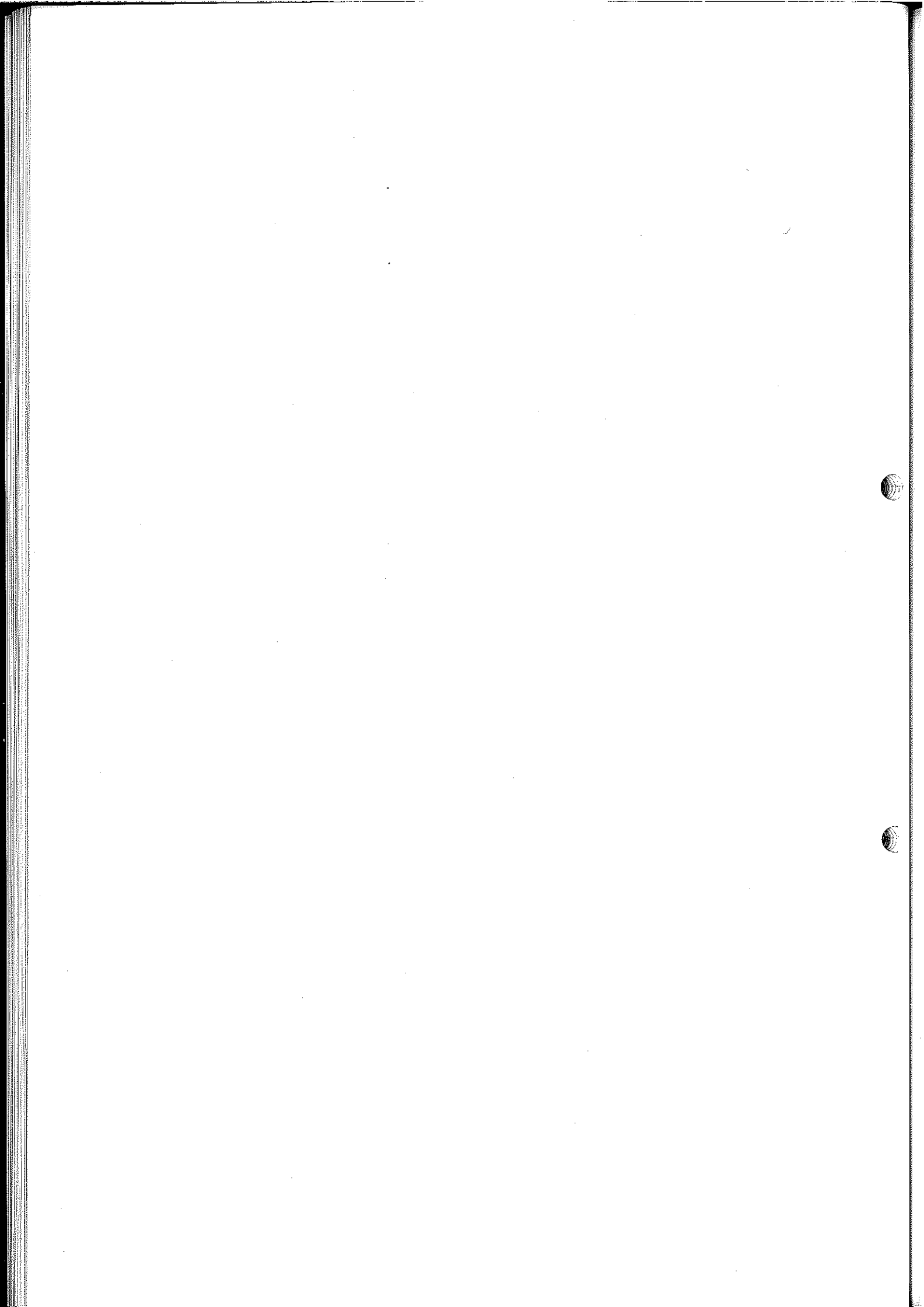
楽での買い物には、釣りの餌は出来ません。楽より高い値段のものを買ったり、使用される時は、『日療券・普通のお金』をプラスして下さい。

## 『楽』使用登録事業所・商店一覧表

事業所名	住所	備考
26	こくよし米穀店 北大物町16-24 太平市場	米穀店 水曜定休日
27	塚尾養果店 北大物町16-25 太平市場	青果店 水曜定休日
28	丸高屋書店 北大物町16-24 太平市場	本屋 水曜定休日
29	嘉明堂 北大物町16-23 太平市場	和菓子・パン等 水曜定休日
30	シヨップ紅屋 北大物町16-28 太平市場	日用品・雑貨・たばこ 水曜定休日
31	ミナミ食品 北大物町16-31 太平市場	麺類・製造小売店 水曜定休日
32	岩田屋お好み焼き 北大物町16-31 太平市場	食堂 水曜定休日
33	岩田菓子店 北大物町16-25 太平市場	菓子屋 水曜定休日
34	法興果物店 北大物町 太平市場	果物店 水曜定休日
35	末廣鮮魚店 北大物町 太平市場	魚屋 水曜定休日
36	安藤菓子店 北大物町 太平市場	菓子屋 水曜定休日
37	いろは精肉店 北大物町 太平市場	精肉店 水曜定休日
38	ピンクハウス 北大物町 太平市場	金物屋 水曜定休日
39	三和宇治園 北大物町 太平市場	お茶屋 水曜定休日
40	みゆき衣料店 北大物町 太平市場	衣料雑貨店 水曜定休日
41	喫茶フレンド 北大物町	喫茶・軽食
42	たご焼きトトロ 北大物町	たご焼きや
43		
44		
45		
46		
47		
48		
49		
50		

事業所名	住所	備考
1	上野酒店 金楽寺町2丁目	コミュニティストア上野
2	豊村酒店 金楽寺町2丁目	酒店
3	森永牛乳金楽寺販売店 金楽寺町2丁目	牛乳製品全般
4	ドラッグマン 金楽寺町2丁目	薬屋
5	すえひろ北公園前 金楽寺町2丁目	お菓子屋さん、アイスクリーム
6	一平 居酒屋 金楽寺町2丁目	居酒屋
7	三平 お食事所 金楽寺町2丁目	食堂
8	喫茶アンシャリー 金楽寺町2丁目	手作りのケーキと喫茶
9	喫茶グッピー 金楽寺町2丁目	喫茶スナック
10	ユートピア鶴亀温泉 金楽寺町2丁目	大衆浴場
11	(桂) KATURA 金楽寺町2丁目	喫茶・ブティック
12	ニッコースーパー 金楽寺町2丁目	スーパー
13	エミ薬局 金楽寺町2丁目	
14	手打ちうどん 屋島 西長洲町2丁目	うどん・丼等
15	ファッションひかり 西長洲町2丁目	婦人衣料
16	中華料理 ちゃんぽん 西長洲町2丁目	ラーメン・中華
17	小寺酒店 西長洲町2丁目	酒店・居酒屋
18		
19		
20		
21		
22		
23		



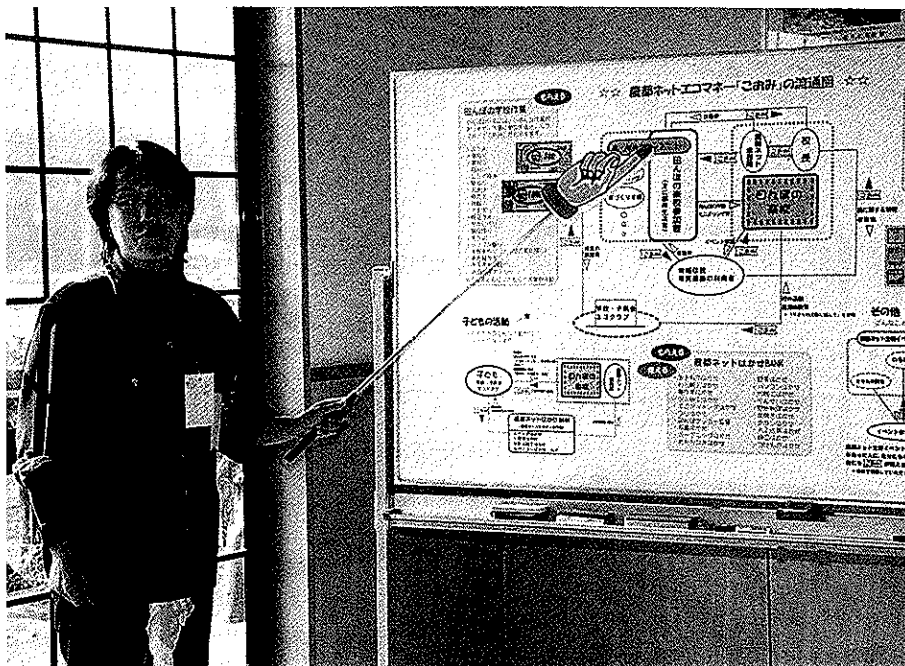


## 【5 農・都共生ネットこうべ】

通貨の名称	こおみ（木見）
通貨の形態	紙券タイプ
単 位	お米1kg=500こおみ
実 験 期 間	平成13年11月25日～平成14年2月23日
流 通 範 囲	神戸市西区木見地区 ※農・都共生ネットこうべ会員、関連団体の会員、木見市民農園利用者など
参 加 者 数	150名
導 入 の 目 的	都市と農の交流の活性化をめざし、現在会員間での流通にとどまっている地域通貨を、地域住民やイベント参加者、関係団体まで対象範囲を拡大し、流通させる。
参 加 方 法 及 び 仕 組 み	<p>《参加方法》</p> <p>「田んぼの楽校」の作業やイベントに参加すると入手できる。</p> <p>《取引の仕組み》</p> <p>当事者間で直接取引を行う。</p>
事 務 局 の 役 割	<p>① 地域通貨の発行、管理</p> <p>② 情報収集</p> <p>③ 各種イベントの実施</p>
主 な 取 引 実 績	農作業、有機野菜の購入、バンド演奏のお礼、パソコン指導、車での送迎、フリーマーケットの運営、イベントへの参加など

<p>団体の事業評価</p>	<p>《良かった点》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・流通実験を行うことにより、地域通貨の活用方法や獲得方法を色々考えることができた。</li> <li>・多くの方が田んぼの楽校に参加してくれた。</li> </ul> <p>《反省点》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ある特定の人にたくさんの地域通貨が貯まる。</li> <li>・こおみで、収穫物を購入できるため、法定通貨の円と同じように見られ、本来の目的である人間関係や心のつながりを築くためのツールとしての意味が理解されにくい状況を作りだしている部分もある。</li> </ul> <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・こおみ長者のニーズを把握し、こおみが循環するようにする。</li> <li>・法定通貨と違うツールであるといったことをもっと理解してもらえるようにする。</li> <li>・木見地域周辺のニュータウン住民、市民農園利用者への浸透。</li> </ul> <p>《総括》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・円で換算できない田んぼの価値、メダカ、ドジョウ、スミレ、彼岸花、涼しい風、美しい景色などを都市の住民に理解していただくツールとして地域通貨は有効なものと思う。</li> </ul>
<p>参加者の感想</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お金で表現できない農の価値（田んぼのつくる涼しい風、癒しの空間、丹精込めた安全なお米など）を地域通貨を使って表現していきたい。</li> </ul>

## 〈活動の様子〉

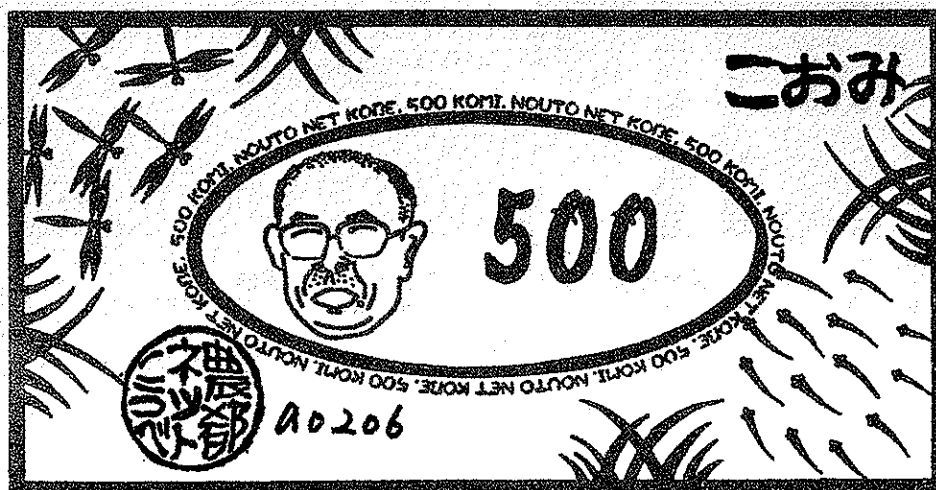


地域通貨に関するワークショップを開催



バザーの開催（有機野菜も「こおみ」で購入可）

〈地域通貨「こおみ」〉

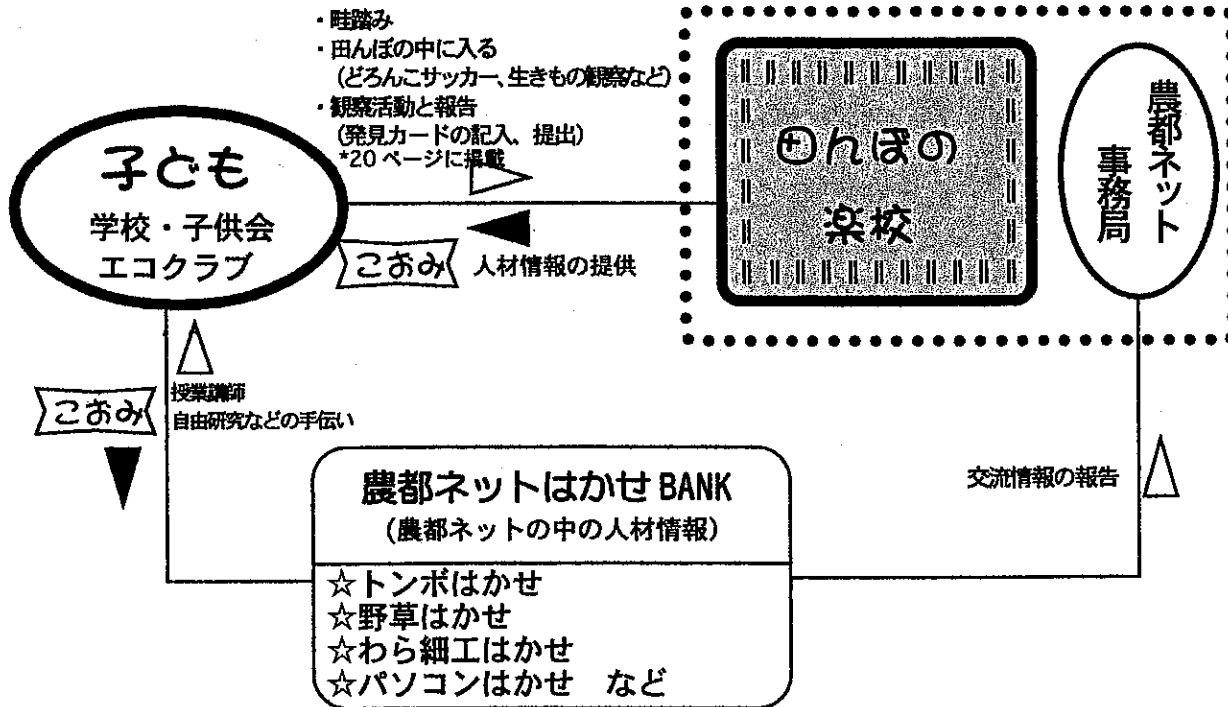


## 〈使い方表〉

### ● 「こおみ」のさまざまな使い方 ●

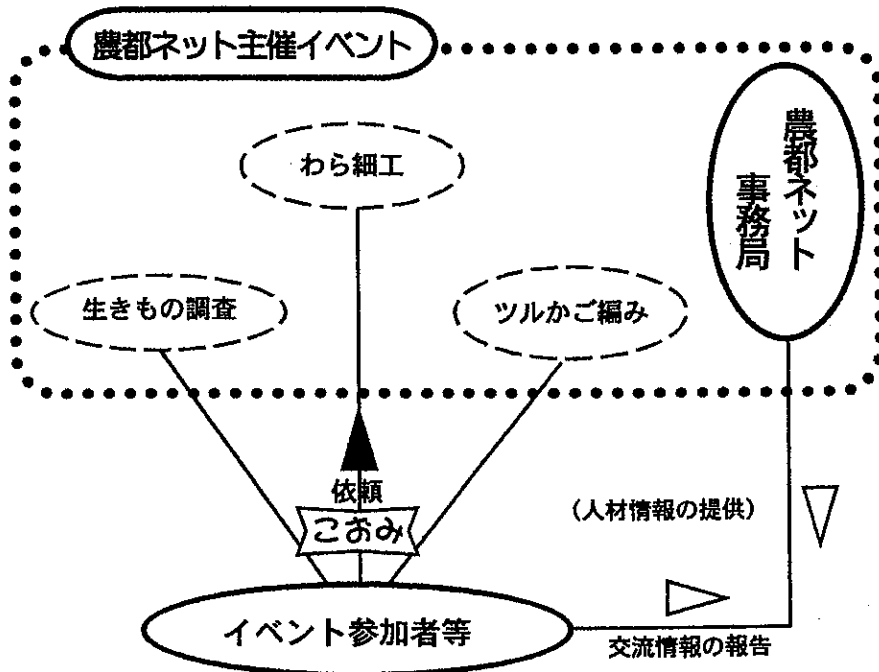
#### 【子どもの活動に関して】

子どもたちのこんな活動がエコマネーになります。  
こんな使い方もできます。



#### 【その他】

こんなこともできるかも



農都ネット主催イベントに参加した人が、イベントを通して知り合った人に、  
自分たちのイベントなどへの講師依頼をする場合にも「こおみ」が使えます。

\*両方で相談していただくことになります。

## 〈サービスリスト〉

### ● 「こおみ」のさまざまな使い方 ●

農都ネットはかせ BANK	
生きものはかせ	野草はかせ
わら細工はかせ	パソコンはかせ
農作業はかせ	竹細工はかせ
ツル細工はかせ	くんせいはかせ
エコクッキングはかせ	野外料理はかせ
つりはかせ	炭焼きはかせ
田んぼサッカー監督	かかしはかせ
写真はかせ	大工仕事はかせ
ガーデニングはかせ	納豆はかせ
おもちつきはかせ	つけものはかせ

エコマネー「こおみ」では、色んな田んぼの収穫物が購入できます。(価格は変動します)

田んぼの楽校・収穫物一覧
コメ (餅米)
稲わら
レンコン
クワイ
メダカ
ドジョウ
アイガモ
ヤゴ
コオイムシ
ツクシ
セリ

### できること・してもらいたいことリスト

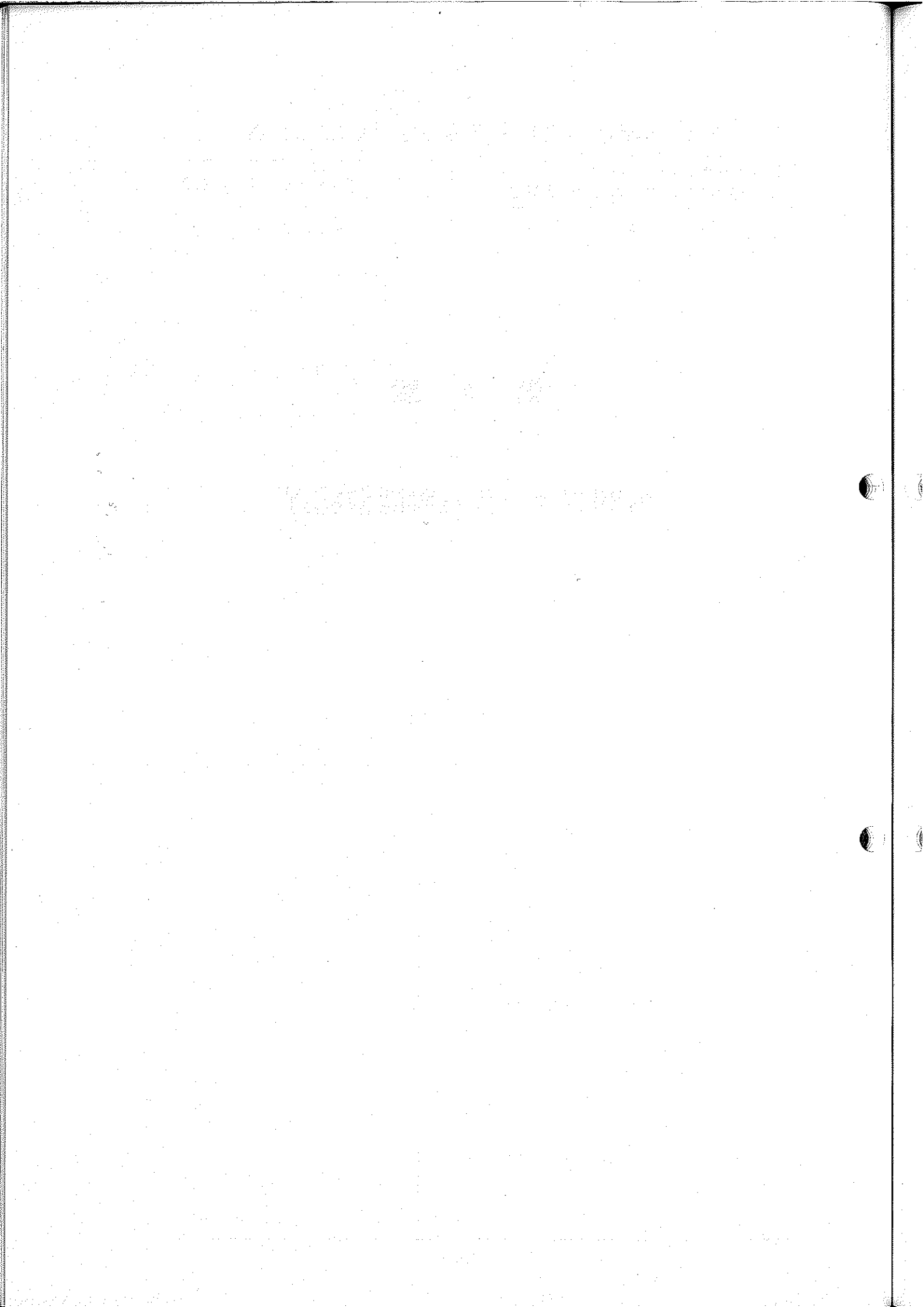
(2001年11月25日の収穫祭の参加者へのアンケートより)

できること	してもらいたいこと (教えて欲しいこと)
お菓子作り	いろいろ食べたい
力仕事	炭焼き、くんせい
お手伝い	つるで籠やリース作り
パン作り	カモの解体と試食
わら細工	しめ縄作り
水中撮影、写真	料理方法
おいしいシチューをすること (イベントなどの) 後方支援	わらぞうり、わら細工
花を作る	麦わらがほしい
野菜作り	なんでも結構ですので教えてほしい
料理	酒(?) 作り
ソーセージ作り	
中華赤飯作り	
道直し	
作物をつくる	
草刈	
おもちつき	
フラワーアレンジメント	

## 第 4 章

### 公開フォーラム等開催記録





# 1 地域通貨フォーラム



◆開催日時 平成13年6月9日(土) 13:30~16:00

◆開催場所 兵庫県立中央労働センター 小ホール

◆内 容 13:30~ 開 会  
13:35~ パネルディスカッション・意見交換  
コーディネーター 小西 康生(神戸大学経済経営研究所教授)  
パネリスト 相川 康子(神戸新聞社論説委員)  
内山 博史(地域通貨おうみ委員会代表)  
山本 麗子(宝塚NPOセンター理事)  
15:50~ 地域通貨実験支援事業内容説明  
16:00~ 閉 会

## 地域通貨フォーラム 発言録

<小西>

それでは早速始めていきたいと思いますが、まず最初に、皆さんからお話をいただく前に、私の立場といたしますか、自己紹介を多少させていただきます。

私の紹介のところに、専攻分野が経営情報システムというように書いてありますが、実は経営情報システムが一番大きな看板で、その下に、国際比較統計というのがあります。国際比較統計というのはSNAという国民経済計算をする分野なんです。それプラス、貨幣計算をできないような、我々は社会会計、ソーシャルアカウンティングと言っていますが、そういったところの部分を含んで、生活の質を評価して国際的に比較しようというのが本来の与えられた仕事です。そういったようなところからですね、家計の生産機能、例えば、シャドゥワークなど色々評価されてない所を何とか評価するにはどうしたらよいか、或いは評価していくにあたってどういう評価の仕方があるかというような所が私の一つの関心なんです。

もう一方で、私も大学院の時に金融論をやっています、少しまだ金融論の名残もあります、最近のグローバル経済というような話とか、或いは、市場主義といったような所からですね、金融メカニズムがそういったグローバルな所でやられていて、実際国際市場で出回っているお金の額がですね実際の貿易の7パーセントなり、或いはせいぜい10パーセントぐらいであると。そんな所から出てくる色々な問題があってそれをどう出さなければいいのかと言うようなところ。その2つのところから、こういったローカルカレンシーに関心はかなり昔から持っています。ただ、今日のフォーラムのタイトルに地域通貨と書かれているのは、少々抵抗があるんですけども、ローカルというのは、一方の言葉がですね、グローバルというのがありまして、そのグローバルというのはどこでもっていう意味ですが、ローカルというのはなにも地域というような地理的な限定ではなく

てですね、ある限定的な流通圏というような、それくらいの感じで考える方がいいんですけども、他にいい言葉がとりあえず見つからないから、地域通貨と言うような用語でもしょうがないかなと思っています。

今日は実際にですね、地域通貨を導入されたり、また、色々実体や文献をよくご存知の方が3人お見えになっていただいておりますので、色々お話をして頂いて、皆さんご関心のある方は、これから、こういったものを取り入れて、例えば、失業対策だとか、或いは地域振興だとか、コミュニティの創造だとか先程言いましたシャドゥワークと言いますか、無償労働ですけども、これを何とか評価してこうと、そういったようなところに少しでも関心がおありの方たちのお役に立てばと思います。

ではまず、内山さんからお願いしたいと思います。



<内山>

皆さんこんにちは。地域通貨おうみ委員会の内山博史です。本職は、奈良の方でNPO政策研究所というNPO法人で専従スタッフをやっております。

今日は、「地域通貨とは何ぞや」というあたりはまた後の話になると思いますので、まず最初に、「おうみ」自身が、どういう経緯で生まれてきて、今どんな事をやっているのか、そういったことを簡単にご説明したいと思います。最初にどんな経

緯で起こってきたのかという事をまずご説明したいと思います。それで、口頭でお話しするのもなんですので、実を言いますと非常に分かりやすく説明していただいたビデオがあります。以前2年くらい前になってしまうんですけども、NHKの方に取材をしていただいたビデオがありますので、それを観ていただいたらよく分かると思いますので、まずそれを見ていただいて、その後に、それで、今どうしてるのかということをお話したいと思います。

◀ ビデオ上映「未来派宣言（NHK）」 ▶

<内山>

こんな経緯で始まったんですが、実は、もともとは、こういうセンター（草津コミュニティ支援センター）のボランティアの人に出すということでやってたんですが、去年の10月から、そのセンターの中のおうみ事業部という所を団体化しました。それで、団体化する中で地域通貨おうみ委員会という事業部を独立させました。今は、「おうみ」は新しくリニューアルしたんです。それで、もともとセンターの利用クーポン券みたいなかたちで始まった「おうみ」なんですが、個人間でサービスのやりとりとか、あと先程も野菜が出ていましたけれども、地域で獲れたものや手作りのものをお互いやり取りしていきましようというような、そういう、まあ、地域通貨と呼んでいいのかわかりませんが、交換の道具として、この「おうみ」をつかっていこうとなりました。

「人の駅」という、これは商店街の中の空き店舗なんですけれども、その空き店舗にですね、おうみのユーザーの人たちが交流できるスペースを自分たちで作りました。映画館の方がご好意で非常に安く貸していただいて、そのスペースを使いながら月に一回、「おうみ」でフリーマーケットをやったりとか、それからここでちょっとした勉強会や、そういうようなことをやったりしています。

そういう交流拠点を持ちながら、センターの方は草津市が建てた公設民営の地域活動センターな

んですが、こっちは完全に民設民営で作りまして、今、そういうのが2つ草津の地域にあって、また、センターの方も、この春から「おうみ」とは違う、本当にセンター内だけで流通する、もう1つの地域通貨を作りました。ですから、今は「おうみ」はセンターでは使えないんですが、センターの事務局に「おうみ」を持って行けば、センター独自の地域通貨とは交換してくれます。複数のそういった通貨が今、草津の中で回っている、センターの中だけでぐるぐる回るものと、センター以外のいろんな個人の方や、一部商店なんかも入っているんですが、まあ、そういった所で、割引サービスを受けられたりというようなことが、この「おうみ」をもって行われています。

「おうみ」の目的は、最初はセンターのボランティアを確保するといったような感じなんですけれども、自分たちで運営できるようにしていこうというのがそもそもの目的だったんですが、途中から「おうみ長者」なんかが出てくるようになって、個人がちょっとした助け合いができる為の道具にしていこうというように変わっていきました。それで、やっていく中でいろんな課題が出てきました。例えば、リストを作っても、「これができる」って事を皆さんあんまり言わないんですね。謙遜されるというか、教えるほどのことはない、とかですね、結構日本人の感覚として、あまりこれができるってことを表に出すというのは、なんかちょっと気が引けるんでしょうね。それで、どちらかというと「して欲しい」ということを皆がリストに登録をすると、それを見て、「あ、それだったらやってもいいよ」というように、ひと肌脱ぐっていうんですかね、なんかそういう人が出て来たりとかするので、もしかしたら「して欲しい」リストをたくさん作った方がいいのかなとか、そういったことも最近考えています。

それからもうひとつは、リストを作って電話の連絡先が書いてあっても、皆さんなかなか電話しないんですね。例えば、草取りをしますという人が3~4人登録してるんですが、しかし、草取りを誰に頼もうか、誰に電話していいかわからないんですね。そういう時に、やっぱり間にコー

ディネーターですか、「ZUKA」の方では2回目の実験から、コーディネーターの方が時々入ったりしてらっしゃいますよね。ちょっとそういうボランティアコーディネーターではないですけど、マッチングをする人が間に入ったりしてあげたり、あともうひとつ「おうみ」のほうでは、月に1回、やっぱりお互い顔見知りじゃないとなかなか頼めないんですね。ですので、先程フリーマーケットをやっていると言いましたけども、その場が、お互い知り合いになる場所なのです。そこでいろいろ自己紹介をやったりしながら、「あ、そうか、内山さんはパソコン得意なんですね。じゃあ、今度寺町にパソコン買いに行く時に一緒について行ってくれませんか。」「いいですよ。じゃあ何おうみで行きましょうか。」とか、何かそんな感じの、そこで約束をとりつけるというような場を設定して、やはり、なかなかリストだけ、それから電話番号リストだけ、インターネットだけ、そういう事ではなかなか交流は起こらないというのが一番最近感じている事です。

細かい運営のしくみ等についてはまた後の方で色々とお話が出てくると思いますので、とりあえずこんな経緯で始まった「おうみ」が今、「人の駅」や、月1回のフリーマーケットであったり、あとはお互いのちょっとしたサービス、して欲しいことを交換するときに使われています。

<小西>

それでは続きまして山本さんお願いします。

<山本>

皆様、こんにちは。宝塚エコマネー実験運営委員会事務局担当の宝塚NPOセンターの山本です。

宝塚の場合は、「おうみ」さんとはちょっと様相が違っておまして、市民の支え合うシステムづくり、コミュニティの活性を目的にいたしまして、宝塚市内にございます20のまちづくり協議会、こちらのほうは市のコミュニティ課の方が設置をすすめてまいりましたまちづくりのテーブル機能なんですが、小学校区ごとに設置されておりまして、人口が1まちづくり協議会で約1万前後、多

いところで1万5千~6千あります。こちらのまちづくり協議会を窓口といたしまして、実験の呼びかけをいたしました。昨年8月から10月まで第1回の実験を2か月間行いました。その後、いろんな課題が出てまいりまして、それにいろいろ検討を加え、改善を加えながら、今度6月からまた第2回の実験に入っております。宝塚の場合も啓発用のビデオを市民の皆さんで作っておりますので、そちらをまずご覧頂きたいと思います。

《ビデオ上映「エコマネーZUKA」》

<山本>

ご覧頂きましたように宝塚の場合は、コミュニティづくりということで、地域のコミュニティが窓口として動いております。宝塚の場合は「おうみ」さんとは違いますが、「おうみ」さんを参考にさせて頂いたんですが、かなり大きめ目のおもちゃの銀行券のようになっております。裏書きをする方式で、サービスをやり取りしますと裏に記録をとっていただくというようなかたちで使っております。ビデオにも出てまいりましたが、朝市ですとか散策路の整備ですとか、そういったことにも「ZUKA」が「ありがとう」という感謝の気持ちを込めて渡されております。それが、まちづくりそのもの、具体的にどういうことにつながるのかとよく聞かれるのですけれども、運営委員会では今の段階ではこういったエコマネーの運営を皆さんと一緒にやって頂く、そういう中から地域の課題もいろんな運営上の課題も出てまいりますが、そういったことを地域の中で解決していく



こともまちづくりの大きな基礎固めになるのではないかと思っております。

<小西>

どうもありがとうございました。

それでは、最後になりましたが、相川さんをお願いしたいのですが、相川さんは直接今までおふたりのお話のように、草津や宝塚といったような、そういう話ではなくて、もう少し広い立場から色々お話していただきたいと思えます。

<相川>

神戸新聞社の相川です。

私自身は地域通貨を実践しているコミュニティに参加しておりません。ですから、やや野次馬的に外から見た印象のような話になるかと思えます。

私は、以前は情報科学研究所というセクションにいまして、コミュニティ・ビジネスについて調査研究したことがあるんです。何がコミュニティ・ビジネスかという定義の話を始めるとややこしいので、とりあえず「地域住民が地域のために役立つ事業を、一定の収益を上げつつ、だけど営利目的じゃなくてやっていく」程度の意味合いでご理解ください。ともあれ、その取材で、東京都の墨田区でコミュニティ・ビジネスを実践研究している仕掛け人の方とお話する機会がありました。そこで、初めて地域通貨的なことを耳にしたのが、関心を持つようになったきっかけです。

コミュニティ・ビジネスにも課題や限界があって、物やサービスを地域内で循環させようとしても、ひとつひとつの事業同士はなかなか繋がらないんですね。そこに潤滑油として貨幣の代わり、すなわち「地域通貨」を導入してみたらどうだろうと、その話を伺ったときは、ちょうど不況で失業問題が騒がれ始めた時期でした。そこで例えば、現金収入がないお年寄りが子どもに昔話をしあげたり、ちょっとした留守番なんかを引き受けることで地域通貨を貰う。それで地域内の食堂で食事ができたり、買い物ができたりしたら、生活保護制度とか福祉施設に頼らなくても、コミュニティの中で生きていく事ができるのではないかと。そうい

う半分夢のようなプランとして伺い、興味をひかれました。

そうこうしているうちに、NPO政策研究所の仲間である内山さんが「おうみ」を始める。そして、兵庫県のコミュニティ・ビジネス・ゼミナールの講師で一緒にした山本さんも「ZUKA」にかかわり始める。「なんで皆、こんなに地域通貨にハマるんだろう」と思いながら、私も本を読んだり、ちょこちょこ取材もしてみました。

私が知っているだけでも、神戸の新長田の再開発ビルで流通している「アスタ」や、東灘区のコミュニティ・サポートセンター神戸が手がけている「かもん」と「らく」、それから北区の方で農・都共生ネットこうべが使っている「こおみ」など、神戸市内だけで3つ4つの地域通貨があります。県内では、他に三田のほうでも始まっていますし、川西や篠山の中心市街地活性化計画の中にも地域通貨の導入が提案されています。経済界でも、神戸経済新生会議という所が、今年初めに出した政策提言の中で、地域通貨の活用の支援によるコミュニティの活性化をうたっています。それから去年の1月だったと思いますが、兵庫県の農林水産審議会が出した答申の中にも、中山間地域の里山管理を都市住民が手伝ったときに地域通貨を渡すような交流ができないかということが盛り込まれています。

ちょっと意地悪な言い方をすると、地域通貨が大変なブームになっている。ブームになるのがいけないのかなとかどうか、という議論は後ですとしまして、ここでは私が野次馬的に見て「これは面白いな」と思う地域通貨の側面を三つお話しします。

一つは、地域通貨の世界では誰もが主役になれることです。さっき申し上げたように、現金を稼ぐことができない人でも地域通貨だったら受け取りができる、さらにサービスを供給する側になれるということです。「私には何の特技もないわ」と思っている人でも、ひょっとしたら他の人に「ありがとう」と喜んでもらえるような意義のあることができるかもしれない。これは、その人にとってすごく自信になりますよね。寝たきりの方

でも、趣味の指導とか、地域の昔話を子どもたちに教えてあげることができるかもしれない。今はボランティアの世界でも「してもら側」と「やってあげる側」との固定化が問題になっていますが、地域通貨は立場を逆転させることができるおもしろいツールだと思います。

二つ目は、内山さんや山本さんの方がお詳しいでしょうが、地域内でしか流通しないのでコミュニティ意識を高めるのに確実に役立つということです。「ZUKA」は、宝塚に関連づけてスマイルのデザインですよね。「おうみ」も貝とか橋とか、琵琶湖に関わりのある図柄です。農・都ネットここの「こおみ」は、実験農場で栽培した稲わらを、自分たちで紙すきしてつくっています。地方の名産を紙幣のデザインに盛り込んだり、顔写真を組み込んで自分のものとアピールしたり、いい意味でも悪い意味でも、遊び心を発揮して、仲間意識や信頼関係を高める。そのあたりが地域通貨のポイントの二つ目ではないかなと思います。

それから三つ目、個人的にはこれが一番面白いと思っているのですが、物の値段を自分で決めることのできるということです。こんな体験、意外と無いんですよ。私たちは普段、消費者として、表示されている値段で物を買うしかありません。既存の価格設定の中には、例えば、女性の労働の対価は男性の6割とか、納得がいかないものもたくさんあるのですが、とにかく他人に決められた価値の中で「円」は流通している。ところが地域通貨の場合は、自分で物事の価値を決めていいんです。例えば、同じサービスをしてもらうのでも、自分にぴったり合うやり方だったり、相手がとても努力をしてくださった結果だったら値段を高く支払うこともできる。今は「公平公正」の名のもとに、一律で、気がきかないやり方をしていることが多すぎます。地域通貨は、ある意味では「おもちゃ」なので、いい意味での「えこひいき」をしても摩擦が起こらない。そういう融通がきく考え方をするとというのが大事な視点だと思っています。

<小西>

どうもありがとうございました。

3人からまず最初に自己紹介とともに、それぞれ実際にやってらっしゃることや全般にわたって広くお考えのことについてお話をいただきました。皆さんの方にたぶん誤解は無いと思いますが、こういった地域通貨というのは、なにもごく最近にあった話ではなくて、かなり昔からありました。古いものは1830年くらいにロバート・オーウェンから始まったんだろうというように言われています。「イサカアワー」だとか「タイムダラー」のエドガー・カーンや「LETS」のマイケル・リントンとかいったような人たちは、そのロバート・オーウェンを参考にしたと言われています。

それから、20世紀に入っても色々ありました。特に、大恐慌のあたりはですね、アメリカなんかでは、たくさんの地域通貨が発行されたわけですね。で、今は、ごくごく最近の、ひとつのブームと言ったらいいですかね、1970年代くらいから色々考えられていて、実際に始まったのは1980年を越えて、「LETS」は1983年ですが、あと、「イサカアワー」はもう少し後ですし、それくらいから始まったんです。だから、今動いているのは、非常に新しい動きです。ずっとその間無かったのかと言うと、連続と続いているものもあります。例えば、アルゼンチンなんかにも、ものすごく長く続いているのがありますし、スイスやドイツにもあります。やはりどちらかといえば、経済が少し不況になってきて困ったときにこういったようなもので、何か活性化していくというのが、ある種ずっと繰り返されたことなん



ですね。今動いている動きがこれからどれくらい続かなという事なんですが、やはり以前とは違って少し続かなという感じがしています。

ただ、皆さんに少しお聞きしたいのですが、なにもかも貨幣で測るとというのは、地域通貨だとはいえ、通貨ですから、価格をつけて測るということについてはどうなのでしょうね。だから、私忙しいから、やりたくないから、これ払ったら済ませるよ、というようなことでいいのかどうか。そういうことに対しても、ある種批判もある。しかし、これを道具としてとりあえず活性化するためにはやったらどうかといった意見もあるし、そういったような事も含めて、これを実際に内山さん、山本さんの所がやり始められた時点でどういったところが少し難しかったかといったようなところをお話いただいたらと思います。相川さんについては、もっとお金で働くというのはどうなのか。例えば、別の話をしますと、女性の労働が中心なんですが、家事労働って言いますか、それが無償労働の中心ですね。それを、ニュージーランドとかオーストラリアでは、GNPの中に入れてるんですね。ですが、人によったらそれは遅れているんじゃないか、逆行しているんじゃないかと。わざわざ貨幣で測らなくてもいいんじゃないか、貨幣システム自体がおかしいのに、また貨幣に戻るのにはちょっと違うんじゃないのというような言い方もしてますね。ですから、最初、これをやられるにあたって、どんな所が問題だったのか、或いは課題だったのかというようなところ、少し内山さんの方からお話も出てましたけれども、さらに、再度改めて今日ご出席の方は、やってみようという方もいらっしゃると思いますので、ご紹介いただけたらと思います。

<内山>

今、お話にありましたけれども、逆に言うと、こういうことが無いとできないっていうのは、結構さみしいことだなという気もしています。

日本だっておそらく昔は「結い」というかたちで結構お互いが助け合うということを地域の共同

体の中でやっていたと思います。そのとき、それぞれの人の中でこの地域通貨が巡ってたんだと思うんですね。誰かに助けてもらったから、じゃあお礼にこういうことをしてあげようとか、そういう地域の中で一定のルールだとか、慣習みたいなのがあったのかもしれない。そういう中でこういう手間をお互いに出し合う、汗をかき合う、みたいなところで助け合っていたことってあると思うんです。ところが今、この都会で、都市化した街の中でお互いに助け合いといった話をしたところで、なかなかできるものでもなくて、すべてが現金でもってサービスというのは購入するものだからですね、物々交換なんてすいぶん少なくなってしまって、お醤油を隣に借りるなんてことは無いですね。代わりに「じゃあ、お砂糖を貸してあげます」といったことだってもうあんまり無いわけですから、そういう意味ではこの地域通貨があるっていうのはちょっと実を言うと寂しいことなのかもしれないという気もしています。ですから、小西先生がおっしゃったように、「おうみ」をやっている地域通貨はどんどん流通させることが目的ではないので、結局そこで、どういったそれぞれの持っていた悩みとか、困ったことが解決されているのか、しかもそれが行政や企業などに頼らずに自分たちでどう解決できるか、そういう部分を追求してみようと考えています。

それで、やっぱりやりとりしていくとだんだん水臭くなっていくんですね。特に、初期の頃から「おうみ」を一緒にやっている人でも、おうみ払いていうのは逆に水臭くなって、「いいよ、いいよ」という話になってきたりとか、実際「おうみ」をやりとりしないで、最近「つけおうみ」と僕は呼んでいるんですけど、皆つけをしまくるんですね。「じゃあ、今度20おうみぐらい出すから。」とか、「こないだ20おうみつけあったよね。」とか、「そしたら、じゃあ、そこから10ってことでマイナス10で、10つけね。」とか言われて、これは、「おうみ」が流通するんじゃないかと、頭の中で流通しているんじゃないかという話を僕ら自身もするようになってきて、だんだん顔見知りになってきて、助け合いとかお互いにやり取りが盛



んになってくると、そういう風に、別にこんなもの使わなくてもいいよという感じになってくる。ただ重要なのは、なかなかそういう事を、コミュニティというんですか、輪の中に入るといのが、外から見えないんですよ。見えないから自分が助けて欲しい、仲間に入りたいと思っても誰にアクセスしていいのかわからないということがあったと思うんです。この地域通貨のシステムをやると、まあ、それで水臭くなっちゃう人はいいんですが、でもやっぱり困っている人がいて、誰かがこういう事ができますよって言ったら、そういう人でも入ってこれるんですね。出入りが自由なわけです。ある種「結い」とかでやっていたような世界というのは出入りがもしかしたら難しいのかもしれない。1回入って受け入れられたら、ずっとすごく安心なんですけれども、逆に新しい人はなかなか入ってこれなかったり、そういう欠点というのがもしかしたらあったのかもしれない。そういう中で、こういう地域通貨という目に見えるしくみがあると、新しく入ってくる人が入りやすいのかなという気はしています。そういう意味では、これはこれで続けていった方が、いろんな人が入ってきますし、やっぱり、そもそも楽しいですから、新しい人が来ると。「へえー、そんな特技持ってる人だったのか」とかですね、わざと、「じゃあ、その人に今度看板づくりお願いしてみようかな」とか、お金と違って名前とか顔がものすごくわかる世界なので、誰々さんに作ってもらったこれだから嬉しいとか、そういう世界だと思うんです。決して今の円の仕組みを否定するつもりはないんです。それはそれで大切なことですし、グローバルで何か物がやり取りされない限り、おそらく地域の豊かな生活もたぶんどできないと思うんです。ですから、何かこう閉鎖された、自立した地域社会を作ろう、独立国家を作ろうみたいなことではないと思うんです。そういう中でただ補完的に補助的にお互いにこうやって付き合えるものがあるじゃないか。実はやってみたら結構楽しいじゃないか。いきいきしてきたね。なんか自分も人の役に立っている感じがするね。そういうようなところで回っているような気がし

ます。

<小西>

内山さん、「おうみ長者」ができて、違った利用の方法を考えたというお話ですが、「おうみ長者」はプラスだとしましょう。逆に、たくさんやって頂いてマイナスがたまってきた人も当然出てくるわけでしょう。

<内山>

マイナスがたまる人というのは、「おうみ」は全部プラスなのでないんですが、普通、こういう紙券型のタイプじゃないLETSというのがあるんで、そっちは実はさっき言った「つけ」みたいなものをどんどんしていくことができるんですね。実際、いろいろしてもらいたいただけで、「おうみ」が無くて頼めないという人は出てきますよね。で、そういうのは、はっきり言ってどうするかというと誰かが寄付してくれたり、逆にある程度親しくなっていたら、「おうみなんかいよいよ。」みたいな感じで、そういうところで解決しているような気がします。

<小西>

場合によったら、たくさん食器などを持っている方が、例えば、「食器を使ってください」だとか、あるいは「パーティーをするんだったら場所貸しますよ」とかね。そういう、体を使わなくて、或いは実際にサービスをしなくたって何か皆さんに使っていただけるような、そういったものを考えるのもひとつだし、場合によっては、ある期間を限ってキャンセルしちゃってね、もう1回やり直しましょう。ゼロから始めましょうというようなかたちもあると思うんですけどね。どうしてそういうかたちは選ばなくて、今のかたちになったんでしょうか。

<内山>

最初、世界中にはいろんな方法があるというのを知ったんですけども、まず、通帳方式というのは分かりづらいということで却下されました。僕

は最初通帳方式を言ったんですが。また、時間のやり取りをしようと言ったら、それは美しいんですけど、つまり、例えば子どもが肩たたきをして1時間、弁護士のプロの人が法律相談にのっても1時間の券がもらえます、というのは確かに美しいんだけど、僕らのメンバーには、割と現実的な人が多かったのか、こういう紙券って言うんですか、「これの方が貰った感じがするし、使って嬉しいな」という話になって、こうなりました。

だから、あんまり深く考えてやったというよりはみんなで楽しく始めてみようと思えるところで始めてみた。それで、実際にやってみたら「おうち長者」の問題なんかが出てきてリストを作ろうと思った。でも、リストだけでも駄目だから実際にマーケットを作ってみた。そういう行き当たりばったりですとやっていっています。

<小西>

山本さんの所は、2回目の実験をされていますよね。私が知っている限りでは、LETSの場合なんですけれど、導入するのに半日あったらできると書いてあります。通貨を発行するというのは相川さんのお話にあったけれども、遊び心と言いますか、そういったので楽しいというはあるでしょうけど、そんなことにコストをかけていいのかというような気もします。そのあたりはいかかでしょうか。

<山本>

確かにどなたかがこういうシステムを考えられて、中心になって、ご自分でデザインなさって印刷して紙幣の発行ということでしたら、本当にごく簡単にできるかと思うんですが、宝塚の場合ですと、まちづくりのコミュニティごとに窓口を開くということで、コミュニティで窓口を担当していただく方、何人かの方に関わっていただくというようなことでしたのでそのあたりの人材、それから拠点の問題というような、まちづくりでこれまでも課題となっていたような事がエコマネーの場合も同じような課題としてあがっております。去年は2か月で実験を行ったわけでなんですが、

そのなかで難しかった点というなかで、内山さんもリストのお話をされていましたが、リストに対して抵抗がある方々とリストは財産だと言われる方々と、これはコミュニティの年代でもかなり関わっておられる年代が違いますので、若い方は財産だと言われる方が多いですね。年代の高い方ほどこれはプライバシーの侵害だし、自分の家庭内で本来片付けるべきことがリストになってコミュニティにまわるのは快く思われない。宝塚の場合ですと、「してほしい」と「できます」の比率といますのは、「できます」の方が「してほしい」リストよりも1.5倍ぐらい多いんです。まず、申込書に「してほしい」と「できます」という事を書いていただくんですけども、「できます」の方が圧倒的に多いんですね。ですから、宝塚の現在取り組んでおります4つのコミュニティというのは、ほとんど住宅専用地域なんですね。それも開発業者が開発して、いちどきに流入人口が増えた。これは開発の時期によりますので古いところでもう30年近い歴史がありますし、新しいところでも震災前ぐらいからという所もあるんですが、これまでのコミュニティの形成がやっぱりリストの受けとめ方にも関わっているのかなというように思うんです。やはり地域で自治会ですとかPTAですとか子ども会ですとか、それぞれ世話役があってやっておられるんですが、やっぱり、ある個人に集中しがちというのはどの地域でも同じ現状なんですね。ですからこういった新しい仕組みで新しい方を発掘していくことで、まちづくりをどなたにでも参加していただけるような、これもひとつのエコマネーの効果かなと思っております。

<小西>

もうひとつお聞きしたいのは、宝塚の方では特にコミュニティづくり、コミュニティスピリットをつくりましょう、或いはそれを再生したいというお話なんですけど、イギリスで聞いた話なんですけど、コミュニティスピリットを作るんだったらビジネスはいらないと、参加する必要はないといってるんですね。ビジネスを入れるんだったらまた

違ったやり方があるよと。地域振興だとかいう目的だったらそれは入れてもいいけど、そうでなかったらビジネスを入れるべきではないんじゃないかと、そういう話を聞いたんですが、少しはビジネスも入れていらっしゃるようなんですけども、そのあたりはどうなんですか。

<山本>

ダイエーさんもコミュニティのなかの一員であるという観点から一緒にコミュニティ活動に参加をしたいということで、前は「ZUKA」を提供していただいただけという形なんですけれども、今回はもっと循環そのものにも入っていけるような、まだちょっとそのあたりの話し合いや調整ができていなくて、いい方法が見つかってないんですけども、ビジネスだけで地域に存在するという企業のあり方ではなくて、コミュニティの一員としてコミュニティづくりにもビジネスを離れたところで参画できるような方法を見つけていければいいのではないかなというところで、まだ、確たる、これだという理想論とかの目処が立つることではないんです。

<小西>

宝塚もそうだし、草津もそうなんですけど、そういった事業体が入るといことは、地域通貨だけではなくて普通の円ですね、それとの交換性がはっきりして、併用しているということですか。

<内山>

宝塚の方は、円との関係は全然無いみたいなんですけど、「おうみ」の方はあるんです。実は「おうみ」の方はタクシー会社が「おうみ」でタクシーに乗れるというようなサービスをやってまして、これはもともとは地域で、例えば病院に行く時に、草津は急に人口が増えたものですから、公共交通機関があんまり発達してないんです。それで、結構、皆マイカーで移動するんですよ。そういうなかで、何か地域の足としてタクシー会社が貢献できればということで、滋賀京阪タクシーが「おうみ」を受け入れてくれているんです。利用者は

少ないんですが、そういう意識からこの会社の方は関与して下さって、「おうみ」を受け入れた結果どうするのかということなんですけども、「おうみ」を使ってタクシー運転手が、例えばお年寄りの方の介護タクシー事業をやっていくときに、施設でボランティアをさせてもらう時に施設にお礼として払いたいというような事をおっしゃっているんですね。さっき山本さんがおっしゃっていたような、事業をコミュニティ化していくっていうんですか、今まであまりそういう事を意識せずにやってきた事業をコミュニティベースでやっていこうと思うときに、「おうみ」で、繋がっていくことができるんじゃないかというように思われて入ってこられたんですけども、問題はやっぱりそこで出てくるのは、1おうみは一応100円とは言ってますけれど、普段やっているときは全然気にしないでやりとりしているんですね。ところが、タクシーなどが入ってくると、それがモロに100円なんです。そうすると、いつもやり取りしている、「内山君、今度パソコン教えてよ」「3おうみでいいですよ」とか言って2時間ぐらい教えただけ、「2時間で300円か」と思ってくるわけです。まあ、でも3おうみで、大根が3本貰えたりとかしているんで、300円よりはいいのかなとか思ってみたりするんですけど。業者が入ってくると難しいのはそこで、やっぱり業者の方とも実は顔が見えるというか、どういう思いでやってらっしゃるのか、そういうところを共有できないと。タクシーの場合はタクシー会社の専務さんが非常に福祉に熱心な方で、共感してやれたんだと思います。

それから、もう1つ映画館でも使えるんですね。シネマハウスというところで、1000円プラス「おうみ」で映画が観れるサービスになってるんです。これも映画館の社長さんが元JCの方で、結構まちづくり等で活発な事をやっていらっしゃる方で、「私も力になりたい、やりましょう。」みたいな、そういう感じで入ってこられるわけですね。だから、事業者といってもツーンと澄まして入ってくるわけではなくて、もう少しお互い顔の見えるところで何かできないか、ここが考えていらっしゃる

るのは「おうみ」が貯まっていてイベントの時に手伝ってくれたボランティアの方に払いたいとか、将来、敬老の日にシニア映画祭みたいな事をやりたいから、その企画と一緒に手伝ってくれる市民活動団体の人に「おうみ」を払いたいとか、そういう思いがあって受け入れている訳です。

ただ、最近税務署の方がよくおうみ委員会に来られるようになりまして、「これは何ですか」というように質問されるんですね。今、ずっと話し合いをしている最中なんですけど、要は映画館など、業務としてやっているところが地域通貨を受け入れるときにそれを収入にあげるのか。それから、またそれを例えば、ボランティアに手伝ってもらって払ったときにそれを経費として支出に計上するのか、みたいなところを今話し合ってる最中です。

#### <山本>

宝塚のダイエーの場合は、ダイエーさんで会員が「ZUKA」を使えるということは無いんですけど、今の段階では「ZUKA」を広く啓発するという意味を含めて、ダイエーさんでは障害者の方が直接お店に来ていただいて、社会参加という意味も含めまして、地域の方とより広く接する機会をもつという事で、同伴して介助された方に、エコマネーを提供しているんです。

#### <相川>

小西先生から「何もかも貨幣価値で測ることの弊害について話して欲しい」ということですが、おそらく、地域通貨も公平公正に捕らわれすぎると、第二の「円」になってしまう危険性があるというようなことでしょう。

そういう意味では、地域通貨は目的を絞って、しかもあまり期待をかけないでやるのがコツのかなと思っています。

コミュニティを活性化するには、いろんなツールや手法があります。例えば自治会活動を想定した場合、会合の時間帯を変えることで活性化するケースもあるでしょうし、さっきおっしゃっていたフリーマーケットのようなイベントやワークショップを開く手もあります。ボランティアでやる、あ

るいはコミュニティ・ビジネスでやるなどいろいろ打つ手はあると思いますが、その中のひとつに地域通貨を位置づける。「ワン・オブ・ゼム」の期待度でちょうどいいのではないのでしょうか。地域通貨を導入したらすべてがバラ色といった過大な期待は禁物です。期待をかけても、劇的な効果があがるわけではないので、結局、地域通貨なんて何の役にも立たないという不当な評価をされてしまいます。この問題のこの部分の改善に役立terという限定目的でやった方がいいのでしょうか

限定の仕方ですが、さっき内山さんが言われたように、通貨を介さないでもできる人間関係というのはそれはそれで手を出す必要はないと思います。ただ、通貨を介することで出会いにくい人たちが出会える効果は確かにあります。「ZUKA」の紹介ビデオで、阪神タイガースの元監督と子どもとの交流が紹介されていましたが、彼らは普段はなかなか出会えません。あの監督さんもおそらく、ブームになっている地域通貨だということで面白がって来てくださったんじゃないかと思います。会社員とか学生さんもそうですね。なにか目新しい、おもしろいと思えるようなメニューが無かったら、なかなか地域の方を向いてはくれません。すでにボランティア活動をしている人の中でも、なんだか物足りないと感じている人向きに、メニューの中に地域通貨を入れれば魅力がアップして面白いんじゃないかと思います。

さて、「何もかもお金で計算するのか」「お金で働くのはどういうことか」という話ですが、小西先生がおっしゃるとおり、例えば、アンペイドワークと呼ばれる主婦の家事労働の値段を推算したデータなど、数値化は「諸刃の剣」だと思います。算定した金額に対して「その程度か」と思う人と「そんなになるのか」という人がいますよね。個人的には、だからといって、数値化の試みをやめてしまうのではなく、いろんな人がいろんなシャドワークを推算してみて、結果を公表する。そして、「それは安すぎるんじゃないか」とか「こんな要素を見落としている」というような議論が始まればよいのではと思っています。

<小西>

先程相川さんもおっしゃっていたように、やらないよりやった方がいいだろう。やってみたらどうかと。あくまでもこれは道具なんですよ。だから何のためにこれを使いたいのかというような事ははっきりしてやる必要があるのでしょうか。例えばLETSで言いますと、英語圏で流行ったのが最近ではヨーロッパ大陸にも行ったり、あるいはアフリカにも行ったり、東南アジアにも行ったりしているわけです。しかし、問題になっているのは、それを広げていく上でどうかなという時にですね、内山さんがチラッとおっしゃいましたが、税務署が来られるということなんです、やはり税金、税務当局との関わりがどうかという所が、非常に大きくて、所得税の対象になるとか、ならないとかで、オーストラリア・ニュージーランドなどは、しないといってるんです。だから広がっている。イギリスは国がはっきりしてないんです。地方当局でそれぞれ対応が違うんですね。ある地方当局では盛んにお手伝いに行ってる所がある。そうかと思ったら非常にシビアにとりたてている所もあって、税金だけではなくて年金だとか、いろんな給付がありますが、その受給資格が無くなっている所もあるんですね。それから、税金の問題でどうかっていう話と、あとですね、皆さんやってらっしゃる所はまだ組織がしっかりしているようなんですけども、これまでですね、実体があんまりはっきりしていなかったんですね。調べに行ったらというレポートを読んでも、1年或いは2年ぐらいしか経ってないのに、かなり無くなっていて、あるいは活動をやってないよっていう所が出てきていると。それで、それを確かめたら、やはり最初の創始者がどこか行ってしまったとか、あるいは亡くなったとか転勤されたとか、あるいは、やったら何かトラブルがあったことがあってうまく続かないっていうのもたくさんあります。その代わりに、次から次、簡単ですから出てきているというのがあるんですけども、継続していくうちにいろんな目的が変わってしまうかもしれませんが、例えば、地域の活性化、あるいはコミュニティスピリットだとかシャドウワークの顕在化というこ

とが重要だと思うんですが、そういったようなことに役立てるために、何がこれから重要なんでしょう。

<内山>

今、小西先生がおっしゃったように、あんまり構えずに、どんどん立ち上げてどんどん潰すぐらいの方がいいのかなって感じがしています。

例えば草津のセンターでもう一つの地域通貨が立ちあがりますと言いましたが、もう1つさらにあるんですね。元気村というNPO法人が「エココイン」というのを出してまして、それは時間を単位にしたというか、子どもたちが環境に関するイベントに参加すると、1枚コインがもらえるんです。コインの図柄が12種類あって、12種類全部集めるとまた新しいコインがもらえる、なんかラジオ体操のスタンプみたいな感じなんですけども、最後はTシャツに替えてもらえるんですね。それが地域通貨なのかどうかはわからないけれど、子どもたちの間では交換があるんですね。それで、お互いにちょっと遊びを教えたり教えられたりとか、高校生くらいのお兄さんが一緒にキャンプに連れてってくれたりとか、そういう参加費もそれで払ったりとか、そういう事を行っているんですよ。そういうタイプが、いろいろどんどん出てきたらいいと思うんですよ。別に1つの地域に1つのシステムっていうことではないし、コミュニティ、例えば僕なんかはいろんなコミュニティに属することが可能だと思うんですね。例えば僕は3種類の地域通貨が草津にあってもいいと思うんですね。それぐらいの気持ちでどんどんやって、目的ごとに応じて作ったらいいと思います。

シャドウワークを顕在化させる為にというような事なんですけど、何かその、上から見て顕在化させようというのは、僕はなかなかそういう立場でないのだから出来ないんですけど、基本的に隣にいるおばちゃんが、私なんかは、夜遅くまでいたいいつも仕事してますから、夜に仕事していると「内山さん、おなか減ったやろ。」とか言って、おにぎりとか作って来てくれるんですよ。そのおにぎりを食べた瞬間ですね、「それ、1おうみや

で。」とか言われるんですね。で、「えーっ」とか言って「分かりました。」「まあええわ、今度な。また今度払ってな。」とか言われるんです。でもたぶんそういったことが、僕はわからないですけど、そこで「ありがとう」って私がそのおにぎりを食べる事は、「内山君、いつもおいしそうにありがとうって食べてくれるけど、うちの主人なんか絶対ありがとうって言ってくれへんもんねえ。」とかおっしゃるんですよ。そういうのはシャドウワークの顕在化なのかどうか分かりませんが、多分そこで嬉しくなっているとかいうことを僕自身が地域通貨を介しながら、お隣さん感覚でどんどんやっていくのが僕の出来る事なのかなと思っています。

だから、仕組みをどうこうしてくれという事ではなくて、この仕組みを使ってそういう交流をして、ちょっと面白い会話の1つでもあったら、何か「あっ、結構ウチの手芸の技っていいのは受けるかもしれへん」とかですね、何かそういう事を思う人がぼつぼつと出てくるとか、そういう事が出来るのは結局これに入っている人が、どうかかわりをお互いにするかということにかかっているんで、仕組みそのものが解決してくれるとはあんまり思っていないです。

<山本>

継続できること、という事なんですけども、宝塚の場合ですと、運営していく地域の人たちと一緒に全体の運営委員会を構成しています。そのなかに研究者の方ですとか、企業の方もお入りになられて、前回の実験ではサポート委員会といった人たちがかわられました。事務局として見ておりますと、現場は現場をまわしていくことに精一杯な部分があるんですね。どう流通させようかコーディネートをどうしようかどういいう仕掛けを作ろうかというところがありますから、やはりそういう、客観的に見られる立場の方が運営に関わってというような組織づくりをされること。それと、ある一定期間をおいて必ず検証してみる。検証を繰り返しながら、地域通貨が目的を果たしているのかどうかを見ていきながらバリエーションをつ

けていくということが必要じゃないかと思います。

いつも一定のもので地域が変わっていくとは思えません。やはり、地域通貨も生き物ですし、地域、コミュニティも生き物ですから、お互いの状況の変化にどれだけ合わせていくことが出来るかが1つ継続のポイントかなと思います。

やはりコミュニティづくりの、ある過程でしかないと思うんですね。エコマネーの継続ができればコミュニティができるというものでもないと思いますので、コミュニティを作っていく1つの過程をどこまでエコマネー、地域通貨というものに持たせるのか、それはコミュニティ自身が判断する事ですので、自分たちが持っていますコミュニティの現状や課題を分析した上で使っていかなければ、さっきからお言葉が出ていますけど、なかなかブームだから自分たちもやってみようかということでは、消えてなくなるということになるんじゃないかと思います。

<小西>

山本さん、宝塚の場合は税務署の方が来られたらどう答えるつもりなんですか。

<山本>

現時点では、円との関連を持っていませんし、労働を評価するという点に関しましても、エコマネーでお互いがやり取りをしてもいいというもので、それが経常的に評価されるようなものでもなく、月に1回程度のペンキ塗りであったり、草ぬきであったりというものであれば従来の地域の助け合いのなかで、いわゆる所得に評価されるようなものではないと考えております。ですから、これがまたそういうかたちに使われるとなると全く別の対策が必要になるかと思います。

<小西>

特に、公認会計士の方が何かやられるとか、歯医者さんが治療をやられるとか、或いは喫茶店が、両方扱うよ、なんという話になったら、本来的な、専門的な仕事をやっていらっしやる時と、それからそうでない仕事といえますか、社会への参加、

関わりの時とは分けて考えるというようなことで言ってるみたいですね。しかし、どれくらい役人の人が理解してくれるか、その辺り分からないからとりあえず、ディレクターとしては、取引の書類は全部つくりなさいというのが欧米の言い方のようです。

それから、所得が仮にあったとしても、それは就業ではなくてトレーニングだと。次の雇用のための就業のためのトレーニングとしての期間だから就業ではないんだと言いなさいという指導をしていると言っています。

もうひとつは、現物給与というのが、イギリスなんかでも税金の取扱いが非常にややこしくははっきりしていないところらしいですね。だから現物給与である限りはそれほどでもないかなという感じはしますけども、日本だって取引の形態によって何かいるような可能性がある。ですから、そういったことで、地域通貨を運営されていらっしゃる人たちは、あらかじめ考えておく必要があるのかなという気が外から見えていらします。

#### <山本>

宝塚では、そこまで取引が盛んではございませんので、それは運営する側としては、必要な事だと思いますね。国内法、いろんな部分で抵触する部分も出てくるかと思しますので、そういったチームを作って検討していくということが必要かと思えます。それと、シャドウワークの顕在化の部分で私はちょっと、これをエコマネーで顕在化はするかもしれませんが、評価の部分になるとちょっと、地域通貨で評価するのはどうかと思っています。

#### <相川>

これは実践している人、あるいはこれから始めようとしている人に聞いてみたいんですが、地域通貨の評価軸とは何でしょう。あるいは、何がどうなれば地域通貨は「成功」といえるのでしょうか。関わる人数が増えればいいのか、流通量が増えればいいのか、延々と継続していく事がいいのか、あるいは「おうみ長者」や「おうみ貧乏」の

ような人が出ずに、ほどほどに回っていくような状態がいいのか。たぶんどれも違いますよね。そんなふうに、私たちが今まで持っている価値観で地域通貨を評価すると間違ってしまう。本当はツールであるはずの地域通貨が、いつの間にか目的化してしまって、どんどん人数が増えるのが良いというように本末転倒してしまいがちです。大事なのはソフトの部分。例えば「知り合いが増えた」とか「今まで何の特技も無いと思っていたけども結構私には力があるんだ」と気づくこととか、さっき「おうみ長者」の話が出ましたが、そういう時に「いいよ、いいよ」とか「寄付するよ」とか、そういう柔軟な解決方法に関わってるメンバーが出せるかどうか、そのあたりがたぶん評価のポイントなのかなと思います。

それからもう一点、シャドウワークの顕在化という事に関してですが、これは地域通貨があってもなくてもやるべきことだと思います。地域の中には、清掃とか防犯とか、たくさんコミュニティワークがあります。それを顕在化させ、正当な評価をするべきです。もう一歩進んで、行政の仕事はどの分野で、それは効率的に運営されているかどうかという検証もしたいですね。そんなレベルまで高めていって、住民と行政の比較や担い手の話まで議論できれば非常におもしろいと思います。

#### <小西>

最初のローカルカレンシーの評価とは何だというようなことについて、皆さんいかがでしょうか。

#### <内山>

どのへん目指しているのかっていうことなんですけど、あんまり難しく考えてなくて、僕らの中では結構これが良かったなということは、この3年間の間に、皆こういう事をやりながら草津の町のことを結構喋るようになったんですよね。「あそこに今度道路が通るみたいなんだけどどうするの」とか、結構そういう話を一緒に飲みながらしたりする機会が増えました。同時に町の課題のことについて結構いろんな人が入ってきて、一緒に

なって話して「今度これ1回やってみたらいいんじゃないか」とかいう話が出てきたり、またコミュニケーションが活発化したっていうのはすごく感じてます。

ちょっと、世の為じゃないけど町の事を考えようよ、みたいな雰囲気が出てきたのは僕はいいい事だと思いますし、これはずっと育てていきたいと思っています。

そう考えるとですね、実は地域通貨は自治のための道具なのかなという気がしているんですね。経済循環とか言いますが、もちろんそうなんでしょうけれども、自分たちのことは自分たちで決めて自分たちで解決するんだという事に気づいていくための道具なのかなという気がしています。こういうところが僕の中では評価基準なのかなという気がしています。

<山本>

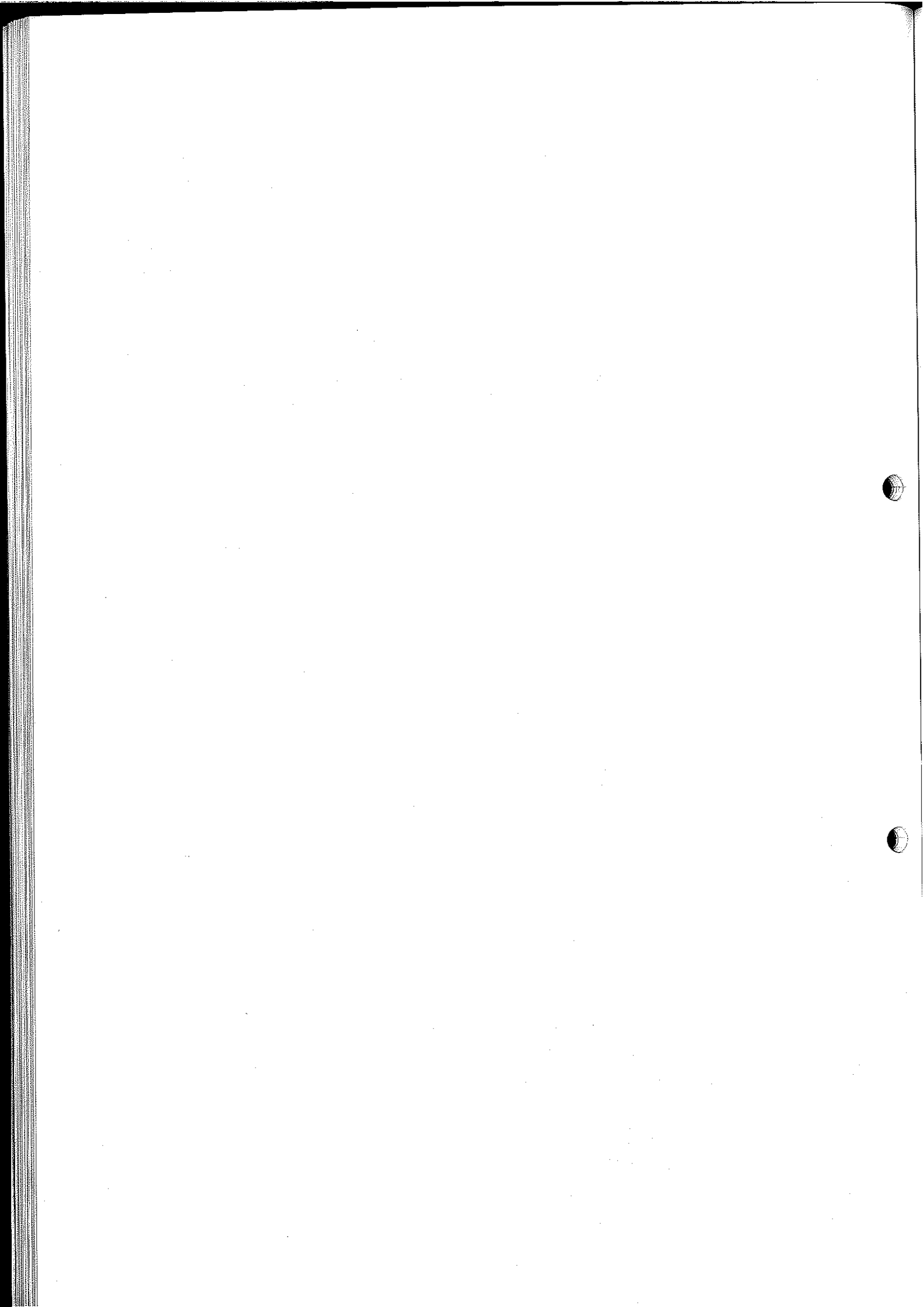
私もほぼ同じなんですが、解決方法は住民自らが身につけていくといいますが、さっき相川さんが課題解決出来るかどうかとおっしゃられたんですが、解決出来る為の手段を地域の中で自分たちで見つけられていくかということと、地域に対して自分たちが関わっていく過程の方が大事なかなと思います。いろんな困難があって、そのプロセスを地域で共有していく過程そのものが評価に繋がるんだと思います。

<小西>

どうもありがとうございました。予定の時間なんですけど、もう既に3人の皆さんから結論らしいことをご指摘頂いているわけですが、もしもご関心のある人は、私が推薦するのはイヴァン・イリイチという人の一連の著作を見られたら関係のあるようなところが結構でてくるんじゃないかなと思います。そこで彼が言っているなかで、「ラディカルモノポリー」というような言葉があります。根源的独占というようなことなんですけど、だんだん過密的あるいは集中型の市場が進んできて、選択の余地がだんだん縮まってきた、狭くなってきた。それで、経済問題だけではなくて、価値観

や文化だとかいったようなものが画一化されてきつつあると。そういった画一化に対するひとつの対抗策として、こういった地域通貨というのは、活用できるんじゃないかと言っています。それによって、先程もお話がありましたように自分たちのことを自分たちで決める、イニシアティブを自分たちが持つというような社会をつくっていったらどうかと、そういう道具として使えるのではないかと。そのためには内山さんもおっしゃっていましたが、お1人が1つのグループに加わるのではなくて、幾つもの、多数のグループに加わって地域通貨だとか、いろんなタイプのもがあると、それに加わりながら、それぞれがいろんな所で自分の持っているタレントや、参画意欲と言いますが、そういったものを発揮していける。そういう機会を提供する1つの道具としては非常に有望なのではないかなと思います。ですから、1つはグローバリゼーションと市場中心主義というようなあたりから経済的には出てきているんでしょうけれども、もっと広い側面から評価することによって、もっと選択の幅の広い社会を作ると、そのためには、埋もれているいろんな資源と言いますが、それを再活性化すると。そういうようなかたちで地域通貨を使えるような事が出来るのではないかなと思っています。





## 2 第1回地域通貨意見交換会



◆開催日時 平成13年9月16日(日) 13:00~15:30

◆開催場所 阪神・淡路大震災復興支援館 多目的室

◆内 容

13:00 開 会

13:05 取組み事例紹介

①地域通貨「かもん」の取組み紹介  
畑尾 卓朗 (かもん'21代表)

②地域通貨「らく」の取組み紹介  
河内 昌子 (コミュニティ・サポートセンター神戸)

14:30 地域通貨意見交換会

進 行 役 小西 康生 (神戸大学経済経営研究所教授)

アドバイザー 相川 康子 (神戸新聞社論説委員)

内山 博史 (地域通貨おうみ委員会代表)

15:30 閉 会

## 「かもん」「らく」の取組み事例紹介 要旨

### 【 「かもん」の取組み 】

「かもん's21」の代表をしております畑尾と申します。神戸市東灘区鴨子ヶ原地区にある「茅渟の浦幼稚園」の園長をしております。

まず、最初にどのような経緯でこの「かもん's21」ができあがったのかということをご説明したいと思います。当初は、全員が地域通貨ということについては何も知らない人ばかりの集まりでした。そもそものきっかけは、2000年の2月にコミュニティ・サポートセンター神戸が鴨子ヶ原地区の住民を対象にされたアンケート調査でした。

鴨子ヶ原地区というのは神戸市の山手にあるのですが、非常に坂が多くて、地域の住民もかなり高齢化してきています。開発されてから42年になる地区なんです。開発された時にお住まいになった人達はだいたい若い人でも30歳前後になっています。30~40世帯くらいの方が、ここへ住みついたのですが、それから42年が経っており現在、平均年齢は70歳以上といった、そういうような地区です。

それで、この坂のきつい町で住民がいったいどんな生活意識を持っているのかということ、コミュニティ・サポートセンター神戸が調査された訳です。その報告会というのが、「茅渟の浦幼稚園」で行われました。

その時の調査で、まず一番に分かったことが、高齢者が住民の大半であるということです。

住むことに関しては、気候は良いし、空気は良いし見晴らしは良いし、きつい坂をカバーするだけの住環境がある訳です。治安も良いし、水害があっても水が溜まることはないし、そういう素晴らしい住環境はあるのですが、非常に高齢化してきたということです。

二番目に分かったことは、健康に不安のある人が非常に多い。そのような方が約4割ほどいるのですが、その割には介護サービスを受けている人は1割しかいない。皆さん、割合に元気なんです

ね。歳をとっているが皆さん元気なんです。

昨日も会の定例イベントである「お茶の会」を開いたのですが、95歳の方が元気に今までの健康の秘訣とか今までの生涯の話とか非常に楽しい話をしていただきました。「こんな良い会に出してもらって、今まで隣は何をする人ぞというような気持ちがあったのに、こんなに皆さんと仲良く話しをする機会を与えていただけてうれしい」と非常に喜んでいただきました。

三番目には、一日中誰とも話さない人はあまりいない事が分かりました。また、多くの女性はもう少し隣り近所の方と話をしたいと感じている。

四番目としまして、半分以上の方が地域の中でお互いに助け合うことを望んでいるということが分かりました。

そして五番目に、パソコン、園芸、音楽などの趣味や健康に関する講座に参加したいという希望が強い、そういう様な講座を聞きたい。

六番目としまして、庭の手入れや、家の掃除、荷物の運搬を誰かにお願いしたい。頼みたいけれどもしてあげようという人があまりいない。誰に頼んでいいか分からない。それで困っている。

また、震災の時に生まれた連帯感が薄れてきている。震災の時にちょうど私は地域の自治会長をしておりまして、幼稚園を開放し、そこで物資の供給を受けたりして、「自分の家にこんながあるので貸してあげるよ」とか、近所の人が集まってきたりして、住民同士が連帯感を持ったんですけども、それも震災から5年、6年と時が経つにつれて、だんだん薄れてきて隣の人が何をしているかわからない。そういうような空気が出てきているんです。

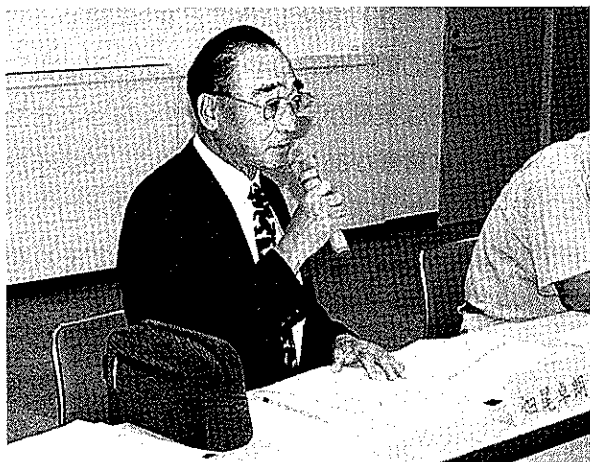
それぞれ助け合いをしたいなあという気持ちはあるんだけどどうしたらいいのか分からない。そういう時に、助け合いの輪を広げていくためにはどのようにしたらいいのかという事が話題に出た時にコミュニティ・サポートセンター神戸の方から地域通貨というものがあるというのを聞きまして、それじゃ、一回そういうものを媒介として

助け合いをすればやりやすいのではないかという  
ような考えが起きまして勉強会を重ねてまいりま  
した。

その時に、ちょうど神戸商科大学の学生さんが  
おられまして、その方が非常に熱心に地域通貨に  
ついて研究しておられて、ちょうどNHKのビデオ  
や既に各地で行われている地域通貨のビデオな  
どを見せて頂きました。

1年間を通じて5、6回集会を持ったんですが、  
その時に集まった人たちや、地域の人達が述べ人  
数でだいたい50名くらいいた訳です。そして、  
「地域通貨って良いかもしれないなあ」と、毎回  
毎回熱心に参加された方が7、8名おられまして  
その人達は成り行きで「かもん」のコアメンバー  
になりました。

そんな熱心な方がいらっやって、未だにすっ  
と続いて活動している訳ですけども、「かもん」  
はそれなりに、そんなに活発とは言えませんが  
も流通しております。



主なやりとりとしては、非常に日常的な事が多  
いんですけども、花の水やりをお願いしたり、  
買い物に行ったり、様々な教室を開いたり、それ  
からパソコンの先生もおりますのでパソコンの講  
習もありました。また幼稚園の草取りなんかもし  
ていただきました。会員の中に、ケーキづくりが  
上手な人がおられて、そこでケーキ作りの講習  
会を「かもん」で開催しまして、みんなでおいし  
いケーキを食べたり、また、腰の悪い方もおりま  
すので荷物運びをしたり、またお年寄りの話し相  
手をしたり、そういったかたちで、「かもん」は  
流通しています。

しかし、流通はしているんですけども、ただ  
流通するだけではせっかくの努力も、もう一つ発  
展しないような空気があるのです。というのは、  
もうひとつお互いの顔がよく分かっていない、気  
心が知れていないと言う様な課題が出てきまして、  
もっともっとお互いに関係を深め、「かもん」を  
利用して助け合い運動の輪を広げていこうじゃな  
いかというような事を考えました。分かりやすく  
言えば単に「かもん」のやりとりだけではなく  
「仲良しグループ」というような形で親睦の輪を  
どんどん広げていって気心やお互いの顔が分かる  
ような活動をしていくべきではないかと考えまし  
た。

コアメンバーの人達が毎月1回連絡会を開く事  
にいたしました。そして、「かもんニュース」(会  
報誌)を月1回発行しまして、初めは会員の紹介  
もずっとこれに載せていたんです。4月号には、  
お茶の会、納涼花火鑑賞会、そういったものが載っ  
ております。そして定例的に毎月第3土曜日に鴨  
子ヶ原3丁目の自治会館でお茶の会を開く事にし  
ております。そして午後1時から2時間ほど、コー  
ヒーとケーキを食べながらただ雑談をする場合も  
ありますし、この前は、地域の内科医の先生を呼  
んで健康に関するお話を聞きました。また10月に  
は身体障害者の方に話をさせていただいて、奥さん  
が隣で通訳をして、身体障害者の方の考えていらっ  
しゃることなどを、みんなで聞くことにしており  
ます。

そういうように毎月、お茶の会やイベントを考  
えまして、その度に地域の会員以外の人にも参加  
していただけるようにしております。そしてこん  
なグループがあるのかという事を皆さんに知って  
もらって「かもん」の中に入れていただいて、そ  
して地域の親睦の輪を広げていく様に活動して  
おります。

「かもん」だけのやりとりだけで終始するの  
ではなく、地域の輪を広げていくことによってまた  
「かもん」を利用する事が活発になっていくとい  
った狙いもあります。

そういう様に取り組んでいくのも一つの方法で

はないかなというように思っております。

### 【 「らく」の取組み 】

コミュニティー・サポートセンター神戸の河内と申します。地域通貨「らく」の事務局をやっています。

私たちがやっているのは、自分たちにできる特技やサービスを円ではなく仲間同士や地域で通用するお金で交換するという事です。誰がどんな事で困っているか、それに対して誰がどんな事が出来るのか、そんな情報を交換して、それをつなぐ事で地域を良くしようという事を目指してやっています。

大きなテーマとしては「コミュニティの再構築」というところで、それを達成する目的として助け合いのシステム作り、簡単に身近な言葉で言いますと近所づきあいときっかけ作りという所になるのではないかと思います。



具体的には、楽しくて楽になれるシステム、まさにこの地域通貨の名前の「らく」ということなんです。自分も周りの人達もこれに参加していて、楽しく楽になれるという事を目指しています。

そしてまた、誰もが参加していける様なシステム、助け合いとかボランティアって一部の人ややっているような状況があると思うんですけれども、高齢者だったり障害者の方だったり、忙しくて時間がないといった働いている世代の方とか、そういう方々にも参加してもらえそうなシステムを作りたいと思っています。

助け合いは、そんな大きな事でもなくたって、ちょっとした事でも相手にしたら喜びが大きいことってありますよね。例えば、旅行中に隣の人が新聞を取って、中に入れてくれるだけでも、とても助かったりしますよね。そういうことって時間がない人とかでもできる助け合いだと思うんですね。そういう色んな人が参加できるシステム作り、そしてまた双方向の助け合いのシステムですね、してあげるばかりの人とかしてもらえばいいとか、そういう事ではなくって、今日はしてあげて明日はしてもらおう、そしてまた違う人からしてもらってまた別の人にしてあげるといような関係作りを目標としてやっております。

次に、この地域通貨「らく」の実施に至った経過を説明しますが、最初は、1997年に「共同シール」の研究ということから始まっています。

その目的というのは、福祉のまちづくりに参加するボランティア活動の記録化、ボランティア団体との連帯関係作り、ボランティア活動に対する社会的評価の手法検討ということをして1年間やってきました。その間、NPOやボランティア活動に対する社会的な役割がますます大きくなってきたというような背景がありまして、次に、1998年からスタートした「ボランティアシールパイロットモデル事業」に流れていきました。そしてそれを2年間行っています。

この目的というのが無償ボランティア活動が生み出す価値を明らかにしてその役割の大きさを行政や社会全体に訴えていくために誰もがボランティア活動へ参加していけるようなシステムづくりということで、実際の活動内容といたしましてはボランティア団体の方に、そのボランティアの内容によってシールを貼って見えるような形にして記録化していくという事でした。

初年度の98年は、19団体で活動時間16,855時間です。そして、2年目の99年は25団体で41,270時間というボランティア活動を実際に皆さんがされているというデータがあがってきました。

その結果、見えてきた事は、その活動自体を地域社会と共有する、地域の公益活動の場でこういったことで助けられている人達がたくさんいると、

それで地域で助け合いを活発にできる可能性がそこにあるという事が分かってきました。それと、ボランティアそのものが減りつつあるという事です。震災後若い学生や色々な方がボランティア活動、助け合いに参加してきたのですけれども、ここにきて40代、50代の女性ばかりになっているという現状が見えてきました。そしてその次にボランティア活動が、双方向ではなくって一方通行の関係がそこにあるということが分かってきました。

そして、これらの事業を通して見えてきた事を受けて、地域通貨の勉強会を始め、2000年7月には、地域通貨「らく」を始めるに至りました。そこに参加したボランティア団体のスタッフが地域通貨「らく」を使ってサービスの交換を始めたという事が最初です。

「らく」の特徴としては、会員のほとんどがどこかのボランティア団体に活動されている方だという事と、会員が一定の地域に集中してないんです。東灘区全体に広がっていますし、また東灘区で働いていて、住んでいる所は別の所という方とかが入っているようなちょっと変わった地域通貨なのかもしれません。

具体的な内容なんですけれども、会員間の交換のみという事で、会員以外は地域通貨を使えなくなっていますので、とりあえず入会申込を最初にしていただきます。その時に事務局の方に申込書の提出と登録料1,000円と年会費1,000円をいただくようになっています。これは事務局の経費という事でコピー代にしたり電話代にしたり主に通信費ですね、お札をつくる印刷代とかもかかっていますので、それらに充てています。

会員登録をしていただいたら事務局の方から会員の方に20枚の「らく」と規約をお渡ししています。それから、メンバーの方の出来る事を書いたリストと、して欲しい事を書いたリストと、会員の方の名簿をお渡ししています。この名簿というのは基本的には毎月内容を更新してお渡しするようになっていますけれども、今、メンバーが20人程度ですので変更事項もそんなに無くて、2ヶ月に1回になる事もあります。

実際の取引の流れですけれども、事務局は基本的には介入しなくて、とりあえず会員の方の個人間のやりとりで直接交渉してもらうという事になっています。

「らく」の単位ですけれども、「かもん」と全く同じで円とは交換出来ません。そして、1らくが大体30分の労働と考えています。それと市販されていない手作りの物なんですけれど、大体そういう物は200円くらいの物で1らくというように交換しています。これはあくまで基本なんですね。例えば、すごく助かったといった場合は30分で2らく払ったりそういう所は臨機応変にお互いの交渉で決めていっていただくという事にしています。

また、交渉の時のポイントとしまして、直接電話しますので、時には断られる可能性もあるんですね。して欲しいと思って電話したのに断られると、ちょっとショックを受けたりする方もいますので、出来るだけ、出来る人からして欲しいって書かれている内容を見て、できるんだったらその人に電話をしてあげる様にすればいいんじゃないかなと思っています。

お札の説明をいたします。うちのお札というのはとても特徴がありまして、真ん中に自分の顔写真を貼ってその下にイニシャルを入れています。その周りの風景は、東灘区の特徴であるだんじりですとか梅林公園、六甲アイランド、白鶴美術館などを入れて地域の特色を生かしています。そして自分の顔が付いた写真が色々な会員の所に回って見られて、「あっ、こんな会員さんがいるんだ」という事にもなるんです。顔の見える関係といたしますが、現在は会員が20名くらいなので回ってこなくても大体顔は分かっています。それと、裏面なんですけれども実際に取引された日付と内容と受取人という事を必ず記入する様になって1年間経った後に、回収してどういうやりとりがあったのかという事を分析するようにしています。

一応新しいメンバーが入った時に顔の分かる関係を作ろうという事で「らく市」というのをして

おります。それは交流会のようなものなんですけれども、それでみんなで交流を深めて直接電話出来るような関係作りをしたいと思っています。

またここでは、フリーマーケットのように自分の古着であったり、自分の手料理であったり、そういう物を持ってきて実際に「らく」で交換したりという事もしております。

3か月の実験期間を経て、正式にスタートしましたが、その実験期間の利用状況をお話します。メンバーはその当時14人でした。利用回数は合計で106回で、平均2週間に1枚使われるような形になりました。ちょっとこれが多いのか少ないのかはなんとも言えないんです。2000年の10月から正式にスタートしたんですが、3月までの約6か月でお札の回収をしました。そこでの参加者は21名だったんですけど内4名は未回収でした。途中で辞めた方とかいらっしまったので未回収で終わってまして、こちら合計262回の取引で、2週間に1回くらいの利用状況というデータが出てまいりました。

今は2年目なんですけど、今回は4月から3月までの1年間実施する予定をしております。現在の会員数は20名（女性12名、男性8名）という状況です。先ほども説明した「らく市」を今まで3回と、今月末にまた1回実施する予定です。

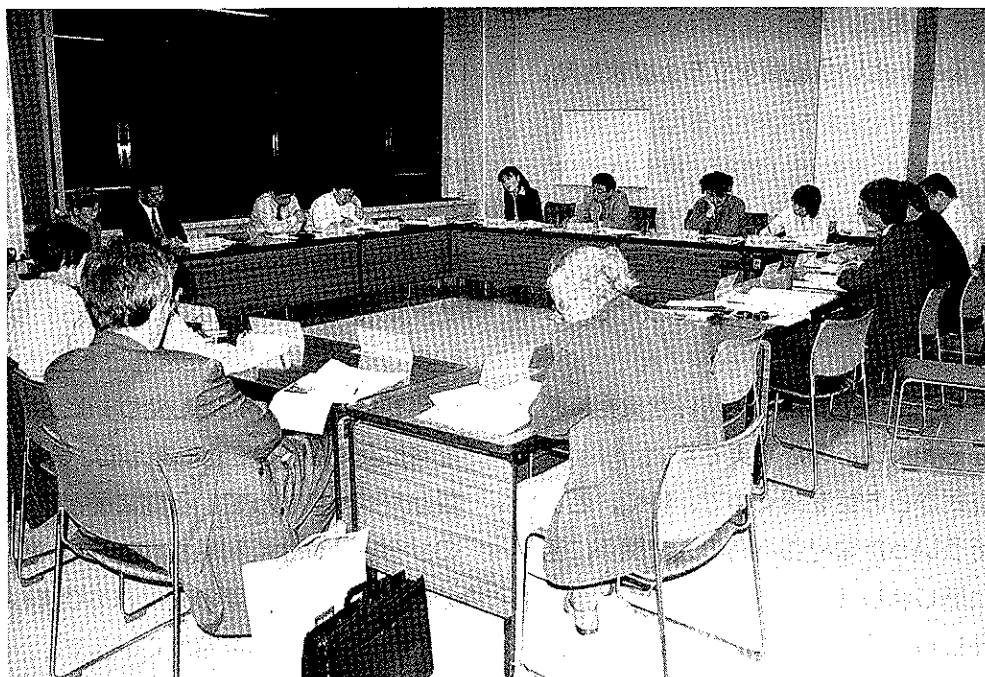
世話人会という運営について話し合う会というのがあってそれを今までに3回開催しています。あと全然広報活動とかしてなかったのが会員募集とか、初めて地元の方達に地域通貨を知っていただくと思ってイベントに参加しました。地元商店街の夏祭り「らく」を使ったフリーマーケットというのをしました。

本当に20人という少ない人数でやっていますのでこの会員の中だと地域通貨が、なくてもお互いお願い出来る様な関係が出来てまして、私は、地域通貨の目的というのは地域通貨がなくなっても、そういうお願いしあったり、お願いしてもらおうという関係ができるという事だと思うので、その20

名の中ではその目的は達成出来たのではないかなと思っています。

今後は、こういう関係をもっともっと広げていきたいと思っているので今会員をどのように増やしていったらいいのか検討中です。

### 3 第2回地域通貨意見交換会



◆開催日時 平成13年10月19日(金) 18:00~20:00

◆開催場所 神戸市勤労会館 307会議室

◆内 容 18:00 開 会  
18:05 地域通貨「未杜」取組み紹介  
赤井 俊子(新しいコミュニティを創造する会代表)  
19:00 意見交換会  
進 行 役 小西 康生(神戸大学経済経営研究所教授)  
アドバイザー 内山 博史(地域通貨おうみ委員会アドバイザー)  
相川 康子(神戸新聞社論説委員)  
20:00 閉 会



## 「未杜（みと）」の取組み紹介 要旨

兵庫県氷上郡の氷上町に住んでいます赤井と申します。地域通貨の取組みを始める前から、個人的にコミュニティづくりに関心を持っていて、そういったこともあり、地元で「新しいコミュニティを創造する会」という組織を立ち上げました。それが最初です。

### ● 地域通貨導入のきっかけ

氷上町のような農村部は神戸市などの都市部に比べて人間関係や隣近所の助け合いは今でも残っており、濃密です。

しかし、一方では、そういった関係を負担に感じている人も多くいるのが事実です。

いろいろ住民からお話を聞く中で、特に、若い母親などはそういった農村部特有の人間関係に苦勞していると感じました。

自分達が暮らし生活している地域である氷上町の住民の関係やコミュニティのあり方を何か変えていきたい、もっと良くしていきたいという気持ちがありました。

最近、周りに新しい開発団地などもでき、そこに住むようになった新住民や若い人達の中には地域の慣習・因習などといったものを非常に重苦しく感じている方もいます。

新旧問わず、若い人も女性も皆がコミュニティづくりに意見を述べられるような環境をつくりたいといった思いが強くなり、なんとか、農村地域特有の閉鎖性を打ち破りたいと考えたのが地域通貨取組みのきっかけです。

### ● 地域通貨の名称

丹波地域では、地域全域を「丹波の森」と位置づけ緑豊かな自然や伝統を生かそうという「丹波の森構想」というのがあります。地域通貨の名称については、その森（杜）と未来の未を合わせて「未杜」といたしました。

### ● 事務局体制・参加者

事務局は、自分の家を提供し、現在は電話代な

どもスタッフが全て自分で負担するような格好で運営しています。

最初はスタッフ5人で試行してみました。その後口コミや人づてで興味を示す方ができて、参加する人が増えてきました。参加者が比較的順調に増えていった要因としては、農村地域特有の人の連鎖的なつながりが大きかったのかなとも思う。

### ● 参加規模

平成13年の4月には会員が30名くらいになっていました。

当初にたくさん流通したサービスとしては、参加者に女性が多いこともあって、託児が多かった。誰かが病院にいてる間に子どもを預かるなどのサービスがよく利用されました。それから、自分の畑でとれた野菜の交換もありました。現在では、会員数も70名を越えています。

サービスのやりとりが活発なのも、地域的な特性として、利用しようという人がリストを見て相手の顔がだいたいわかるといった関係がすでにできているというのが大きいと思います。ですから、実際の流通に移るまでの過程も比較的早かったのだと思います。託児をお願いするにしても、リストを見て相手が知っている人か知らない人かでは預ける方の気持ちが全然違うと思うし、それが利用促進につながっているのだろうと思います。

### ● 会員の拡大

入会をすすめても最初は「自分は会員になっても何もできないし・・・」といった言い方をする方もいます。そういった方には、既に登録されている方のサービスリストを見せてあげると「これなら自分でもできるかなあ」といったことを発見し、参加するきっかけにもなります。

また、こちらが知っている人なら「あなたならこんなことできるじゃないですか」とか提案したりしています。そういったことで、これまで生かされなかった相手の能力を引き出せるということもできました。

### ● サービスの取引方法

「未杜」のやりとりは、コーディネーターが電話でお互いのやりとりを仲介するようになっていますが、最初はコーディネーターを通して、だいたい次からは、お互いが直接やっているようです。お願いしづらい人はコーディネーターを利用してもらったらいと考えています。

「未杜」の精算は、年に2回、7月と12月に行うことにしています。今年は、12月に第1回目の精算を迎える。心配しているのは、会員のうちの程度の人がちゃんと出席してくれるのか。場合によっては、「未杜つづり」(通帳)の取引が記録されているところをちぎって、郵送で送ってもらうようにしようかなどと考えています。

また「未杜つづり」には最後のページに新たに加入された人のものには、誰の紹介かがわかるようにIDと紹介者の印鑑が押してあります。



### ● 事故等に対する備え

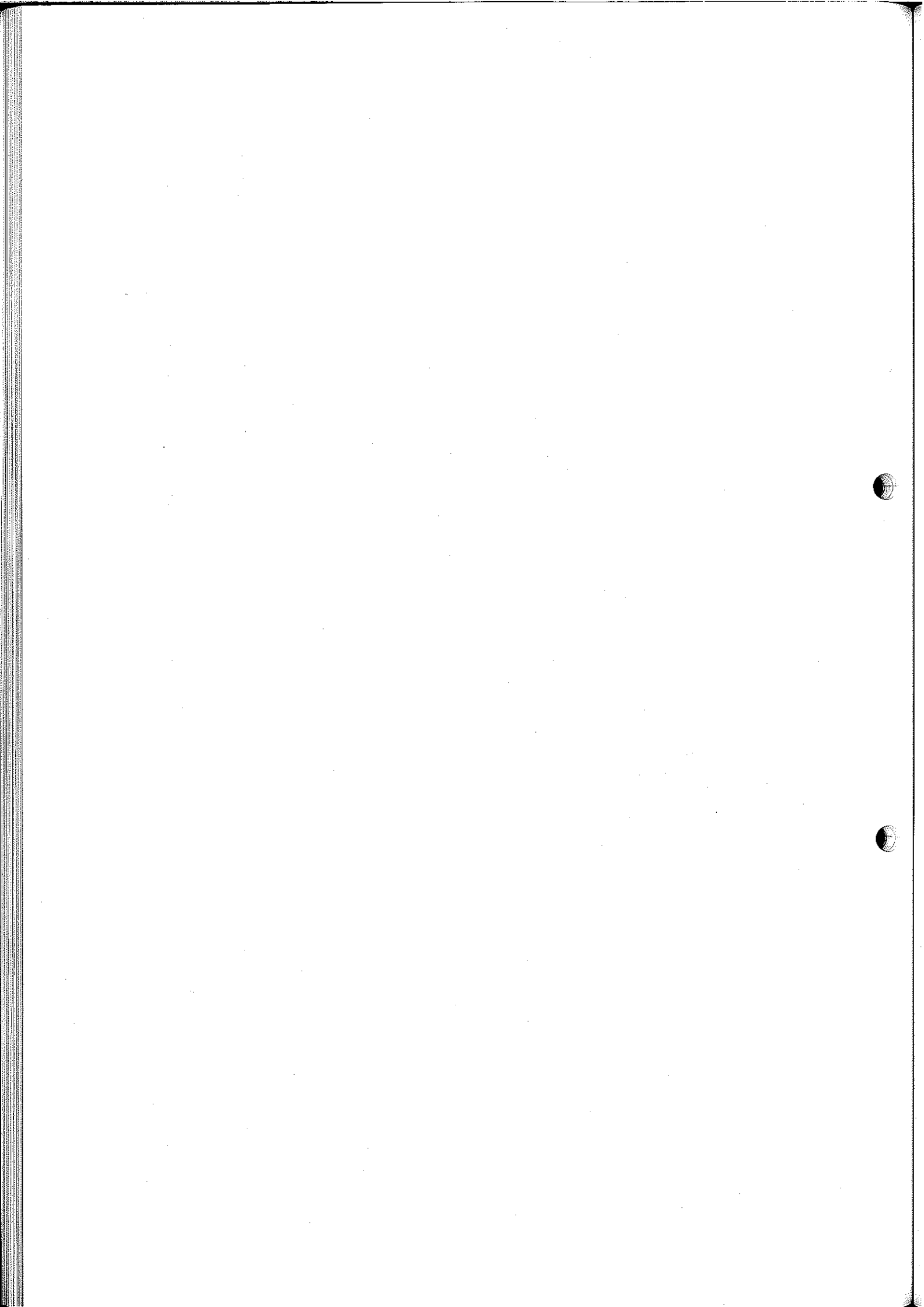
事故に対する備えとしては、特に心配される移送サービスをメニューとして登録されている方、サービスを受けたいといった方はボランティア保険に加入してもらっています。「未杜」は最初に「+500未杜」からスタートするようになっています。

今抱えている大きな課題は、円との関係をどう整理するのかです。私たちはできたら全てを「未杜」でやりたいと考えているがなかなかそうもいかない部分がある。今度行う「未杜パーティ」についても、最初は参加費を「未杜」にすることを考えていたが、結局、参加費は円にせざるを得な

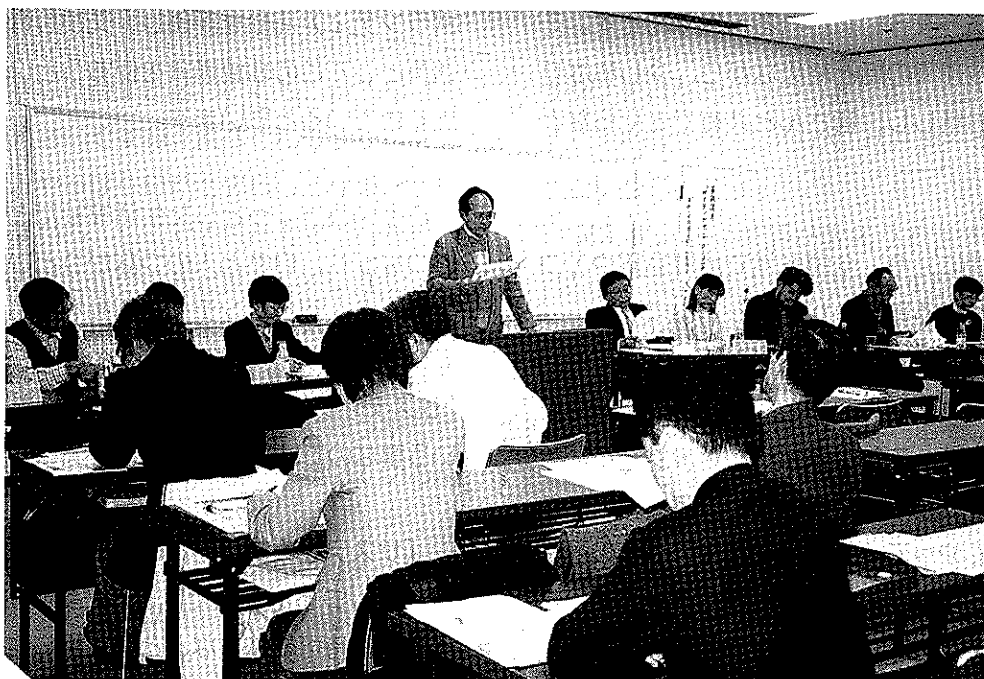
かった。

農村部なので野菜などは各自が持ち寄れば豊富にあるが、「未杜」で魚・肉を買えない。第1回未杜パーティを12月5日に通貨の精算を兼ねて、「柏原悠々の森自然寺」で行うが、イベント(未杜パーティ)を運営していく中でも「未杜」を活用できるようにしている。会員内の中に飲食店を経営している人がいて未杜パーティで、鍋をやるのだが、具(野菜)は持ち込みで「未杜」でその店を利用させてもらえるようになった。また私は、その人に英会話を教えているが、その報酬は「未杜」でいただいています。

こういう部分で、極力円にたよらずできるかぎり未杜でお互いのサービスを交換していこうとしています。



## 4 第3回地域通貨意見交換会



◆開催日時 平成14年1月20日(日) 13:30~16:00

◆開催場所 神戸市勤労会館 405号室

◆内 容 13:30~ 開 会  
13:35~ 基調講演「サステナブル・コミュニティと地域通貨」  
講 師 内山 博史(地域通貨おうみ委員会アドバイザー)  
14:40~ 地域通貨実験運営費助成グループ・団体の中間報告  
進行役 小西 康生(神戸大学経済経営研究所教授)  
アドバイザー 赤井 俊子(新しいコミュニティを創造する会代表)  
内山 博史(地域通貨おうみ委員会アドバイザー)  
畑尾 卓朗(かもん'S21代表)  
山本 麗子(宝塚NPOセンター理事)  
16:00~ 閉 会

## 基調講演「サステイナブル・コミュニティと地域通貨」要旨

「サステイナブル・コミュニティと地域通貨」という非常に遠大なテーマを頂きましたが、そもそも「サステイナブル」ということ自体が、皆さん何だろというように思われると思うんです。その辺りを地域通貨の話と絡めながら、少し私なりの考え方をお話しし、皆さんと共有できたらなと思います。

ご存知の様に、今、全国各地で地域通貨やエコマネーと言われる取組みが始まっています。

例えば、今日参加された方でも地域の中で何か生活の中で助けて欲しいなとか、誰かの力を借りたいなと思う時、また、ちょっとしたサービス、例えば子守りをして欲しいとか、うちの犬をかわりに散歩してやってくれないかとか、うちの戸棚が壊れたんだけど日曜大工が得意な人がいたら誰か直してくれないかなとか、その様な事を、今までは、割と近隣のコミュニティの中でお互い向こう三軒両隣の関係の中でやってきたわけです。「じゃあ、今度何かお礼しなきゃね」なんて言いながらやってきたのかもしれないですね。

しかし最近はそういった事もしずらくなってきて、昼間は昼間でお父さん達はだいたい会社に出て行きますから、地域にはいませんし、地域の中にいるのはお母さん達と子ども、おじいちゃん、おばあちゃんばかりという中でなかなか助け合いといっても「ちょっと力仕事はなあ…」とかいう事があったり、少し困った状況が出てきている。そういう中で地域通貨を使いながらお互いちょっとした「出来ること」「して欲しいこと」を交換しようと、地域通貨というものを使ってお互いサービスなどをやりとりし、そういう中でコミュニティ作りが出来ないだろうかという取組みが始まっているんだと思います。

また、そういう生活福祉的なニーズからというよりはもう少し違う、都市と農村の交流だとか、何か環境の事や、自分達の食べ物だとかそういった事にもう少しお互い気づいていこう、また

そういう事に力を出し合っていこう、そういう中で自然の保護だとか、里山の再生だとか何かそんな事が出来ないだろうか。そういう中でお互いのボランティア活動を評価し、交換し合う、そんな道具としてこの地域通貨を使おうという取組みも出てきていると思います。

こういうちょっとした生活福祉だとか環境と人のつながり、自然と人のつながりとかそういった事をもう1回ボランティア活動を通じて取り戻していこう。回復していこう。その取組みが私は「サステイナブル・コミュニティ」をつくらうという事なのではないかというように考えています。

「サステイナブル」という言葉は日本語になかなか訳しづらい言葉ですけども、「持続可能な」とか「維持可能な」という訳し方をすることがあります。

これは、1992年にブラジルのリオデジャネイロで進行する地球温暖化や、生態系、熱帯類の破壊とか地球規模の環境問題が出てくる中で、それをどう解決していこうかといった目的で「地球サミット（国連環境開発会議）」が開かれたときに出されたコンセプトです。

どうも今までの開発の在り方だとか、例えば私たちの暮らしのあり方、本当にこの地球がこれからもずっと持続していく様な形で本当にこれまで開発をしてきたり、あるいは暮らしの在り方を考えてきたんだろうか。どうもこれからは環境を守るというただ単にそういう事だけではなくて、持続可能である、何か環境と経済、それから社会の在り方、そういった所のバランスを取りながら私たちは地域というものを維持していく、また自分たちの暮らしというものを守る、作っていく、そんな様なことが必要ではないか、というのが92年に言われた訳なんです。今からちょうど10年前のことです。

92年の会議で言われたのが「サステイナブル・

ディベロップメント」という言葉でした。「持続可能な開発」これを私たちはしていかなければいけない。その中で持続可能な社会を作っていきます、こういった事がコンセプトとして浮かび上がりました。

「持続可能な社会」と言われても、皆さんなかなかピンと来ないですね。僕はこんな事かなあと思うんです。やっぱり自然と暮らして仕事もうまくつながりながら、ここで子供を育てて行きたいとか、私はここで生き生きと暮らしていきたいとか、ここで死にたいとか、そう思える様な、そんな社会をどう私たちがつくっていけるのかと言う事が、この持続可能な社会を作ろうと言う事だと思えます。それこそ1000年後でも続いているんだろうかという事です。

そういう社会を実現する具体的な場は、どこかと言えばやはりコミュニティな訳です。皆さんもいろいろな所で活動されていると思うのですが、やっぱり具体的な地域というものを相手にしながら活動されていると思います。「地域」もっと言えば「人」だと思えます。そこの地域に暮らす人、そこで何か困っている人、もしかしたら人だけではないのかもしれませんがね。生き物なのかもしれません。トンボだとかメダカだとかそういったモノかもしれませんけれども、とにかく地域、コミュニティ、そういったものにすく根ざした所でこの持続可能な社会を作ろうとしているのが、実はこの地域通貨の取組みなのではないかなと思えます。



今日、初めて来られた方もいると思いますので、少し説明しますが、実はこの地域通貨という言葉は日本語訳です。もともとはカナダでL E T Sという取組みが始まったのがきっかけです。これはマイケル・リントンが考え出した仕組みなのですが、お互いが出来る技能とかサービスがある訳ですが、それをお金でやりとりするのが普通ですね。そこを相殺するというか、バーターで取引しようということなのです。

例えば、僕は英語が教えられますとします。「じゃあ、あなたは何が出来ますか」「私はベビーシッターが出来ます」じゃあ、それを交換しましょう。私は英語を教えるから、変わりにベビーシッターをやってね。こんなことを二人の間だけではなくて地域の中で色々な人の中でやってみようという事がL E T Sの始まりだったと言われていきます。

非常に経済状態が厳しくなって、地域に失業された方がたくさん増えてきたんですね。皆さん色々な技能を持っているし、色々な知恵も持っているし、時間だってある。体力だってある。働きたいんだけど実際にお金を稼ぐという意味ではなかなか仕事が無い。そういう状況の中でどうしたらいいだろうかということで生み出されてきたといわれています。

同じ様なものがアメリカのニューヨーク市のイサカという町にもあります。イサカアワーというのですが、イサカアワーと言われるのは地域のお金みたいな形で循環しています。ドルとはまた別のイサカという町でしか使えないお金なんですけれども、これが地域の中の色々なお店で使えたり、自分達自身が生み出した農産物を取り引きする時に使ったりとか、そういった形で循環しています。

また、タイムダラーというものもあります。これは日本でも時間預託とかいう形で紹介されていますが、言ってみれば自分が誰かに対してボランティアのサービスをした時間を貯めておくわけです。貯めておいて自分がボランティアを誰かにして欲しい時にその時間を引き出して、その時間を相手に差し上げる事でボランティアをしてもらう。

そういった様な取り組み、これをタイムダラーと言います。

そしてエコマネーですね。これはご存知の方も多いかもかもしれませんが、加藤敏春さんという方がこういった海外でLETSだとかイサカアワーなどの取組みを、日本で紹介する中でエコマネーというカタチで、非常に分かりやすく紹介されました。

このように、呼称はいろいろあるんですけれども基本はやっぱり自分達で円ではなかなか価値付けしにくいちょっとしたボランタリーなサービスや、それからサービスだけではなく物だとか、そういったものも含めて独自のポイントと言いますが、独自の通貨でもってそれをやりとりしようと、交換しようという仕組みです。

ここで、「これは一体何なんだろうな」ということをちょっと考えてみたいんです。先程も言いましたが、それぞれの取組みというのはそれぞれの目的を持っています。その地域での生活のしやすさを増進させよう、皆で支え合う、助け合うコミュニティを作ろう。それからもっと都市と農村の人の交流を促進しようとかですね、色んな目的があると思うのですが、「これは一体何をしようとしているのかな」って事です。

ヘーゼル・ヘンダーソンさんという方がご自分の論の中で説明されているデコレーション付き三段ケーキというのがあるんですが、この世の中の産業、経済と言われるようなものは、実はデコレーション付き三段ケーキのような層からなっているんじゃないかと言うわけなんです。

経済というのは、物や情報などが、お金とともにどんどん移動していく。どんどん交換されていく、そんなような行為の全体を言っていると思いますが、そういった生産活動が実は、今のお金で成り立つ部分だけではないという事なんです。

例えば、家庭を考えてみてください。家族の中で、「お父さん、お風呂ちょっと洗ってよ」と言った時にお金なんか払いませんよね。子供にお使い頼む時にもお金をあげませんよね。親戚同士でお墓参りするのにも、お墓の掃除を分担するな

んてことも、これだってお金なんて払いませんよね。実は、そういったいろいろなやり取りっていうのがあるんですね。家族や昔ながらの地域コミュニティだとかいうと、今でも助け合いのしくみ、お互い様の中で助け合ったり、お金なんか関係せずに物とかサービスをやりとりするっていう事は今までもずっとやってきてるんですね。

実は、そういった部分を「非貨幣的生産部門」と彼は呼んでいます、そこが実はこの世の中で一番大きい部分を占めていて、企業が例えば市場の中で何か商品だとかをやり取りする部分と、それから行政機関などが税金を徴収してそれを基に色んな方にサービスを提供していくという部門よりも大きい部分が実は、その下に広がっているんだと、そしてその最も基本的な所を支えているのが、実はこの自然の経済だと、太陽の光を浴びて植物が光合成をして、木が出来て実が出来て、それを虫が食べたり鳥が食べたりする中で生き物が育って行って、またその生き物がまた死んで土にかえって、土の養分がまた草木を養って。そんなサイクルがあるんですね。人間も本当はその中にいたはずなんですけれども、特にこの神戸市ぐらいの都市になってしまうと土を見る事もできませんよね。アスファルトばかりですから。なかなかその辺の自然とのつながりっていうのが感じられなくなってきています。

自然の太陽から入ってくるエネルギーを基にして、くるくる再生産していく、そういう経済っていうのも本当はあるんだろう。そこから得られるものを私たちはたまたまもらっていて、それを生活の中に取り入れて、加工して、そこにお金という、自然界には全く存在しないものを使いながらやり取りをする。そんな社会を私たちは築いている訳です。

つまり、何が言いたいのかといいますと、どうも今私たちが地域通貨の取組みを始める理由は様々なんですが、どうもお金だけのやり取りだけではこの世の中成り立たないのではないのかな、そんなような事に気づき始めた。逆に言えばボランティアだとか助け合いのコミュニティ、そんなものを

作るのが大切なんじゃないのかな、なかなかお金でやり取りされている市場経済では認めてもらえない様な、例えば有機で野菜を作ろうとか、無農薬でやろうとか、生産者と消費者の顔の見える関係を作っている。そういう事が市場のシステムの中では成り立ちにくいんだけど、やっぱり自分たちは、それは大切だと思うという中で、実はこの「非貨幣的生産部門」を見直して行こうという事をやっている事に他ならないのではないかなという気がしています。

私たちが実はコミュニティの中でやり取りしているものは、もっともっとたくさんあったはずそれがあって初めて私たちの生活っていうのが成り立っていたのではないか。それがこの戦後50年、高度経済成長の中で本当に私たちはそれがなくても生きていける事をなぜか目指して来てしまった。

ちょっと何か困った事があれば税金払っているんだから行政の方ちゃんとやってよと言ってしまったりとか、実際あるんですが、例えば、目の前の道路で犬が車にひかれて死んでいたとしますよね。そしたら何をするかと言えば、まず市役所に電話を掛けるんですね。大体そうですよね。かわいそうだと思ったらすぐ何かしたらいいじゃないですかね。ドブさらいでもそうです。汚いと思ったら、やればいいじゃないですか皆で。なのに、すぐ何とかしてくれてなっちゃうんですね。昔は道普請だとか川普請だとかって皆でそれぞれやっていた訳です。別に行政なんてものがやってくれる訳じゃなかったですね。

とにかくそういうコミュニティの中で起こる問題だとか課題を自分たち自身の力でもって力を出し合って解決して行こうという事が、実はその中でお互いにサービスを出し合ったり時間を一緒に使って労力を出し合って何かをやって行っている事を随分やってたと思うんですが、多くの方がサラリーを稼ぐ様になって、会社で働いているのが当たり前の世界になってきた。

なかなか地域で仕事をしてそこで暮らすとか、仕事をうまく自分たちの住む同じ場所でやって行

くってことが、なかなかしづらくなってきますよね。そういう中でコミュニティの色々な問題を解決して行こうということも難しくなっているのかも知れないです。実はそういう様な状況のリバウンドとしてどうも地域通貨に今、取り組もうとしている方も多いのかなあという気もしています。

地域通貨には色々な効果があるというように言われています。

やっぱりその中で一番大きいものはもともとあった商品経済ではないお互いの助け合いみたいな所をもう1回作って行こうと、そういった何か助け合える、お互いに応答し合える、コミュニケーションのある、そういうコミュニティを作っているという事だと思います。

また一方で、一部の地域でも出てきていますけれども、商店街とか地域の経済の在り方と言いますか、そこをもう1回地域の中でお金がきちんと回っていく様な仕組みをつくって行こうという取り組みもあります。

現在、地域通貨は両方どちらも行き来しながら、「いやいや、それはボランティアなサービスのやり取りにするだけに留めた方が良いでしょう」とか、「とは言っても地域の中でちょっとした地域の仕事、コミュニティビジネス、商店街の振興とか、そういったものが活性化していった方が良いでしょう」とか、その辺で色々な取組みが試行錯誤しているというのがどうも地域通貨の現状ではないかという気がしています。

「おうみ」も、その辺りをこの3年間色々皆で論議してきました。もともとは建物の中での助け合いから始まりました。草津コミュニティ支援センターという建物を運営するのにボランティアの人にクーポン券を発行したのが始まりでした。

こういった地域通貨を使いながらそれを仕組みとして活用しながら、もう1度、助け合いだとかお金では評価されないような価値をやりとりしていくという事を始めていく事が実は単なるサービスをお互いやり取りするという事だけではなくて、



それを通じて地域の在り方などという事をもう一度考え直していこうと言う事に実はつなげようとしているのではないかと考えています。

「サスティナブル・コミュニティ」ということは、主に都市計画の分野で言われている事なんです。どうもこれまでの町の作り方というのは持続可能な方向を向いてなかったんじゃないかという反省からこの言葉が出ています。

ともすると、都市計画って中でハードばかりを追求してしまったり、「まちづくり」というように平仮名で言い換えてみても、何だかそれは本当に自分たち自身がやっているんだろうかと思う様な取組みであったり、本質としてはやはり自分たち自身で自分たちの地域の中で助け合いながら問題を解決していこうと、それを形にしていこうと、そういった事がまちづくりだと思うんですが、それがなかなか持続可能な方向を向いていない。

例えば、交通の在り方を考えてみてもそうです。だいたいお買い物も郊外に自動車で行くと思うんですね。そして、まとめ買いをしたりします。まとめ買いをすると冷蔵庫も必要になりますね。冷蔵庫が必要になると言う事は電気を食うわけです。本当はその日に買って来た物をその日のうちに食べればいいのしょうけれども、なかなか生活自体がそんなに時間の余裕がないですから、時間を切り売りしてお金を稼いで、またその時間をお金で買うというかたちの中で生活を成り立たせている。歩いて街まで出ようと思っても、バスが1時間に1本しかないとか、どうしても車に乗らないと行けないような地域のつくりになっていたりするんですね。車がいけないとは言わないですけども、そもそも町のつくりは持続可能な社会に適合しているんだろうか、といった所があります。

それから、持続可能だって環境の事だけじゃないですね。例えばお年よりだったら「どうしてここで安心して暮らしていけるのだろう」、子供だったら「どんな遊び場があるのだろう」、このように色々な課題がある訳です。そういう事に対応していく事も実は、人がその地域で暮らしていける、

ずっとそこで生き生きと暮らしていこうと思う、これも条件なんですね。そういうものが無い所ではなかなか人は居心地が悪いですから住みつけません。これも持続可能ではないんです。やっぱり孫子の世代までずっとそこで暮らして行こうと思える様な地域づくりという事を私達は本当にしてきたんだろうかという事です。そういった事がこの「持続可能なコミュニティ」という言葉に込められているのだらうと思います。

「良い地域」というのは何なんだろうなと考えたら、単純なんですね。仙台にお住まいの結城さんという方が言ってる事なんですけど、「良い地域の条件とは」っていうのを、6つ挙げているんですね。

海、山、川など豊かな自然がある。良い習慣がある。良い仕事がある。少しのお金でも笑って暮らせる生活技術を教えてくれる学びの場がある。住んでいて気持ちが良い。そして、最後が極めつけですね、自分の事を思ってくれる友達が3人はいる事。どんなに良い自然があっても、一人ぼっちだったらなかなか良い地域とは言えないと思うんですね。これを読んでいると、「サスティナブル」ってこういう事かも知れないなと思いました。

それから、大分県で木工工房やっている方で時松さんとおっしゃる方が、こんな事をおっしゃっています。いい町とは「自然と生産と暮らしが繋がっている町」。言葉で言うと簡単なんですけど、なかなか難しいですね。色々な人が助け合いの中で一緒になって色々なプロジェクトを起こしていく中で徐々にそういった事も見直しができるのかなという気がします。そして「常に新しい何かをつくり出す力を持っているところ」。常に何か地域の中で沸き起こるエネルギーみたいなものが常に湧き起こっていく、そんな様な部分っていうのも持続可能という所では、すごく重要な視点の様な気がするんです。

今、神戸市の方で「コンパクトシティ」などといった取組みがされています。要は街の作りをコ

コンパクトにしていこうと、コンパクトというのは、ギュッと密集したというか高密度なという感じなんですけれども、基本的に歩いて暮らせる様な街っていうのが出来たら、本当にサスティナビリティが増していくんだろうなと思います。

ヨーロッパの街なんか最近そうですね。都市の中心部なんか車の乗り入れを規制して路面電車が走っていて、古い町並みが中心部に残っていて良い雰囲気になっているんですけども、そんなような風に街を転換していこうって事なんです。やっぱり都市計画的な発想だと思うんですね。

本当に、何が大切かっていうことは、皆さんすごく分かっているんじゃないかなと思います。ただ、日々の暮らしの中で忙しく生活していて、また、どんどん世の中の状況が悪くなっていて、お先真っ暗って感じなんです。地域通貨をやりながら感じるのは、一人暮らしで困っているお年寄りの方をどうやって助けていくのかということもすごく大切なんです。でも、どうもそこだけに注目していると、本当に私達がつくろうとしている地域の姿っていうのを忘れてしまう様な気がするんです。草津で地域通貨をやっていて最近すごく痛感しています。

地域通貨を手段のつもりでやっていたのに、目的化してしまうんです。僕ら本当にこの草津の地域で何をしようとしてるんだろうという事を最近よく話し合うようになりました。

地域通貨をやるという事もそうなんです。一つ一つの課題はバラバラなんです。その先にあるものを是非考えていく必要があるのではないかと考え始めています。

その事は言いかえれば、コミュニティづくりの視点と言いますか、水とか緑とか土とか空気とか太陽とか生き物とかそういう所との関係をもう一回発見しようと、やっぱりこういうのを感じる時ってすごく人は元気になります。

おいしい水を飲んだら「うまいなあ」と感動しますよね。そういう感覚って言うんですか、生き物を見たら「うわーっ」と驚くことってあります

よね。そういう感覚というのを是非コミュニティの中でもう1回取り戻していく。

例えば、それはどんな事があるのかといえば、皆さんが普段やってらっしゃる事です。例えば地域のより良い環境をつくらうという事だったり、元気をつくらう、誇りをつくらうって事なんですよね。

例えば里山の発想で何か地域雇用の資源みたいなものを持続的に利用しながらでもそれを保存していく。守り伝えていく。そんな事を出来ないだろうか。それから最近、コミュニティビジネスやNPOとか言われていますが、社会的なニーズを充たす様な事を市民自身が事業として立ち上げていく。そんな事ができないか、それが元気につながるっていく訳なんです。地域で親と一緒に子供を教育していくって事もあるかもしれません。総合学習なども地域の誇りと言ってもいいのじゃないかな。

そうした中で大切になってくるのは、「出来る事からやろう」「みんなでやろう」「楽しみながらやろう」と、この事につけるのかなと思います。この神戸でも震災以降様々なボランティア活動が生まれましたし、地域の課題やニーズに合わせて色々な事業が立ちあがっていると思うんです。

地域通貨をやるという事は、どうしても紙券を発行することとか、みなさん、この方にばかり注目してしまうんです。やはりこれよりもお互いがどういったサービスのやり取りをするのかという事が重要であり、またその先に、実はどういうコミュニティを作ろうとしているのかという事を考えていく必要があるんじゃないかなと思います。

きっとそこで大切になってくるのが、地域の働き手、地域で居る人です。地域で働くという、地域で仕事を作るという事ですね、それから環境の事でもそうなんです。もう少し手仕事だとかオルタナティブ・テクノロジーといいますが、今まで使ってきた技術とは違うもう1つの技術というのでしょうか。

もしかしたら昔の井戸とかを再生する事になるかもしれません。実際震災が起きてから水の事を

考えて井戸を調べた人がたくさんいると思うんですけど。これはかつてあった技術をもう1回見直してる事なんです。実は進歩した技術と思われてるものじゃない所に本当はもっともっと良いものがあったりするものですから、そういう事も含めて考えていきたい。

そして市民が交流して学べる様な場をなるべく小さな地域でたくさん作っていくとか、そんな事がサステナブル・コミュニティの中で進んでいければ良いなという気はしています。

地域の中でより良い環境作り、元気づくり、誇りづくりをしようとする人たちがお互いに力を出し合っコラボレーションしていく様なそんな取組みがどんどんどんどん起きていく中でやっぱりここで子供を育てていきたいな、ここで仕事をしていて何か良いな、ここで暮らしたいな、そんな地域を作っていく、そんな人間関係を作っていく事が地域通貨の目的であり、やはりその先にある「サステナブル・コミュニティ」という所に私はつながっていくんじゃないかなという気がしています。

## 5 地域通貨実験支援事業公開報告会



◆開催日時 平成14年3月21日(水) 13:30~16:00

◆開催場所 神戸市勤労会館 多目的ホール

◆内 容 13:30~ 開 会

13:30~ 地域通貨実験運営費助成グループ・団体の実績報告

進行役 小西 康生 (神戸大学経済経営研究所教授)

報告者 鈴木 迪子 (西須磨まちづくり懇談会)

村山 日南子 (お米の勉強会)

上田 諭信 (プラザ5)

小林 正利 (在宅福祉支援グループ・コスモス)

高畑 正 (農・都共生ネットこうべ)

16:00~ 閉 会

## 地域通貨実験支援事業公開報告会 要旨

### 【 地域通貨について (小西 康生) 】

日本における地域通貨の数は、最新のレポート(日経地域情報)では150などとも言われている。世界的に見れば2000とか、2500だとか言われている。しかし、実態はよくわかっていない。

世界最大のL E T Sシステムであるブルーマウンテン(オーストラリア)も最新の情報では頓挫しているといった報告もある。

ローカルカレンシーを地域通貨と訳しているが、何も地理的なつながりだけを意味するものではない。それは、同好の志であってもいい。

グローバルの反対の意味でのローカルである。地理的な一部の他に限られたメンバーの中でといった意味もある。それを地域と訳してしまうので、やってみようといった方に制限がでてきているような気がする。

もともと、最近流行っているといってもこれまでなかったわけではない。特に世界恐慌の頃にはたくさんあったアメリカでも100から200あったといったレポートもある。

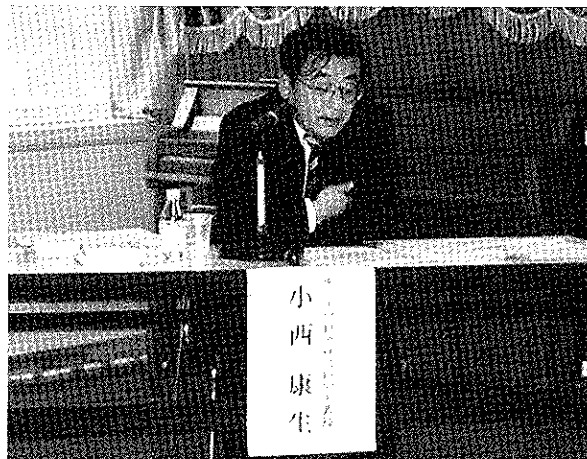
ヨーロッパではその頃のものが残っていてスイスには中小企業を対象としたW I R銀行がある。ドイツにも交換リング制度が残っているし、さらに遡ると、1830年くらいに、マイケルリントンがL E T Sの参考にした労働証書といったものがある。また、日本には藩札というのがあった。江戸時代の1630年頃から始まり、有名なのは福井藩のもの。藩札については、度々藩札使用禁止令が出たが幕末までに200種類以上の藩札が発行された。このように、日本にも昔からあった。

地域通貨の目的としては、①失業対策と地域振興、②コミュニティの再構築、創造、③シャドウワーク、アンペイドワーク市場でこれまで評価されてこなかったものを顕在化させて、社会的に評価しようとするものなどがある。どこに焦点をお

くかによって、どのタイプの地域通貨がいいのか、どの程度が適正規模なのか様々である。

地域通貨は時間の経過とともに変化していく制度である。世界最大のL E T Sと言われているブルーマウンテンも頓挫している。大きくなったからといって続くといった保証はない。

どのような地域で、継続性があるのか、ひとつには、学生の多くいる地域がいい。また、中高年(30歳~50歳くらい)がたくさんいる地域。特に女性がいるところ。リタイアした人が元気で生活にもあまり困っていない人がいる。こういった所は比較的うまくいくと言われている。ただし、地域通貨について経済学的な分析はこれまでほとんど行われていない。



### 【西須磨まちづくり懇談会の報告】

神戸市須磨区の西須磨地域は、特に道路整備の関係で大きな問題を抱えており、なかなか解決に至らない。そのような中で、他の角度から、ソフトの面で町づくりに取組めないかということで地域通貨への取組みが始まった。

目的としたのは、地域ボランティア活動の活性化、公共施設である天井川公園の清掃活動、「稲葉公園安心コミュニティプラザ」の窓口当番、地域の人の新しい出会いの創出、より深い信頼関係の構築、地域通貨により地域の眠っているタレン

トを活かそうということ。

実験に参加された方々は、「福祉ネットワーク西須磨だんらん」の方、「天井川公園を育てる会」の方、また「稲葉安心コミュニティプラザ」や道路環境問題に取り組んでいる組織の方々に参加した。

平成12年7月に「西須磨まちづくり懇談会」のセミナーを行った時に、初めて地域通貨が話題にのぼった。平成13年2月に、会に正式に提案した。同年6月に生活復興県民ネットの地域通貨フォーラムに参加し、地域通貨の実験に取り組むことが正式に決定した。

紙幣方式で、お礼の礼とゼロの意味を併せて「れい」と命名とした。

紙幣には通し番号をつけて管理した。また、特にサービスのやりとりで、材料などが必要になる時には、その分は日本円で支払うことにした。通貨の単位は30分のサービスを1れいとした。取引は、リスト表を基に、直接当事者がやりとりを行うことにした。

「地域通貨おうみ委員会」の内山博史氏を講師に招き、地域通貨の体験学習会を行った。参加者は25名あった。チラシを作成し、月見山連合自治会の会報に折込み、ポスターを地域内で55箇所に設置した。それを見た興味のある一般の方々も7、8人参加された。

「西須磨まちづくり懇談会」のメンバーと7、8名の一般の方々の参加で実験はスタートした。

参加者が意見を出し合い、意見集なども作り、地域通貨「らく」（東灘区）を参考にして、「れい」の規約を作った。

やりとりが始まり、最初に「庭木の枝きり」で問題が発生した。「福祉ネットワーク西須磨だんらん」の活動メニューにも「庭木の枝きり」がメニューにあり、他の活動との関係をどう整理するかといった問題がでてきた。

意見を出し合った結果、「福祉ネットワーク西

須磨だんらん」は、住民の助け合いに主眼を置いたものであり、地域通貨「れい」は、人と人との関係を広げていくものと考え方を整理し、どちらを利用するかは、各自は決めればよいこととした。競争原理が働き、使い勝手のいい方が残ることになるだろうと考える。

地域通貨「れい」は個人と個人のやりとり、「福祉ネットワーク西須磨だんらん」は、個人と組織のやり取りである。

取引があった主なサービスは、「庭木の枝きり」「農作業の手伝い」「車での運搬」「パソコン指導」などである。

なかには、「人の減量に協力する」など、普段では、なかなか考えられないユニークな取引も生まれた。楽しくやりとりができた。

実験は終了したが、これからは、商店などとの関係を持てないか、子どもや若い人達に参加してもらえるようにできないか、公共施設との関係をどう整理すればよいのか、これらのことを検討していきたい。

実験を終えた感想として、地域通貨は町づくりにとって有効なツールになりうると考えている。

参加された個人の方の感想は、「自分の世界観を広げることができた」「人に物事を頼みやすくなった」「知らない人どうしが知り合いになった」などといった肯定的な意見がたくさんあった。

事務局としての役割が大変だったが、今回の実験を通じて、議論は元より体験することの大切さを皆が実感した。

今後は、参加者を募る方法についても、チラシ配付を中心にするのではなく、楽しいイベント等を実施して、そういったものへの参加を通じて自然と地域通貨に参加できるような仕掛けを考えていきたい。

これからは、子どもたちを含め、世代を超えて

交流ができる地域通貨にしていきたい。

【 お米の勉強会の報告 】

注意していきたいのは、第二のお金になってしまわないこと。参加者が楽しみながら、堅苦しくならないように、続けていければよい。

《 質 疑 》

質問 26人の参加者で、8人は何もなかったとあるが、なぜか。

回答 仕事で忙しかった人が多い。自分はしてほしいことがあっても、逆に自分は相手の依頼にこたえられないのではないかとしたことでもしり込みした人もいた。そういった方を巻き込む工夫も必要と思う。

質問 参加された方は年齢的には、どういった方か。

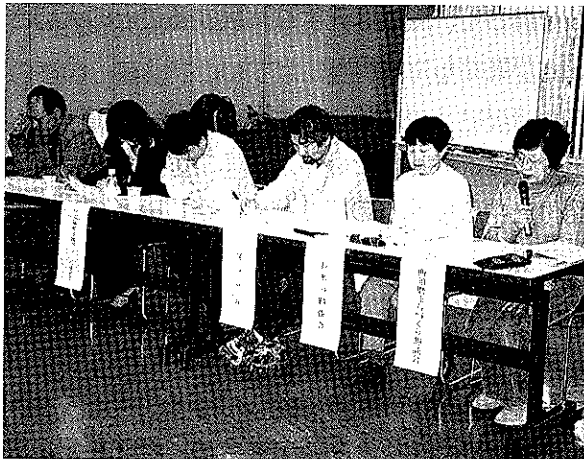
回答 年代としては、20代の方が1名、30~40代が5、6名、残りは50歳以上の方である。

質問 地域通貨の形態で、紙幣型を選んだ理由は何か。

回答 通帳は持ち歩くのは大変だと思った。また、地域通貨「らく」を手本にしたこともひとつの理由である。

質問 リストの更新はどの程度行ったのか。

回答 リストの更新は毎月1回更新した。



私たちの取組みは、ある特定の地域での助け合いだけが目的ではなくて、都市と農村との交流を深めて、都市も農村も自立できるように、それを推進するひとつの道具として地域通貨の実験に取り組んだ。しかし、こういった目的に地域通貨がなじむのかどうかは当初心配だった。

「コウノトリ応援団お楽しみ帳」の表紙の写真のように、牛や鳥と一緒に人間があたりまえのように暮らしていた時代がついこの前までであった。私たちの取組みは、コウノトリの野生復帰を応援するといったかたちで始まった。

通貨の単位は「石」とした。1時間の労働を5石とし、5石を500円とした。農家の方からは、1石は非常にたくさんのお米なので、500円というのは安すぎるという指摘もあった。

コウノトリの野生復帰を応援する地域通貨ということで但馬の豊岡を一方の対象地域に選んだ。平成13年11月に、「地域通貨おうち委員会」の内山博史氏を講師として豊岡にお呼びし、勉強会を実施した。

通貨の形態としては、通帳型を選択した。通帳のいいところは、プラスもマイナスもないということだ。それが今回よくわかった。

阪神地域の人たちが、豊岡に行って、農作業を手伝ったから、それがプラスになるとは限らないのではないかと。農家の方から有機農業のことや除草のことを教えてもらっていると考えると、農作業を手伝いにいっている方がマイナスでもいいわけである。

後に、熟練して本当に手伝えるようになったら今度はプラスにしてもらえばよい。

これが、地域通貨の良いところではないかと思った。「してあげる方」「してもらう方」といった立場が逆転したほうが実は本当なのかもしれないといったことが大きな発見だった。

今回は、実験期間が冬場が中心だったので、なかなか手伝いができなかった。

それで、手伝えるようになる時期に備えて、阪神地域においても勉強をしようということで、これまで地域通貨を知らない人も参加できるように、阪神地域でも勉強会を開催した。

これまで、釜ヶ崎（大阪市）の地域通貨「カマ」とも交流を図ってきた。「カマ」は、地域通貨で、仕事のない方に農村での仕事を提供できないかと試みている。岡山に受け入れてくれる農家もできたとのことである。私たちの「コウノトリ応援団お楽しみ帳」もなんとか取り入れてもらえないか検討している。

今回の実験においては、事務局の存在を知らなくても誰もが参加できるかたちはないかと検討し、会報誌に地域通貨の通帳を掲載し、参加したいと思った人は、気軽にそれをコピーして、いつでも参加していただけるようにした。

しかし、きちんと地域通貨を流通させるには、事務局機能は重要だとわかった。これは反省点のひとつである。

結果的に取引は、そんなに活発ではなかった。取引内容は、「相手に何かを教えること」「料理教室」「モノの貸し借り」「パソコン教室」「司会を引き受ける」などである。

普段やっていたやりとりを地域通貨で行ったといったものもあれば、地域通貨を通して初めて出てきた取引もあった。

コウノトリの野生復帰の応援ということでは、実験期間内ではほとんど貢献はできなかった。しかし、地域通貨の意義についてはほとんどの参加者に理解していただいたと思う。

地域通貨が何なのか、やろうとしている人はそれがどういう仕組みかを納得できるように、人に話せるようにならなければいけないと思った。そのレベルに達するがなかなか大変だと思った。

参加者に対して、アンケートを行ったが、地域での助け合いに地域通貨は取組む価値があるのかといった質問には、殆どの方が「価値がある」と答えた。必要がないというのは殆どなかった。

しかし、一方では、コミュニティの再生が必要といいながら、地域通貨を導入して、皆に説明してまでもやらないといけないほど世間は切羽詰った状況ではないのではないかといった意見もあった。

通帳型でやってきてよかったと思うことは、マイナスでもやっていける、つまり、やりとりが継続できるということだ。

ボランティアをしている人も、発想を逆転し、ボランティアをさせてもらっていると考えれば、ボランティアサービスを受けている人は常にマイナスということは解消される。

地域通貨は人が平等・対等になっていくことができる手段であると思った。

## 《 質 疑 》

質問 参加者の居住地はどうか。

回答 参加者は、豊岡の方が3～4人、釜ヶ崎の方が3～4人。あとは阪神地域の住民であった。

## 【 プラザ5の報告 】

プラザ5は、長田区御蔵地区にあるボランティア団体である。そこに関わっているメンバー、ボランティア、施設利用者などを中心に地域通貨に取り組んだ。

阪神・淡路大震災で長田区の御蔵地区は非常に大きな被害を被った。

住民間の交流を担っているのは主に地域近隣の人であり、そういった方々を中心に、喫茶会をやったり、ミニデイサービスを行ったり、高齢者の世



話を行ってきた。

これまで、そういった人になんの報酬も支払わずにボランティアでやってもらうという体制でやってきたが、そういう人の関わりを何らかの形で評価できないだろうかということで地域通貨への取組みを考えた。

プラザ5でボランティアを行ってくれた方には、お金の代わりに、サービスの提供に応じ、労働サービス券のようなものをお渡しし、その施設のサービスにその券が使えるといったシステムを作ること考えた。

しかし、ボランティアをしている方からは、無償だからこそ行っているといった意見があって、地域通貨とモノなどとの交換を今回は見送った。

また、これまでも近隣の助け合いはあったので、改めてそこに地域通貨などといったものを入れることに対して違和感を感じる人もいた。

原則として、取引は事務局が仲介することとした。これは、プライバシーの問題を気遣ったためである。また、顔見知りでない人と人とのやりとりも促したいといったことから、事務局が仲介することにした方がいいだろうということになった。

実験の結果、地域通貨は、知らない人同士がつながる可能性を生むことがわかった。

例えば、これまでは「プラザ5」が開催する絵手紙教室に2時間だけ参加してそれだけで帰っていた人が、「自分もこんなことだったらできる」と地域通貨への取組みに登録して、サービスの受け手だった人が自分の能力を活かせる機会もでてきた。

自分達の思いとしては、子ども達に地域通貨を広げたかった。子どもが積極的に地域にかかわっていくというときに、それを大人が社会として評価してあげる、そういったツールとしても使いたかった。

地域通貨は、何度も何度も実験を繰り返しながらその地域に馴染んだものを見つけていかなければならないと思う。今回の実験は時間的にも余裕がなかった。

今後はもっと広い範囲に広げていきたい。また近隣の商店にも参加してもらいたいという思いもあったが、今回は、そこまでの取組みはできなかった。

今後とも地域の中で続けていけるように探っていきたい。

また、地域通貨が兌換性を持たないということとは、それがあってもなくても一緒だということではないか。ただ、楽しくやろうという程度であればそれで良いが、それに継続性があるのかどうかは疑問である。

それが、お金かモノになるのかはよくわからないが、兌換については検討しなければならない課題だろうと考えている。

ある地域の取組みで聞いたことだが、そこでは、パン屋が最終的に地域通貨の引き受け人になって(地域通貨でパンを購入)、パン屋はパン屋で地域通貨への参加が広告になるといった循環ができています。また、企業との協力関係のなかで維持するという方法もあるだろう。

地域性や目的にもよるだろうが、そういったシステムもいるのかなと思う。どうやって循環させるのかがポイントだろう。

#### 《 質 疑 》

質問 参加した中でまったく取引のなかった方はいたのか。

回答 47名のうちの2/3くらいの方が一度は利用した。残りの1/3が利用しなかった人である。利用しなかった人は、比較的プラザ5と関わりの薄い人である。頼んだり、頼まれたり、ある程度気楽な関係がないなかでは頼みにくいという部分があったのだろう。

## 【 グループ・コスモスの報告 】

私たちは、地域福祉活動の継続を図り、ボランティア活動の活性化につながることを目的に地域通貨に取り組んだ。

実験の対象地域は、金楽寺小学校区の住民として、導入に際し地域通貨に協力してくれる人を募り、その人達を中心に準備委員会を結成した。

他府県での地域通貨に関する資料を収集し、金楽寺町での地域通貨をどのようなものにするのか、使用方法、地域の人たちへの説明方法などについてミーティングを重ねた。あわせて地元の商店街にも協力を得た。

地域通貨の名称は、金楽寺の町名から一文字をとって「楽」とした。また、単位は100楽を100円とした。

紙幣は、100楽と500楽の2種類の通貨を印刷し、説明冊子を作り住民に配布した。

参加者は、地域住民のほか、デイサービスセンターであるグループハウス健寿苑（やすらぎ荘）の入居者19名も参加し、やすらぎ荘の大掃除、買い物の手伝い、入居者との話し合いなどでも地域通貨の利用があった。

「らくらくニュース」（会報誌）で、サービスメニューの更新を行った。平成14年1月17日の震災イベントではバザー、炊き出しの準備、当日の手伝いボランティアの方などにも地域通貨を活用した。

今回の実験は、期間も短く、特に高齢者の方にとっては地域通貨のシステムを理解するのに非常に時間がかかったようである。

実験に取り組んで、良かったと思うことは、住民の方に少しは地域通貨というものを理解してもらえたことだ。また、高齢者が登録し主に利用されたことだ。

今回は、地域の商店の振興も目的のひとつであった。従って、地域通貨は商店でも使えるようにした。

しかし、これについては、地域通貨を全部商店で使ったらただの金券になるんじゃないかなど、商店街とのかかわり方については大変議論があった。そういったものは地域通貨の趣旨にそったものではないのではないかと、逆に地域振興の観点も必要だと、賛否両論であった。

しかし、いろいろ課題が出てきたらその都度ワイワイと皆で議論し、次につなげていこうといったスタンスで実験に取り組んできた。

実験を通じて、地域通貨は地域活動の活性化につながると思った。今後も検討を重ねて、こういった取り組みを続けていきたい。

## 《 質 疑 》

質問 120名の参加者の中に、商店は入っているのか。

回答 含んで120名である。

質問 取引はどうするのか。

回答 取引は事務局が仲介した。サービス目録を作成し、マッチングを行った。取引の額はサービスの当事者間できめることにした。サービスメニューの更新は毎月行った。

## 【 農・都共生ネットこうべの報告 】

平成10年に神戸で「トンボ市民サミット」が開催された。身近な存在としてトンボをシンボルにし、人と自然の共生を模索する催しである。

「農・都共生ネットこうべ」は、その実行委員会のメンバーを中心として結成された組織である。トンボを始めとし、たくさんの生き物が住めるような町づくりをしていこうというのが活動趣旨である。平成11年5月に発足し、西区木見地区の休

耕田2000立米を借りて、実際にお米づくりをしながら子供たちなどと農業体験を通し、いろいろな問題を考えていく場として「田んぼの楽校」というものを設けた。

発足から、ちょうど1年たったとき、「田んぼの楽校」でできた稲わらを使い地域通貨「こおみ」を作った。

「こおみ」には、農と都市の共生をイメージするイラストを入れた。平成12年に導入したが、当初はあまり活用されなかった。

田んぼでの作業は夏場が暑くて大変である。草刈や草引きはたいへんな作業である。しかし、稲刈りや収穫時など楽しい時には、たくさんの方がやってくるが草刈などへの参加は少ない。そのギャップを埋めるため、たくさん協力してくれた人が報われるようなシステムをつくらう、そういった人が、たくさん収穫物がもらえるように、またサービスが受けられるようにといった考えから地域通貨を導入した。

このように、田んぼに多くの市民の方に来てもらうことがそもそもの大きな目的でもある。

助成金を申請した理由は、会員間で流通していたものを更に拡大し、西区木見地区周辺の農家やニュータウンの住民にも広げたい、いろいろな方に入ってもらおうということだった。

通貨の単位は、「田んぼの楽校」で獲れたお米1キロを100こおみとした。

「田んぼの楽校」の収穫物を購入したり、会員間の人間関係の部分で工夫して、生き物博士やわら細工博士、納豆づくり博士など、主に農にかかわるようなもので知恵や知識を活用することを中心にやってきた。

課題としては、「こおみ」で収穫したお米やレンコンが買えるということで、お金と同じように考えられてしまうことである。

わら細工や納豆づくり教室を行った時に、参加

費を地域通貨としたが、「それは高い」や、「それは安い」など、お金的な感覚になってしまった。

お金と「こおみ」との関係性をどう考えるのが難しい。

地域通貨をつかって、都市と農の交流をすすめることは可能だと思う。円で換算できない農や田んぼの価値を、なんとか地域通貨で表現できないのかと考えている。田んぼに咲くスミレなど四季の花や田んぼの涼しい風、お金で買えない農の価値を評価できるようにしていきたい。

今年度は10万こおみを発行した。ちょうど、田んぼの楽校の収穫量に合致している。

#### 《 質 疑 》

質問 取引はどういったかたちでされているのか。

回答 主に、月に2回の「田んぼの楽校」に参加した時に、各自が、そこでやりとりしている。シーズン中は4回程あるが、そういった活動の機会がある時に取引している。しかしまだまだ少ないのが現状。

#### 【 講 評 (小西 康生) 】

地域通貨には、「タイムダラー」「LETS」などいろんなタイプがある。地域によって様々な特色があるし、その環境に応じて、そこにふさわしいシステムを自分たちで見つけ出したら良い。

他地域の事例は取組みのヒントにはなるが、そのやり方がある場所で成功したからといって、また別の場所でも成功するといったものではない。

今回の取組みでも、入会金は無料のものから、200円、300円などいろいろある。

いろんなものがあっていいと思う。それに納得した人たちがその地域通貨に参加すればよいと思

う。

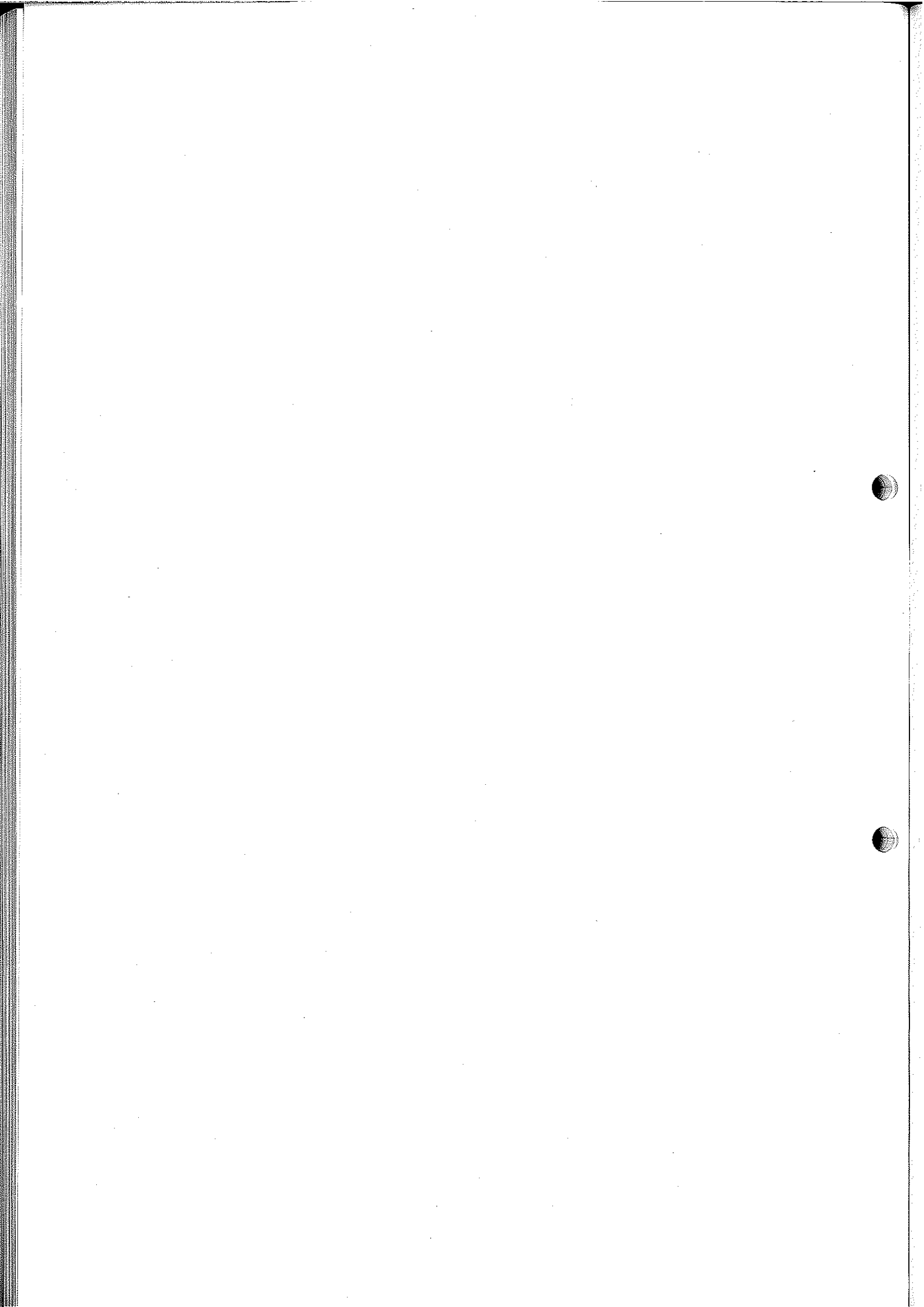
「あそこはこうだけど、あれは違うんじゃないか」などと批判するのはおかしいと思う。

しかし、考えなくてはいけないのは事務局機能だろう。オーストラリアの「ブルーマウンテン」が頓挫している大きな理由のひとつとして事務局のスタッフが過重な労働になって、やっていけなくなったと言われている。

また、地域通貨を続けていくと、ひとつのグループでは納まりきらなくなることもでてくる。そうなった場合、内と外との取引をどうしていくのかも考えていく必要がある。

ファウンダーやコアな人がやっているうちに、フォロアーをどう養成していくのか考えていく必要がある。これは、その地域通貨が継続していくかどうかのポイントになると思う。

地域通貨は、時々刻々と発展、成長していく取り組みである。地域通貨を目的化するとおかしくなる。地域課題に取り組む人はこれをひとつの道具として、あくまで道具として考える必要がある。目的には、地域の活性化というものもあれば、コミュニティの再生もある。その目的に合わせてそれぞれが工夫していかなければならない。



(資 料 1)

兵庫県における地域通貨の取組み事例

U S A

REPRODUCTION OF THIS DOCUMENT



## 取組み事例（１）

名 称	かもん
形 態	紙券タイプ
流 通 地 域	神戸市（東灘区）
目 的	高齢化が進み、傾斜地が多いという地域特性を持つ神戸市東灘区鴨子ヶ原及び住吉山手地区において、地域内で運用・流通する独自の通貨により、地域の住民が知恵や労働、才能、技術を交換しあい、ボランティア活動などにおいて人と人との信頼関係を深めていく地域づくりを目的とする。
事 務 局	かもん' S21事務局 住所：神戸市東灘区鴨子ヶ原 3 丁目17-27 茅渟の浦幼稚園内 代表：畑尾 卓朗
導入開始時期	平成11年11月 高齢者世帯を対象に住民アンケートを実施 平成12年10月 「かもん」発足
単 位	1かもん=30分のサービス
兌換性の有無	無
参加規模	会員数=32名
参加方法及び仕組み	<参加方法> ・入会時に入会金1,000円と月会費200円×12ヶ月分を事務局に支払い。併せてサービスメニューを提示する。入会時に24かもん受け取る。 <取引方法> ・毎月初めにリストの更新を行い会員に公開する。 ・会員はリストを見て、直接交渉することができる。また、コーディネーターもいているので、マッチングをお願いすることも可能。
対象となるサービス	サービス・モノともに対象。 サービスリストは毎月初めに更新し、会員に通知する。
事務局の役割	・地域通貨の発行 ・コーディネート業務 ・かもんずニュースの発行（月1回発行）
そ の 他	・コアになる運営メンバーで月1回定例会を開催。 ・お互い顔の見える関係をつくり、会員間の交流を図ることを目的に、月1回「お茶の会」や「軽音楽鑑賞会」などのお楽しみ会を企画・開催している。 ・「かもん」の有効期限は1年間としている。



## 取組み事例（２）

名 称	らく
形 態	紙券タイプ
流 通 地 域	神戸市（東灘区）
目 的	<p>① 楽しく参加できる助け合い活動を、男性や学生、若いお母さんなどさまざまな年代、性別のニーズに広げる。</p> <p>② ボランティアをしている人達自身も、自分の生活上のことや家族のことなどで手助けしてもらい、名実ともに助け合う関係性を作り出すこと。</p> <p>③ 住民同士の交流の少なかった地域では、地域の人達が知りあうきっかけを作り、交流を促進し、コミュニティ形成につなげること。</p> <p>④ 将来的には商店街などとの接点の中で、生活ニーズが地域の中で満たされるような仕組みを作ること。</p>
事 務 局	<p>特定非営利活動法人 コミュニティ・サポートセンター神戸</p> <p>住所：神戸市東灘区住吉宮町2-19-21</p> <p>電話：078-841-0310</p>
導入開始時期	<p>・実験期間＝平成12年7月3日～10月3日</p> <p>・運用開始＝平成12年10月3日～</p>
単 位	<p>1らく＝30分のサービス</p> <p>1らく＝200円を目安とする。⇒モノや場の提供の場合</p>
兌換性の有無	無
参加規模	<p>&lt;実験期間&gt;</p> <p>会員総数＝14名</p> <p>実験期間内利用回数＝106回（平均利用枚数 約7.5枚／人）</p> <p>実験期間内らく発行数＝336らく</p> <p>&lt;運用期間&gt;（平成12年10月3日～平成13年3月31日の状況）</p> <p>会員総数＝21名</p> <p>利用回数＝262回（平均利用枚数 約15.4枚／人）</p> <p>らく発行数＝420らく</p>
参加方法及び仕組み	<p>&lt;入会方法&gt;</p> <p>入会申込書、「してほしいこと」「できること」メニューの登録、登録料1000円及び年会費1000円を事務局に提出する。入会時に、20らくが手渡される。</p> <p>&lt;取引方法&gt;</p> <p>・直接取引きを原則とするが、頼みにくい場合は事務局が仲介する。</p> <p>・登録リストは1か月ごとに更新する。リストは「らくステーション」で入手可能。</p>
対象となるサービス	サービス、モノともに対象
事務局の役割	入会手続き、登録リストの作成、らく市の開催など
そ の 他	<p>・紙幣の中央に会員個人の顔写真が印刷されている。会員の数だけ異なるデザインの「らく紙幣」が流通している。</p> <p>・3か月に1回「らく市」を開催し、会員間の交流を図る。</p>

## 取組み事例（3）

名 称	アスタ
形 態	紙券タイプ
流 通 地 域	・アスタくにづか1・2番館内店舗（60店舗弱） ・住民（アスタくにづか）間の取引
目 的	平成11年11月にオープンした再開ビル（アスタくにづか1・2番館）は、地下1階から3階までが商業棟で、上層階は賃貸復興住宅で構成されている。 この再開ビルにおいて、住民（高齢者の生きがい）、商業（売上の減少）、空き店舗の有効活用などの問題が発生し、それらの問題に対処するために、地域通貨を利用した商業活性化策と住民である高齢者の生きがい対策を実施することになった。
事 務 局	久二塚地区震災復興まちづくり協議会 住所：神戸市長田区腕塚町5丁目5-1-22 アスタ情報センター内 電話：078-646-1133
導入開始時期	平成12年4月29日～
単 位	100アスタ及び500アスタの2種類 ※1アスタ=1円相当
兌換性の有無	有
参加規模	—
参加方法及び仕組み	<入手方法> ①住宅の高齢者が「フードコートアスタの潮騒」でお手伝いすると、1時間あたり500アスタを入手できる。 ※現在「フードコートアスタの潮騒」は閉店。 ②「アスタふれあい倶楽部」趣味の会の講師に対しての謝礼。 ③春と秋の献血運動に協力した方に対して発行。 <発行実績> 発行額=100万アスタ余り
対象となるサービス	①施設内の加盟店でのサービスが「アスタ券」によって利用可能。 ②住民同士の助け合い。
事務局の役割	・「アスタ」の発行 ・サービス表の作成
そ の 他	名称「アスタ」の由来は、英語のUS（私たち）とTOWN（街）を組み合わせた造語。

## 取組み事例（４）

名 称	ZUKA
形 態	紙券タイプ
流 通 地 域	宝塚市
目 的	宝塚におけるまちづくりの新たな手法としてエコマネーを導入するもの。 <<第1回実験>> ① 宝塚市におけるエコマネーの有効性を検証する。 ② エコマネーの本格導入へ向け、機能面・運用面について検証を行う。 ③ 現時点で提供可能なIT（情報技術）の有効性、機能面の可能性を探る。 <<第2回実験>> 第1回の実験を踏まえ、まちづくりの手法として宝塚市全域への普及を図る。
事 務 局	宝塚NPOセンター（宝塚エコマネー実験運営委員会） 住 所：宝塚市栄町2-1-1ソリオ1 3階 T E L：0797-85-7766
導入開始時期	・第1回実験 平成12年8月10日～10月10日 ・第2回実験 平成13年6月1日～11月30日
単 位	1000ZUKA、100ZUKAの2種類。 30分のサービス=1000ZUKA
兌換性の有無	無
参 加 規 模	<<第1回実験>> 189名（4地域・2団体） <<第2回実験>>
参 加 方 法 及 び 仕 組 み	<参加方法> ・参加者には、1000ZUKA10枚及び100ZUKA10枚が配布される。参加時に、「できます」「してほしい」を登録する。 ・手持ちのZUKAがなくなったら、1000ZUKA10枚の再交付を受けることができる。 <取引方法> ・サービスメニューリストで希望のサービスがあるか確認し、当事者間で取引する。 ・サービス受け渡し時に、日時、名前、会員番号、サービス内容をZUKAに裏書きする。
対象となるサービス	サービス、モノともに対象
事務局の役割	①全体調整、視察・プレス対応 ②会員名簿・リスト作成 ③実験結果分析報告書作成
そ の 他	・宝塚NPOセンターは、情報提供、連絡調整の役割を担い、実際の運営は、まちづくり協議会をはじめ各地域運営委員会が行う。 ・タッチパネル式KIOSK端末を活用することにより、サービス運用管理の効率化、利便性の向上を図った。⇒エコマネー分野における情報技術の有効性を検証。

## 取組み事例（５）

名 称	R I V A（りば）
形 態	紙幣タイプ
流 通 地 域	加古川市
目 的	地域通貨を活用し、加古川市において住民同士の助け合いの輪を広げる。
事 務 局	加古川エコマネー実験研究会（加古川商工会議所 青年部事務局内） 住所：加古川市加古川町溝之口527-5 電話：0794-24-3355
流 通 期 間	平成13年11月3日～平成14年2月10日
単 位	30分のサービス＝1000りば（目安）
兌換性の有無	無
参 加 規 模	50名
参 加 方 法 及 び 仕 組 み	<p>&lt;参加方法&gt;</p> <p>申込書に名前、住所、提供できるサービス、して欲しいサービス等を記入し、事務局に申し込む。りば（1000りば＝5枚、500りば＝4枚）、会員証、会員名簿、サービスメニューが手渡される。</p> <p>&lt;取引方法&gt;</p> <p>サービスメニューから自分がしてほしい、あるいはできるサービスがあれば直接当事者とやりとりする。提供者が見つからない場合は、コーディネーターに相談する。</p>
対象となるサービス	サービスのみ対象
事務局の役割	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入会受付</li> <li>・サービスメニューの作成</li> <li>・コーディネート機能</li> </ul>
そ の 他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・加古川のリバー、リバイバルといった意味から「りば」と命名。</li> <li>・今後1次実験の結果を検証し、平成14年の夏頃に2次実験を行う予定。</li> </ul>

## 取組み事例（6）

名 称	千姫（せんひめ）
形 態	通帳タイプ（インターネット上の架空口座）
流 通 地 域	インターネットを活用しているため地域は限定されていない。
目 的	ボランティアを通し生まれる地域の絆、さらには地域を超えた人と人のつながりのきっかけづくりとして地域通貨を活用する。
事 務 局	姫路 I T エコマネーアクション千姫プロジェクト事務局 住所：姫路市新在家本町1-1-12 姫路工業大学環境人間学部 岡田真美子研究室内
流 通 期 間	第1次実験 平成13年10月9日～平成13年12月9日 第2次実験 平成13年12月10日～平成14年2月9日
単 位	30分のサービス＝1000姫（目安）
兌換性の有無	無
参 加 規 模	第1次実験＝155名 第2次実験＝180名
参 加 方 法 及 び 仕 組 み	<参加・取引方法> 千姫のホームページ上で会員登録を行い、お願いしたいことや、自分ができるサービス、受けたいサービスなどの情報を登録し、会員どうしは電子メール（携帯も可）で連絡を取り合い、対価の姫はHP上の家計簿（会員口座）でやりとりする。 ※流通実績 第1次実験 取引件数＝431件、流通額＝907,400姫
対 象 と なる サ ー ビ ス	現在は、サービスのみ対象
事 務 局 の 役 割	HPの運営・管理、各種イベントの開催
そ の 他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大きな特徴は、20～40歳代の会員が8割を占めること。</li> <li>・サービスの値段は前もって決められていない。原則として、サービスを受けた側が後日、姫を相手の口座に振り込む。サービスの受け手がサービスの値決めをする。</li> <li>・ITの活用により、途中参加、収支確認、サービスメニューの追加・変更・削除等がフレキシブルにできる。</li> <li>・主な取引は、パソコン指導、観光案内、悩み相談、他の地域通貨に比べて情報提供の割合が多いのも特徴。</li> </ul>

## 取組み事例（7）

名 称	未杜（みと）
形 態	通帳タイプ
流 通 地 域	主として氷上郡内
目 的	氷上郡内を中心として、自然と文化の織りなす豊かなコミュニティづくりを目指す。 古くから地域（氷上町新郷）に住まれている住民と、新たにその地域に引っ越してきた住民との関係づくりを「地域通貨」をツールとして行い、持続可能なコミュニティづくりを図ろうとするもの。また広く氷上郡を基盤とした住民のサービス交換のネットワークを構築しようとするもの。
事 務 局	新しいコミュニティを創造する会 住所：氷上郡氷上町新郷1574 代表：赤井俊子
導入開始時期	平成13年7月1日～
単 位	1未杜＝1円相当（あくまで目安）
兌換性の有無	無
参加規模	会員数＝約70名
参加方法及び仕組み	<入会方法> 入会金1000円を事務局に支払い、サービスメニューを提出する。※入会金の中から500円をボランティア保険に充当する。 <取引方法> 未杜サービスリストから自分がしてほしい、あるいはできるサービスがあればコーディネーターに連絡する。コーディネーターは、先方に照会し、取引が可能になった場合は、コーディネーターからその旨連絡があり、当事者間で価格等を交渉する。取引終了後は、未杜つづり（通帳）に取引を記録する。また、年に2回精算を行う。
対象となるサービス	サービス・モノとも対象
事務局の役割	・入会受付 ・サービスリストの作成 ・未杜新聞の発行 ・コーディネート機能
そ の 他	未来の森（社）といった意味から、未杜と命名。

## 取組み事例（８）

名 称	シルク
形 態	紙幣タイプ
流 通 地 域	但東町相田地区
目 的	過疎、高齢化が進展している地域において、高齢者を地域全体で支えあう助け合いシステムを構築し、住み慣れた家庭や地域で、安心して暮らせる生きがいに満ちた地域づくりを目指す。
事 務 局	相田区エコマネー運営委員会 住所：出石郡但東町出合433（但東町社会福祉協議会） 電話：0796-54-0181
流 通 期 間	平成13年10月1日～平成13年12月31日
単 位	取引1回＝1シルク
兌換性の有無	無
参 加 規 模	158名 ※20歳以上の地域（相田地区）住民
参 加 方 法 及 び 仕 組 み	<参加・取引方法> シルク5枚及びサービスメニューリストを参加者に配布し、当事者間でやりとりを行う。
対 象 と な る サ ー ビ ス	サービスのみ対象
事 務 局 の 役 割	・地域通貨の発行 ・リストの作成
そ の 他	地域通貨を活用した、高齢者の生活支援サービスシステムの構築を目指し、モデル事業として但東町相田地区で実施するもの。

(資料 2)

地域通貨関連図書



THE UNIVERSITY OF CHICAGO

PHYSICS DEPARTMENT

PHYSICS 435



## 地域通貨関連図書一覧表

図 書 名	著 者 名 等	出 版 社
エコマネー ビックバンから人間に優しい社会へ	加藤敏春	日本経済評論社
エコバンク -貨幣自由化時代への誘い-	金岡良太郎	北斗出版
可能なるコミュニズム	柄谷行人	太田出版
マネー崩壊 新しいコミュニティ通貨の誕生	ベルナルド・リエター	日本経済評論社
ボランタリー経済の誕生	金子郁容、松岡正剛、下河辺淳	実業之日本社
地域自立の経済学 第2版	中村尚司	日本評論社
21世紀の経済システム展望	ジェームズ・ロバートソン	日本経済評論社
社会的経済 近未来の社会経済システム	J・ドゥフルニ、J・Lモンソン	日本経済評論社
マイクロビジネス すべての個人的情熱から始まる	加藤敏春	講談社
創業力の条件 チャンスに満ちたマイクロビジネスの時代へ	加藤敏春	ダイヤモンド社
循環の経済学 持続可能な社会の条件	室田武、多辺田政弘、槌田敦	学陽書房
エコマネーの世界が始まる	加藤敏春	講談社
エコマネーの新世紀	加藤敏春	勁草書房
自由経済研究 第15号 [特集] 地域通貨の現在Ⅰ	ゲゼル研究会	ぱる出版
自由経済研究 第16号 [特集] 地域通貨の現在Ⅱ	ゲゼル研究会	ぱる出版
自由経済研究 第17号 [特集] 地域通貨の現在Ⅲ	ゲゼル研究会	ぱる出版

図 書 名	著 者 名 等	出 版 社
地域通貨ルネサンス まち起こしマネー戦略	トーマス・グレコ	本の泉社
だれでもわかる地域通貨入門	森野栄一、あべよしひろ、泉留維	北斗出版
最終決済なき国際通貨制度 — 「通貨の商品化」と変動相場制の帰結—	平 勝廣	日本経済評論社
エンデの遺言 「根源からお金を問うこと」	河邑厚徳+グループ現在	日本放送出版協会
地域通貨の可能性 ピーナッツ実践報告	村山和彦、塚田幸三	特定非営利活動法人 千葉まちづくりサポートセンター
ロンドンと地域通貨	デビット・ボイル	特定非営利活動法人 千葉まちづくりサポートセンター
兵庫地域研究 通巻23号		神戸新聞情報科学研究所
パン屋のお金とカジノのお金はどう違う？	廣田裕之	オーエス出版
あたたかいお金「エコマネー」—Q&Aでわかるエコマネーの使い方	加藤敏春+くりやまエコマネー研究会	日本文教社
なるほど地域通貨ナビ	丸山真人、森野栄一	北斗出版
貨幣の生態学	リチャード・ダウスウェイト	北斗出版
学芸総合誌 環 【歴史・環境・文明】	藤原良雄	藤原書店

## 地域通貨実験支援事業報告書

平成14年3月発行

発行 生活復興県民ネット事務局  
住所 神戸市中央区東川崎町1丁目1-3  
神戸クリスタルタワー10階  
電話 078-360-5888  
FAX 078-360-5887  
印刷 交友印刷株式会社  
住所 神戸市中央区港島南町5丁目4-5